男一匹ガキ大将

暴走列車を止めろの巻

第9巻

本宮ひろ志

男一匹ガキ大将

●第9巻●

本宮ひろ志

■暴走列車を止めろの巻

登場人物紹介

片目の銀次

前巻までのあらすじ

戸川万吉は、西海村に一千人の子分をもつ大番長で、ケンカがメシより大好きだ。

こじきの総大将、カスミの大三郎、坊屋光五郎と知りあった万吉は、全国のこじきを味方に引き入れ、株の世界で活躍、二億円の大金を手中にした。

だが、日本財界の大物、白川宇太郎の悪だくみで、火つけ犯人として警察に追われた万吉は、赤姫山に籠城し、その名を全国に響かせた。

戸川万吉

綱村鉄次

あゆみ

水戸正江

岡野とも子

菊村大助

ドクター佐々木

山陰の山崎

少年院へ送られた万吉は、銀次、綱村と特少を支配する影の総部屋長、鬼頭政次に不屈のド根性で挑戦、その意外な正体に泣いた。

やがて西海村へ帰った万吉は、銀次たちに全国から男をさがすよう命令した。

四国へ行った銀次は、土佐の源蔵、まんじゅう屋藤助、どんごろすのジェンマを、一方九州へ渡った綱村は、片腕を代償に菊村大助、炎三兄弟を、山陰へとんだ松川は謎の三人をつれて西海村へ帰ってきた。

しかし、そこに待っていたものは、ワナとも知らずにあゆみと甘い恋によいしれている万吉の姿である。

危うし　万吉一家!!

目次

男一匹ガキ大将 9
暴走列車を止めろの巻

万吉ひとりぼっちの巻……8
山陰の死神の巻……27
さらば万吉一家の巻……54
死神の実力の巻……79
綱村阿修羅の巻……106
暴走列車を止めろの巻……124
運命の二十分の巻……153
恐怖の人柱の巻……178

男一匹ガキ大将

万吉ひとり ぼっちの巻

どんなことがあっても 波さん
あくまでも…… わしらの 大将じゃいっ

以前の万吉(まんきち)が どんな男だったか しらん……

だが いま…… わしらの目の前に いる男は……
ただの ボンクラに すぎん……

話にも
なにも
なりゃあ
しねえ……
現に　さっきのことは
すべて
みせてもらった
しな……

よし……
じゃあ
三日だけ
まつ……

まってくれ
いまは　親分
気が　おかしい
んだ……
おれたちが……
おれたちが
ぜったい
なんとかする……
それまで
たっ……
たのむ……

そのかわり
三日たったのちは
おれたちの
自由に　させてもらう
……
だてに
四国くんだりから
でてきたんじゃ
ねえからな……

文句あれへんな
銀次!!

そっちは……

わすれるんじゃねえぞ……

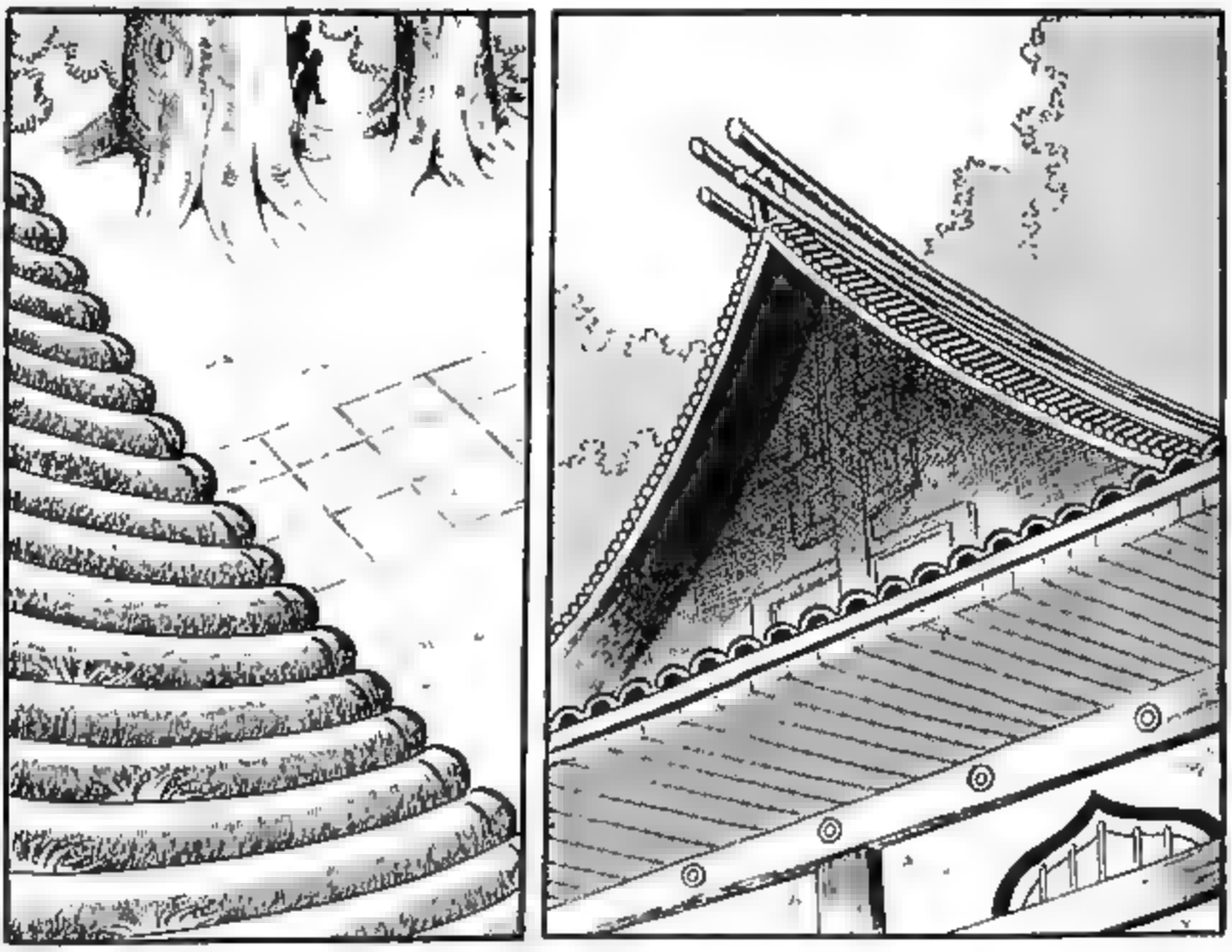
わいは
信じとるで
さいごまで
……
親分
……
帰ろうや
銀次……
さんこ～やで
綱村……
いまの
わいには
その言葉が
一番ざんこく
やでえ～～～～っ
しっ……
しかし
綱村……

あと……
三日しか……
その時は
その時や
……

うう
……
まっ…
万吉さん

にげよう
わたしと
いっしょに
東京へ
にげよう
ね…
万吉さん

万吉
さ～～～ん



ふっふ……
万吉(まんきち)の
くそガキ……
こうなっとるとは……
しらなかったぜ……

ふっふ……
ちょろいぜ……
呼びますか
大将を……
三日の間に
よべっ!
わいらの
おん大将をよ……
へっへへへ……

菊村さん……
ん……
どうします 連中……万吉に 制裁をくわえる気らしいが……
そんなことするまでもなかろう……
帰りますか……
まて……

ええ――っ
やるん
ですかい……
はっはは
とにかく…
もう少し
まで……
綱村の
腕一本
……
わしらが
一か月 時間を
つぶしても
おつりは
くる……

女に
夢中か
ふっふふ…
ン…

うっ
ふ〜〜む
どうか
したのか
いや
この前から
気になって
たんですがね
あの三人・
どこかで
あったことが
……

はっはは…
そういう連中がいてもおかしくなかろう
なにかたくらんでますぜあいつら！

まっ……べつだんいそぐこともあるまい
ゆっくり見物といこうではないか……
はっはははは

三日か……
三日ぐらいすぐだぜ……
それまでに……
くそ～～～っ
親分の男をよびさますんだ……
なんとしても……
おい松川(まつかわ)……

松川
う……
あっ
ああ……
おぬしに
聞きたい
ことがある
……

きさまの
つれてきた
あの三匹……

なんじゃい
……
あいつらは
……

かんべん
してくれ
――っ
なにが
あったん
じゃい……
うう
……
やつらあ…
あの
ガキどもは
……
この西海(さいかい)を
ねらっとる
んやあ～～～
なんだ
とお～～～っ
なぜ
そんなのを
つれて
きた……

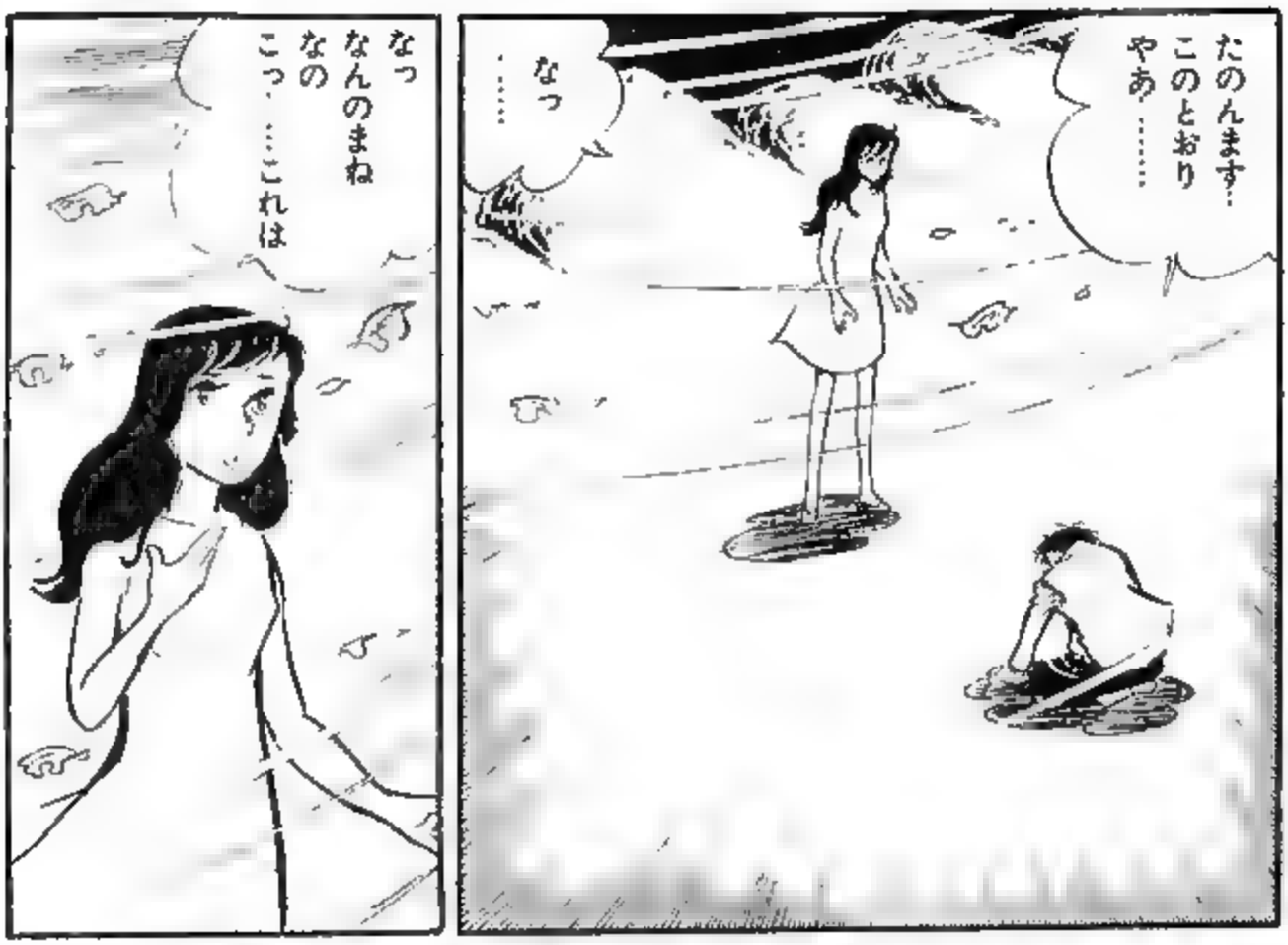
わいの力では…
わいの力では
どうにも
できんかったん
じゃあ……
大物など
ひっぱって
これん
かったん
やあ～～～
奴らあ
中国地方一帯を
ひきいて
いる……
山崎という男の
子分ども
やねん…

奴らあ
前まえから…
この西海を
ねらっとった
らしいんじゃ
しかし
親分やったら
そんなもん
絶対に　たたき
つぶせる
思ったんじゃ

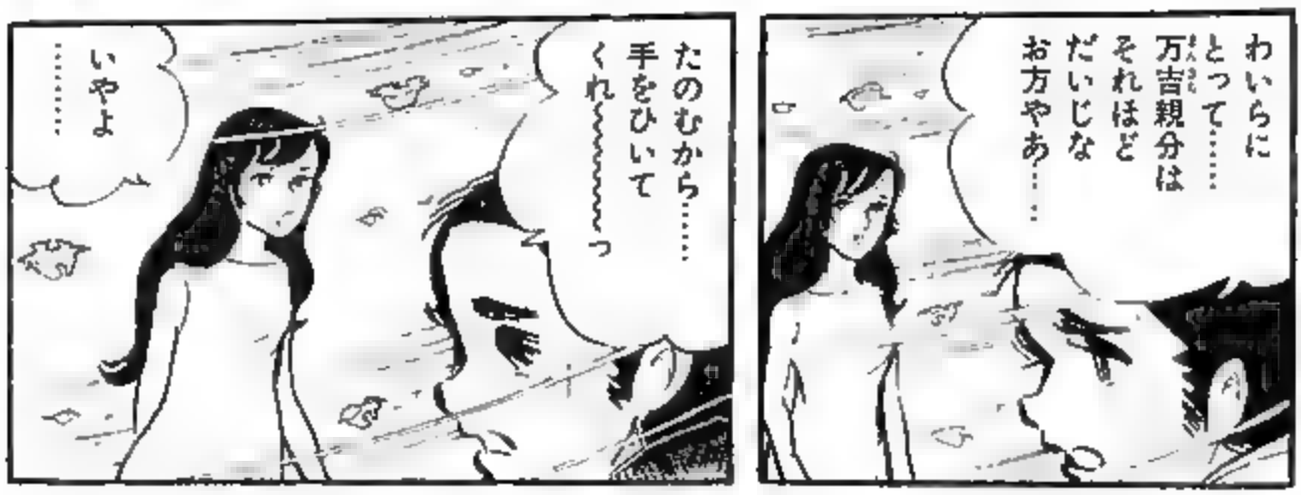
それで…
奴らが
のりこんで
くるのを
しょうちで…
つれてきた
ちゅうのんか
……
あっ…
ああ……

気にするな…
わしらとて
同じよ……
けっきょく
親分だったら
なんとか
してくれると
思い……
男どもを
集めて
きただけ
やんけ…
ふふ
……
しかし
松川……
おんどれの
不始末で……
親分の男を
めざめさす
ことが……
できる
かも
しれんぜ…

ホテル
は――い
あら……万吉さん……
あゆみは……おるけっ…
へんねえいまさっき…あなたの使いだといって…
男の子がよびにきたのよ…
なにい――っ!!


たのんます…
このとおり
やあ……
なっ
……
なっ
なんのまね
なの
こっ…これは

あんた
親分から
はなれて
どこぞへ
きえて
くれ～～～
わいかて
男や…
その男が…
こうして
両手をついて
たのんでるんや


わいらに
とって……
万吉親分は
それほど
だいじな
お方やあ……
たのむから……
手をひいて
くれ～～～～っ
いやよ
……

女には　男の人の
ために　すべてを
かけられるのよ……
わたしに　とっても
命よりだいじな人よ……
あなた方に
とっても
だいじで
しょうけど
あんたが
ふつうの
女なら
ええわ……
せやけど
あんさんは
親分を
だめにしてまう
女や……
だれにも
わたさない
……
万吉は
わたしのものよ…
だれにも
わたすもんですか
しゃあ
ない……
これほど
たのんでも
わからんの
やったら……

死んでもらう……
ええ――っ
安心せい……
おんどれ！
ひとりだけ死なさん……
わいもいっしょにいったるわい
きや――っ

あゆみ——っ
あゆみ——っ
!!
山陰の死神の巻

大将…

あゆみ——っ
あっ

おっ……
おまえら——っ
あゆみを
しらんか……
あゆみを…
しっ……
しりまへん
で——っ
そっ
そんなもん

どうした……

銀次……
おんどれ……

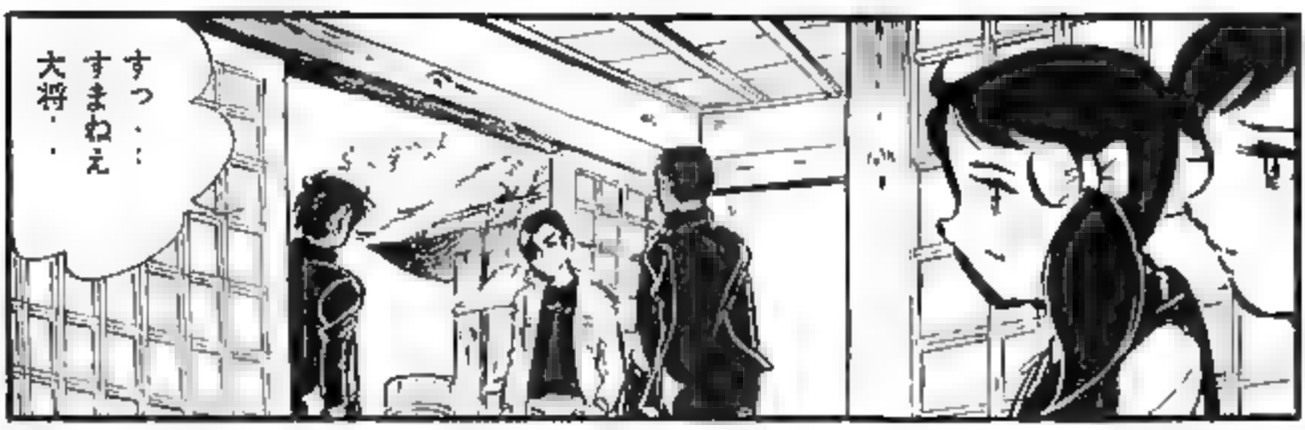
どこへやったっ!!

親分……

わいのあゆみをどこへかくしさらしやがったんじゃい

いわんかいっ
うぐっ
しらねえよ……
うそをつけっきさまら以外に……
だれがつれだすちゅうねん

そんな
くっだら
ねえこと
なんか
しるかよ
ねとぼけるん
じゃねえやい
ばかやろう!!


すっ…
すまねえ
大将…

だがよ……
そんなことより
もっと…
えれえことが
もちあがってるん
だぜ
そうや
親分…
この西海は……
ねらわれとるん
でっせ……

山陰の死神
山崎という
男に……
その山崎
ちゅうのには……
千や二千じゃ
ねえ……
五千人からの
じゃりどもが……
大将……
ダッ
あたし
いやよ
もう…
死ん
じゃい
たい…
友子
ちゃん
まつん
じゃ…

おしょうさん……
わーっ!!
はっはは……
おぬしだったらまつことができる
友子ちゃんや……

万吉はかならずたち上る……
いまのわめきようを見てそう確信した……
ふふ……
やつの血潮は女ごひとりではおさまらんわい……

その時こそ……友子ちゃん……
万吉にはおぬしのような女ごがひつようなのじゃ……

あゆみ
どこじゃ——っ
どこにいる——っ
だせいっ
あゆみを
ださんかいっ
!!
おんどれら——っ

なにを
わめいてる
んじゃ……
おぬし……
とぼける
なっ!!
きさまら
わいの…
あゆみを……
どこかへ
つれだした
やろうが……
ふっ…
ふふ…
死ねよ
きさま
……
なに
〜〜〜〜っ
きさまなど
死んじまえっ
てんだよーっ
ずばっ!!

聞けくそったれ万吉(まんきち)!!
網村が……なぜ……片腕になったと思う……
てめえは……それを考えたことがあるのかっ……

あの左腕は……
この菊村はんにてめえとあってもらう代償として……
みずからたたきおとしたんだぞっ……
なっ!!
ほっ……ほんまけ――っ
ほいよ～～～～っ

もったいねえ〜〜っ
ふふ……
おんどれにはもったいねえ——っ
子分さまじゃい

うおーっ
ばっ!!
おんどれみたいなくそったれガキにあうため
四国くんだりからでてきたかと思うと……
自分自身に腹が立つわいっ

くそ――っ!!

あきれて物もいえん…
帰るぞわしゃ
どうするまんじゅう屋どんごろす…
帰るかしょうもねえ
まてぇぇぇっ…
帰ることはわしがゆるさん
なにぃぃぃっ

菊村はん…
大将…
わしの腕にかけても、
ここは一番、さいごまでみていてもらう。
菊村はん…
なっ…なにもそこまで綱村に義理だてしなくたって…
義理ではない。

義理人情で
うごくほど
……
わしは
あまくない
……
とにかく
……

力づくでも
みんなには
のこって
もらう！

わいは
……

いまは
虫のいどころも
悪いっ……
それに
力づくでも
ってのが……
気になるぜ
……

あんたと
やりあう
気は
なかった
だがな
……

よかろう…

ここでは物がこわれる…
庭へでよう…

うう…

あゆみ〜〜〜っ

あゆみ〜〜〜っ

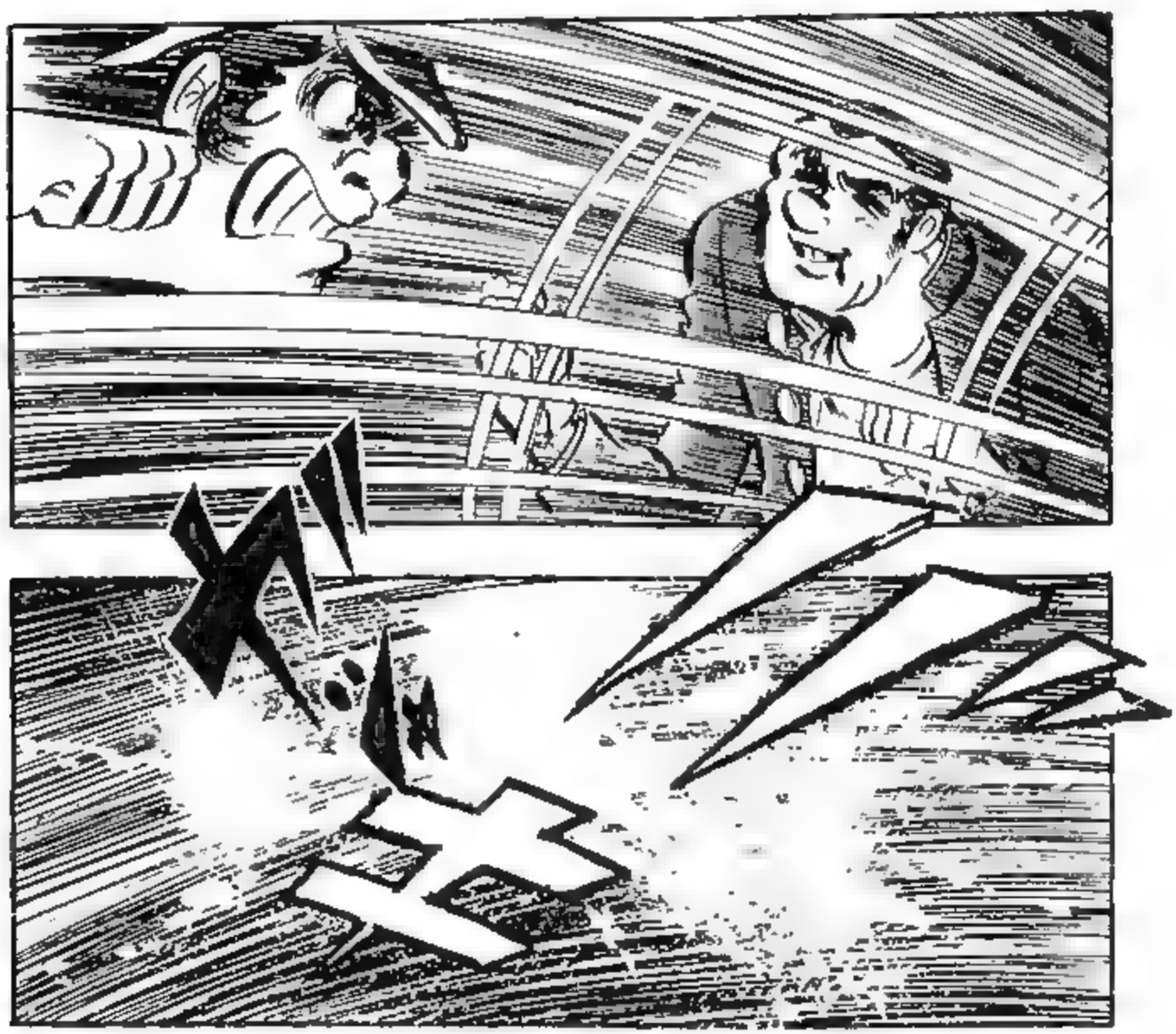
なぜ…
助けたの…
おんどれを
助けたんや
ない…
親分や…
親分やあ
〜〜〜っ
親分に
とって…
おんどれが
ほんまに
だいじなもん
やったら…
わいらより
ずっと だいじな
もんやったら
…
親分を…
かなしませる
ことになる
…

わいが
死んだって
ええねん・・
おんどれが
死んだって
ええねん
せやかて
親分だけは
かなしませ
とう・・・
なかったんや・・・

うおっ
せーいっ
ぐお
——っ

ケーッ
!!うっ
チイーッ

なっ
なんだ
おい…
九州の
菊村と
いやあ
!!
しらねえ者は
いねえと
聞いたが
ケッ
なんだい
こりゃあーっ
あゆみ
〜〜〜〜っ



あゆみ〜〜〜っ
あゆみ〜〜〜っ
ああ……
へっへっ…なかなかいいとこじゃい…
へっへっへ……

まったく
よ…
ここもやがて…山崎さんのものですね
へっへ
安田
あっ!!
すっ…すんまへん…かんべんしてください
しゃがめ…
か…かんべんしてください
しゃがまんかいっ

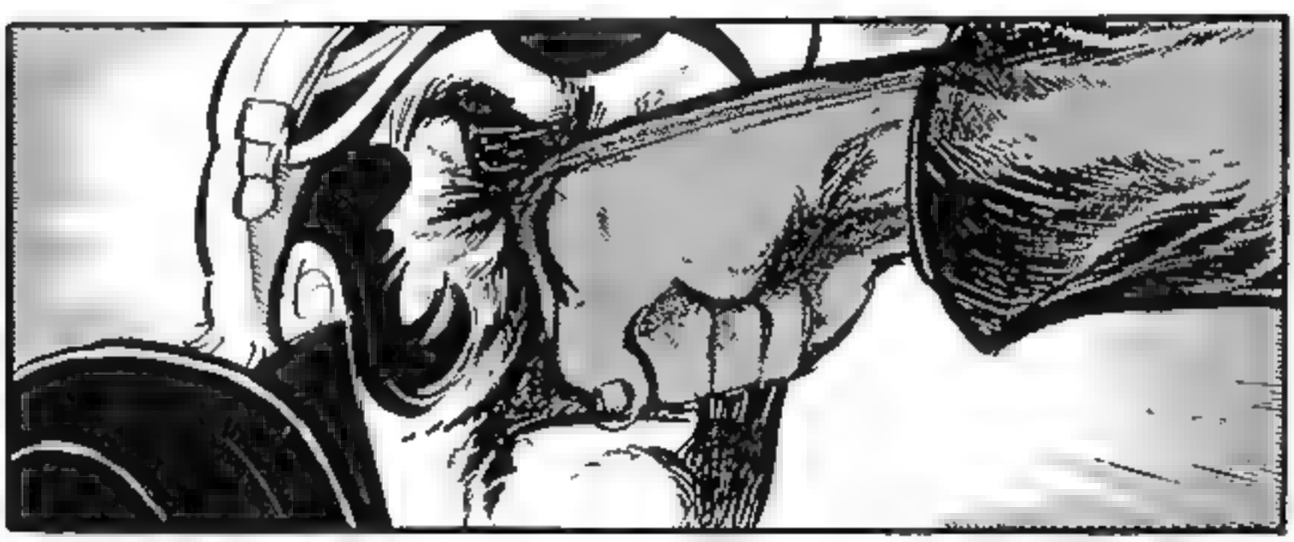
うぎっ
!!

わしより
前に
でるなと・
いってある
はずだ・・

この
山崎の
前にな・

あっ
!!
……

さらば
万吉一家の巻



やろうども
いくぜえ
――っ
万吉一家を
たたきつぶしに
よ――っ
おお
――っ
やったるでえー

あれ
みろ
ン……

なんだ
……
このやろう
……

あゆみ
〜〜〜っ

あゆみ
～～～～っ
ンッ!!

ムウ…
おれの
感ちがいか
……
なんだ…
あの野郎…
万吉を
やる前に
野郎……
血まつりに
あげたりますかい…

やめろ
むだだ

くさった
目をして
やがる…
安田
――っ

へっ
へい…
けんか状は
とどけたか…

二十分ほど
前に…
ふっふふ
西海の万吉か
!!
この山崎が
でてきた以上
おわりだぜ
てめえ…

しょうち
した……
山崎(やまざき)とやらに
そう……
つたえとけいっ

へい……
くれぐれも
時間に
おくれません
ように…
ばかやろう
万吉(まんきち)一家を
なめるな!!

失礼
しました
……
それじゃ
……

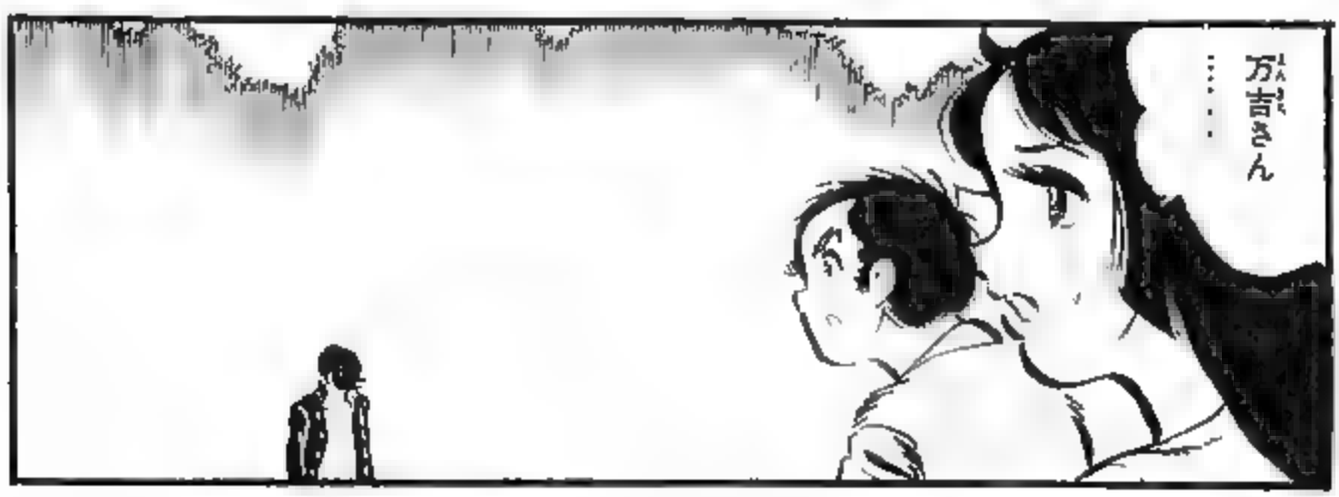
ごめん
なすって
へっへへ
へへ……

時間は……
今晩十二時
ふ～～～ん
あと五時間か…
だいじょうぶかな
万吉親分……
ばかやろう——っ
親分だ…
万吉親分だぜ……
立ち上るぜったい…
立ち上るさ……

もし…
立ち上らなんだら……
その時は……
ぶっ殺す……

松川(まつかわ)……
みんなを集めろい!!
よっしゃあ——っ

あっ


万吉さん……

ラッパさん……
行っちまえ……
親分のところへ……

行っちまえ
――っ

あっ
万吉さん……

あゆみ
――っ

う……
うぅぅぅん……
おっ…
気がついたぜ
……
すまなかった……
だいじょうぶか……

ふふ…
みっともねえな……
生まれて初めてだ……こんなみっともねえ姿は……
まけだ完全に……
あんたに一発入れた時……
ふふ……勝てねえと思った……

残ってくれるか…
ひとつだけ聞かしてくれ……
あんな万吉のどこを見て……
そこまでやるんだ……
わしにできんことをやっとる……
ああ～～～ん
わしには…女に夢中になることはできん……
かわいい子分どもがいたらなおさらな……

どんなにすばらしい人間であってもじぶんのワクからでられん奴は……
それまでじゃ……
そのワクの中で……成長は　とまる……

あの万吉……じぶんのワクなど知らん……
おそらくとどまるところをしらず上へのぼって行ける男だ……
何かやる男は……
ああいうばかでなければできん……

ばかでなければな……
だからみてみたい…
あの男が女から立ち上った時を……

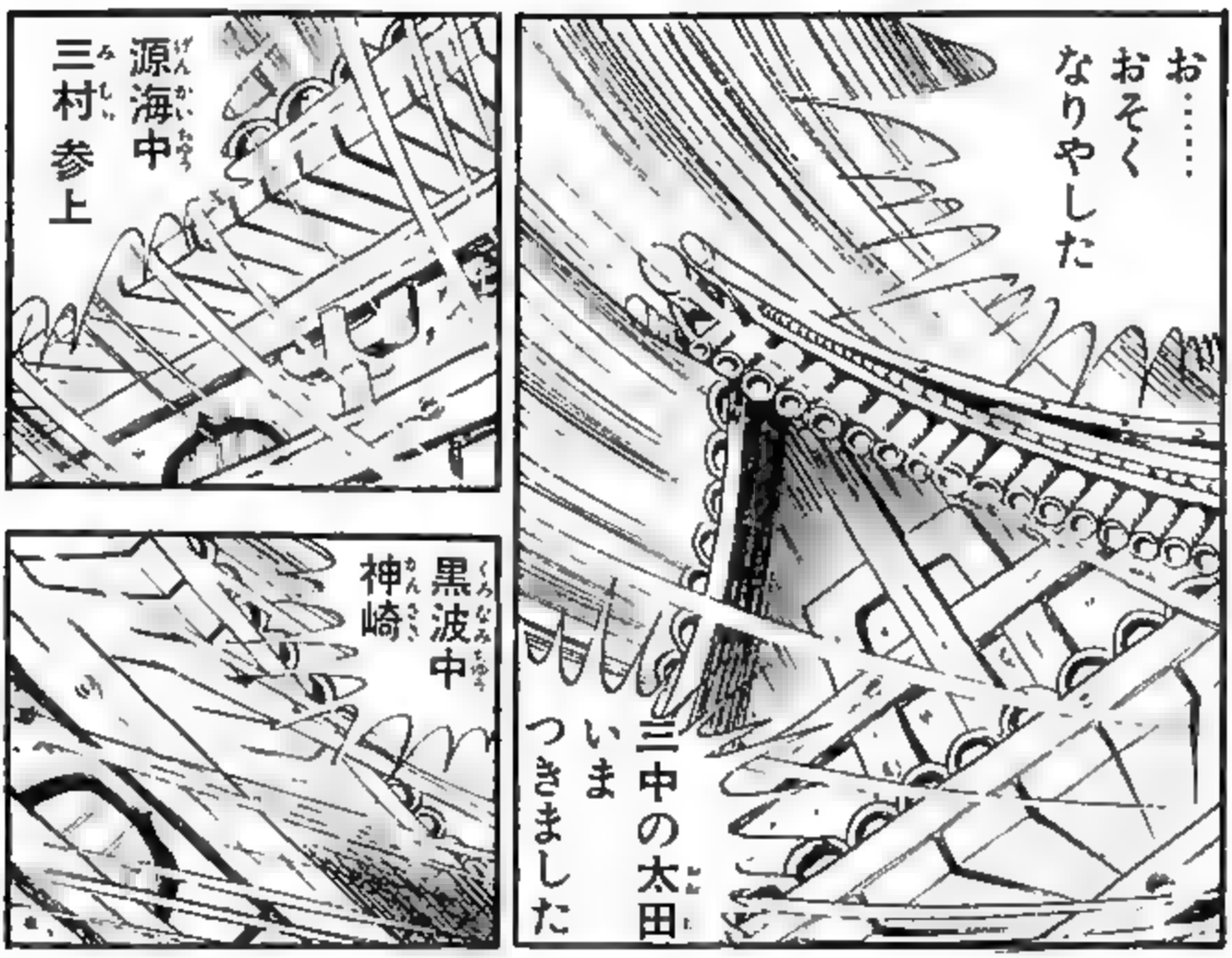
ゴォ

山崎さん…
こりゃあ
台風ですぜ…
このまま
明朝まで
ここにいるなんて
……
いったん
どこかへ
ひなんした
方が……

てめえ…
いったい
なんだ
……

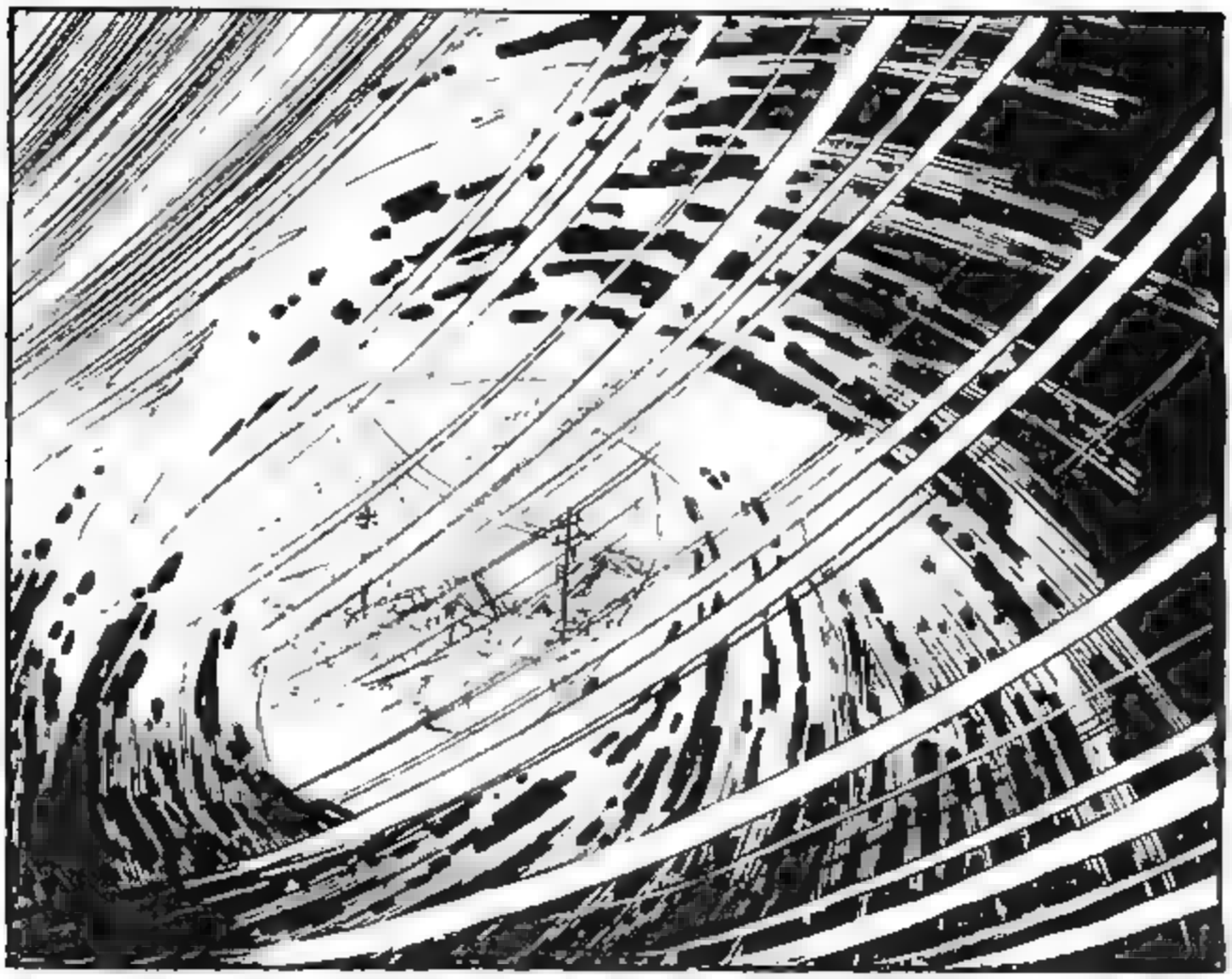
へっ…
へい
山崎さんの
子分で……

だったら
おれが　動かな
かったら……
動くんじゃね
——っ

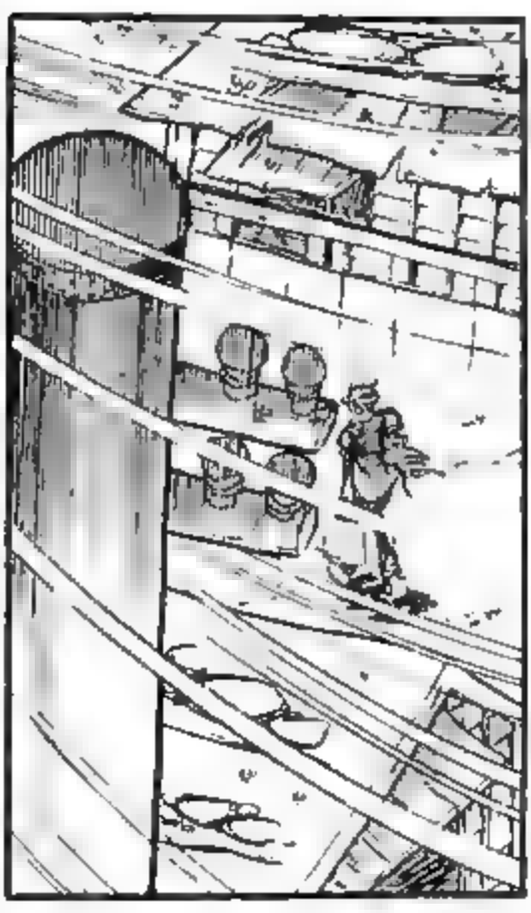

お……
おそく
なりやした
三中の太田
いま
つきました
源海中
三村参上
黒波中
神崎
ケッ
どこのガキ
だが
知らねえがよ
たっぷり
ぶちのめし
たろう
でえ――っ
西海万吉一家に
ちょう戦
してくるたあ
ええ根性さらし
とるやんか
おお
～～～さ
～～～っ

おい……
しかし…
それは
そうと
親分……
まだ
けえへんの
けっ……
ちっくしょう……
はよう
万吉親分の
やったるでえ
――っ
いう声
聞きたい
わ……
そうしたら
勇気百倍
やからな
――っ
安心せえ
――いっ
おっ
銀次
兄いっ

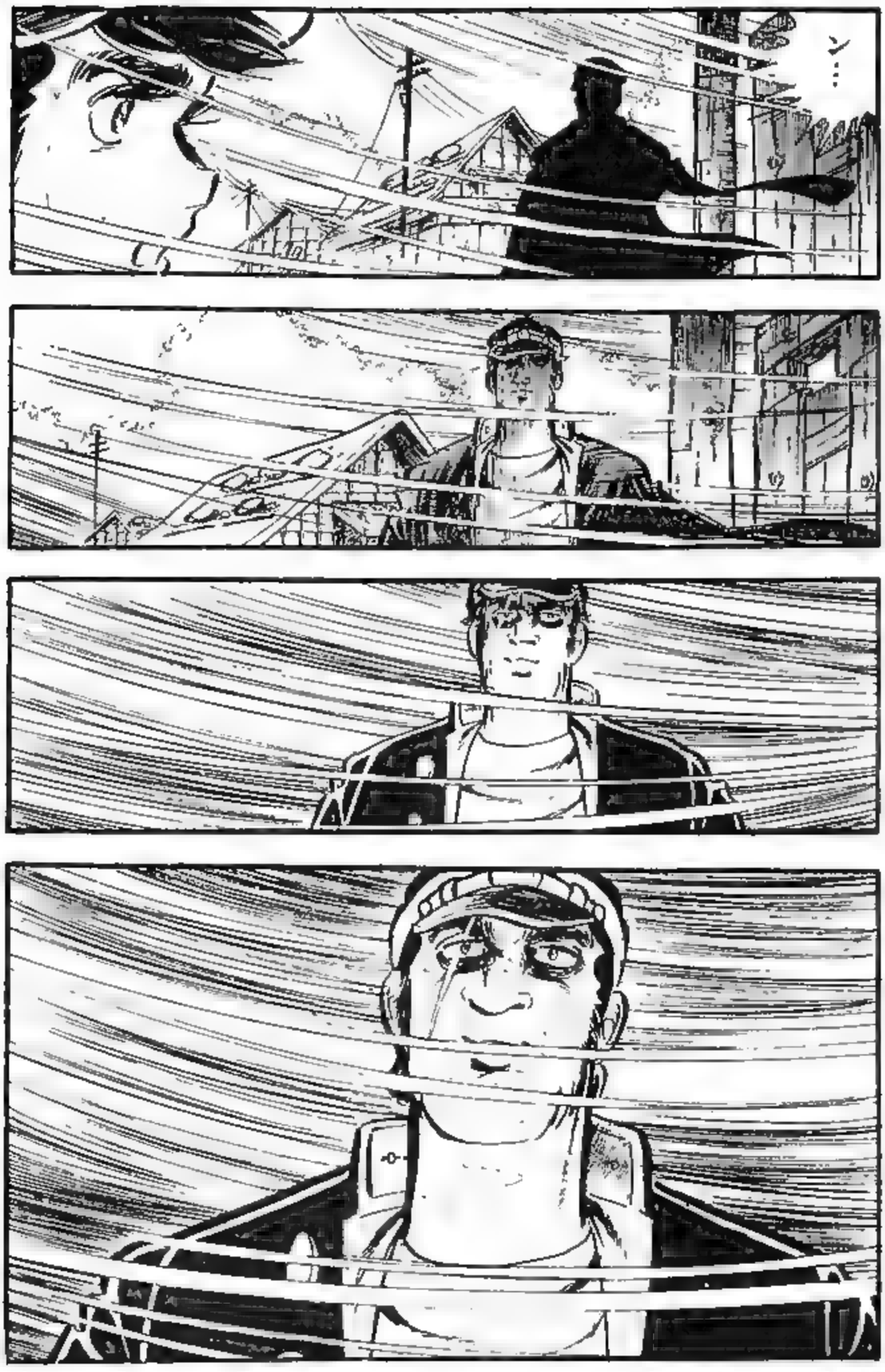
親分は　今
綱村が
つれに行ってる
それより
てめえら…
ぬかるんじゃ
ねえぜ——っ
おお
——っ
わかってる
ぜっ



だいじょうぶか……
あゆみ……
ええ……平気よ……



あなたといっしょですもの……


ン……

つ……
綱村(つなむら)…

どこへ行かはる気ィだっか…
あっちゃこっちゃきがしたんでっせえ〜〜〜
わいは……
あゆみとふたりで……東京へ行〜!!

死神の実力の巻

きゃあ!!

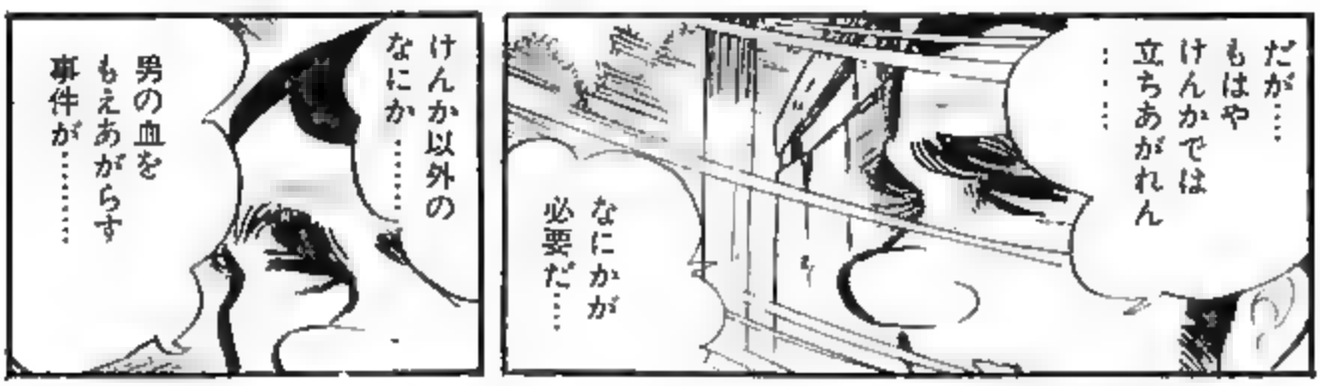
つ……
綱村……
パッ
どこへなりと
すきなところへ
……
いっち
まえ～～～っ

つな…

なにを
ぐずぐずして
いやがる…
さっさと
行っちまわん
かい!!

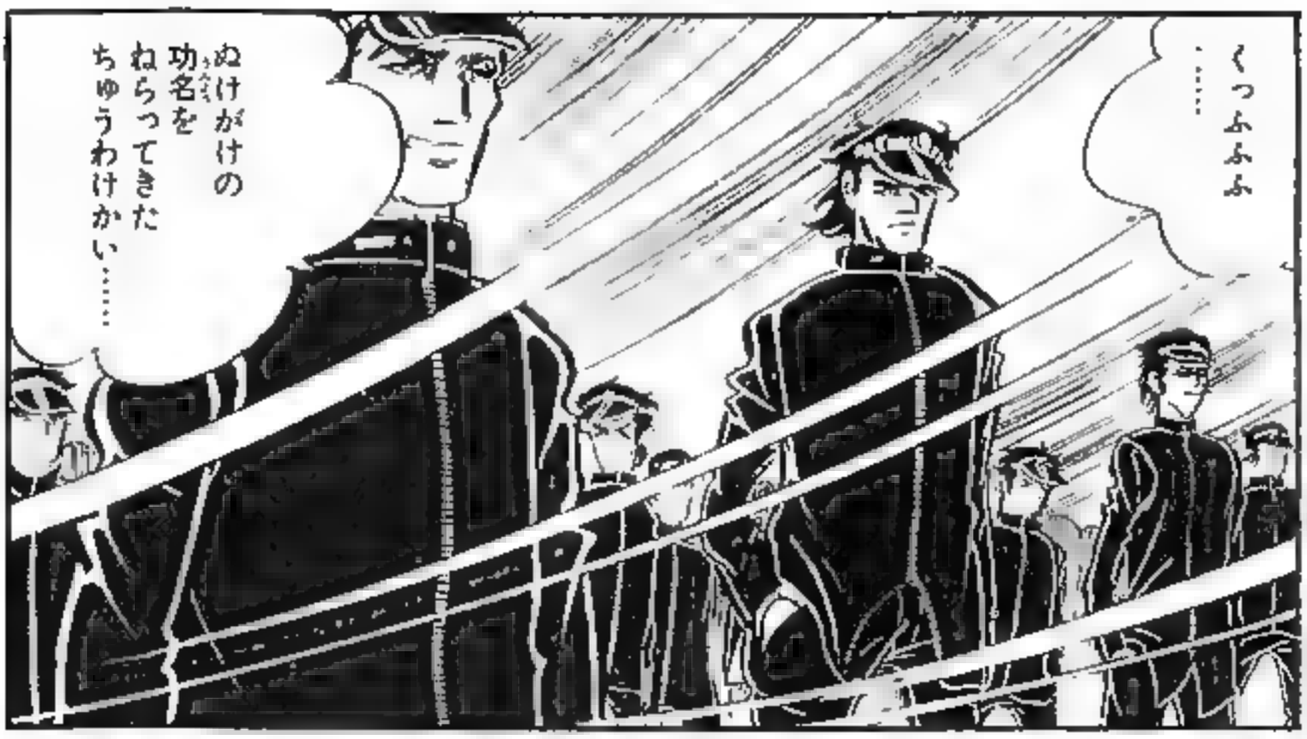
す……
すまん……
終りだ……
万吉一家はこれで……
おしまいじゃあ〜〜〜っ
おお
お〜〜〜っ

かわいそうによ～～～っ
綱村の野郎…
ふふ…万吉にとっても地獄の苦しみだろうぜ

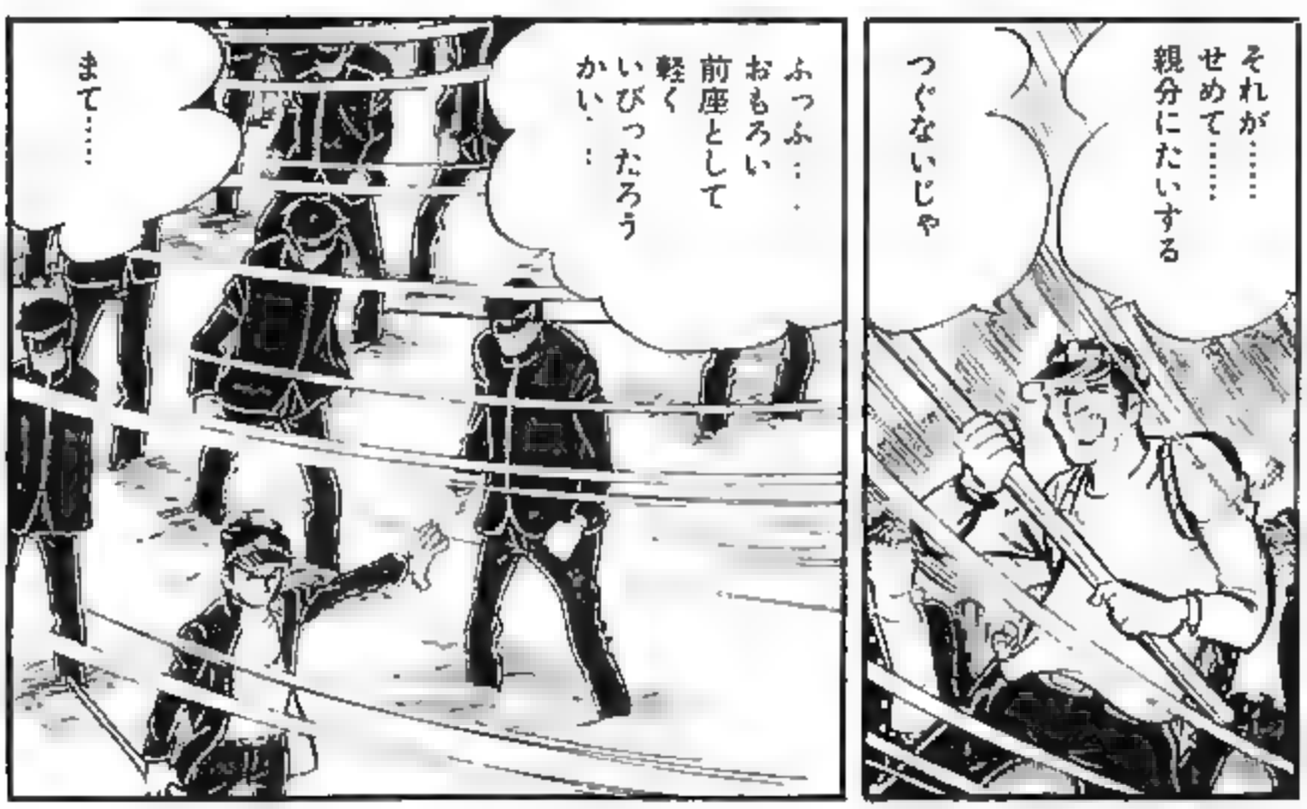

だが…もはやけんかでは立ちあがれん……
なにかが必要だ…
けんか以外のなにか……
男の血をもえあがらす事件が……

あとは運を天にまかせるのみだ……
天…
ああこの嵐だしかし……
万吉にそこまでツキがまわるかどうか……

まさか……
ささまらが
万吉一家の代表じゃ
あるまいな
ささまら
みたいな狼どもを
よびこんじ
まった
ふしまつ……
自分で　ケリを
つけたろう
思ってな……


くっふふふ……
ぬけがけの功名をねらってきたちゅうわけかい……

じゃかましい――っ


それが……せめて……親分にたいするつぐないじゃ
ふっふ……おもろい前座として軽くいびったろうかい……
まて……

わしがやる…

じゅんび運動としてかるくな……

ふっふふ……

くっ
くそ
——っ
いて
こまし
たれーいっ
おお
——っ
ムオ
——ッ

けっ
あうっ
あひい
ぎゃあ
うわーっ

うわわ
あ――っ
うっ
うう…
あおお
～～～～っ

あいかわらず
すばやい
ですね
へっへへへ
かたづけて
おけい

ケッ……
ずうたいばかり
でかいくせ
しやがって……
ばかども
めえ～～～っ

おう
――っ
綱村(つなむら)
――っ
親分
親分は
どうした
――っ
どっ
どうしたん
でえ～～～～

みんな
聞いてくれ
っ……っ
網村……

万吉一家は
今晩をもって
!!
解散じゃい
!!

ええ～～～っ
な……
なんだっ
てえ……
そっ…!
そんな
アホな…

ごちゃ
ごちゃ
ぬかすな
――っ
今晩のけんかは
万吉一家さいごの
けんかじゃいっ

ええかっ!!
この西海を
ねらって
ガタついてる
野郎どもに
思いしらせて
やるんじゃい

一匹たりとも
生きて
帰すんじゃ
ね――っ
それが万吉一家
さいごの面目
だ――っ!!

当駅
9時20分発
新大阪行き……
まもなく
発車に
なります
……
C54
なお……
この列車は
新大阪発
東京行き
ひかり
最終列車に
れんらく
いたします
……
いよいよ
わたしたちだけに
なれるのね……
万吉さん……
あっ……
ああ……
ちょっ……
ちょっと
トイレに
行ってくるわ
……

TOILET
使用中
うう…
う……
う～～～
あ
あ～～～
あう～～～～っ

もはや……
親分は……
いない……

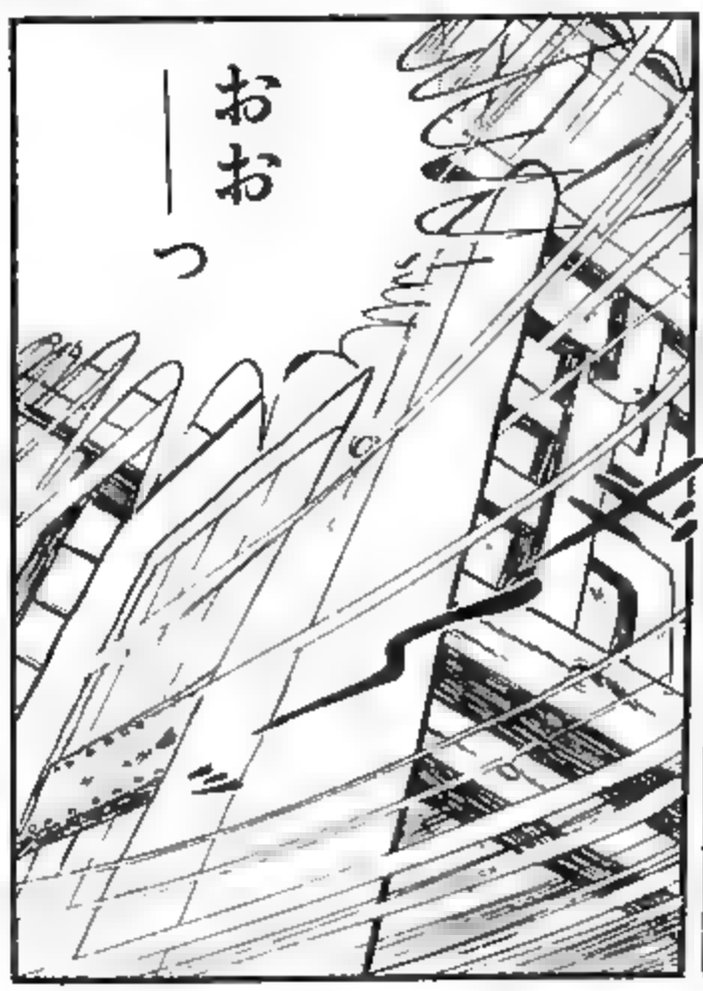
だが……
さいごまで……
万吉一家は
本物で
ぶっつぶれてえ……
だから……
けして
強制はせん……

くるかい……
万吉一家……
さいごの
けんかに……

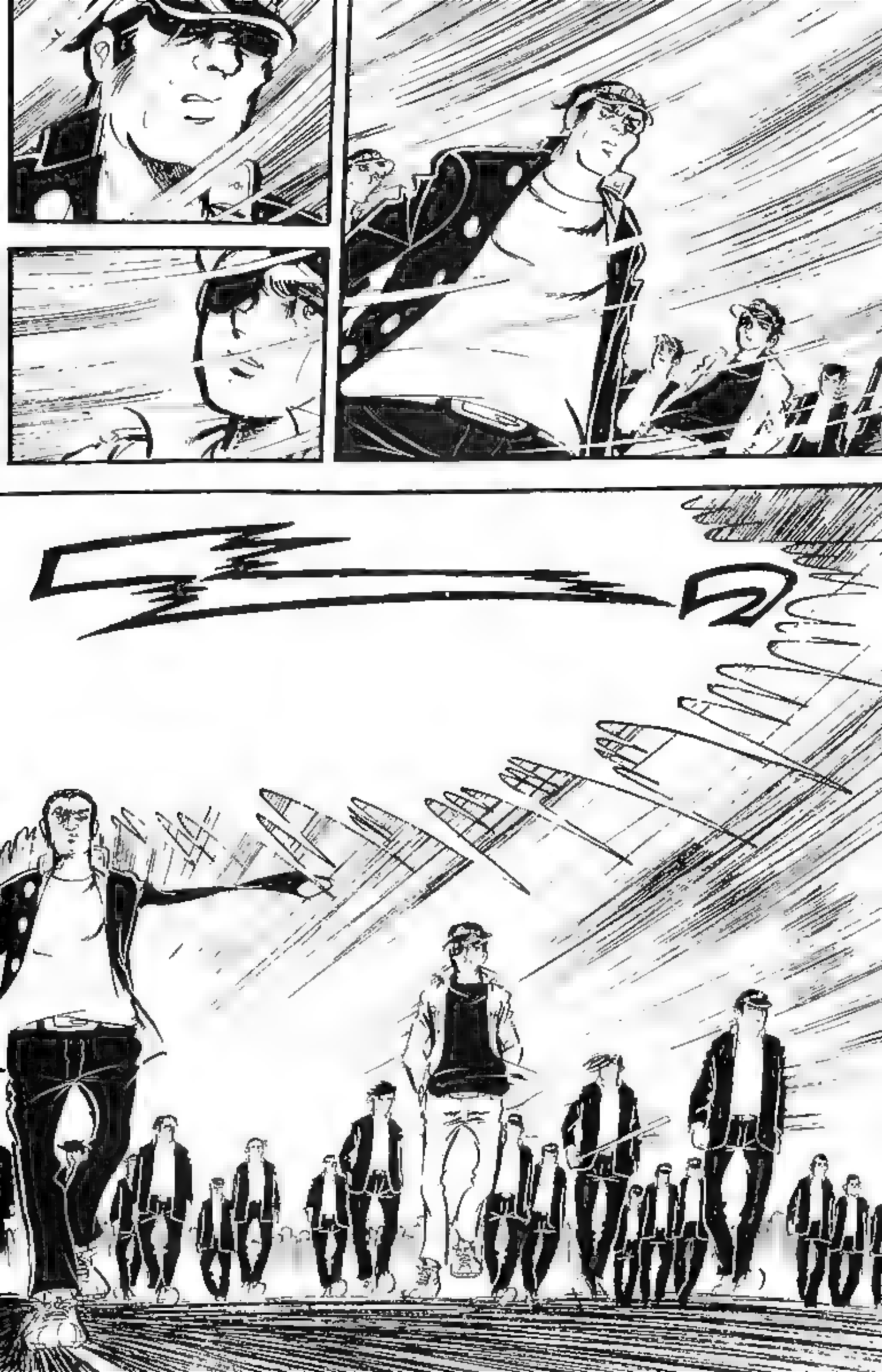
けーっ
やぼなこと
聞くな!!

万吉一家の
底力を
見せたる
でえ——っ
わいら
だけでも
さいごの花を
かざったろうや
ないけーっ

おおー
話は
きまった
てめえらの
命は
あずかる
行くぜ
——っ


おお
——っ

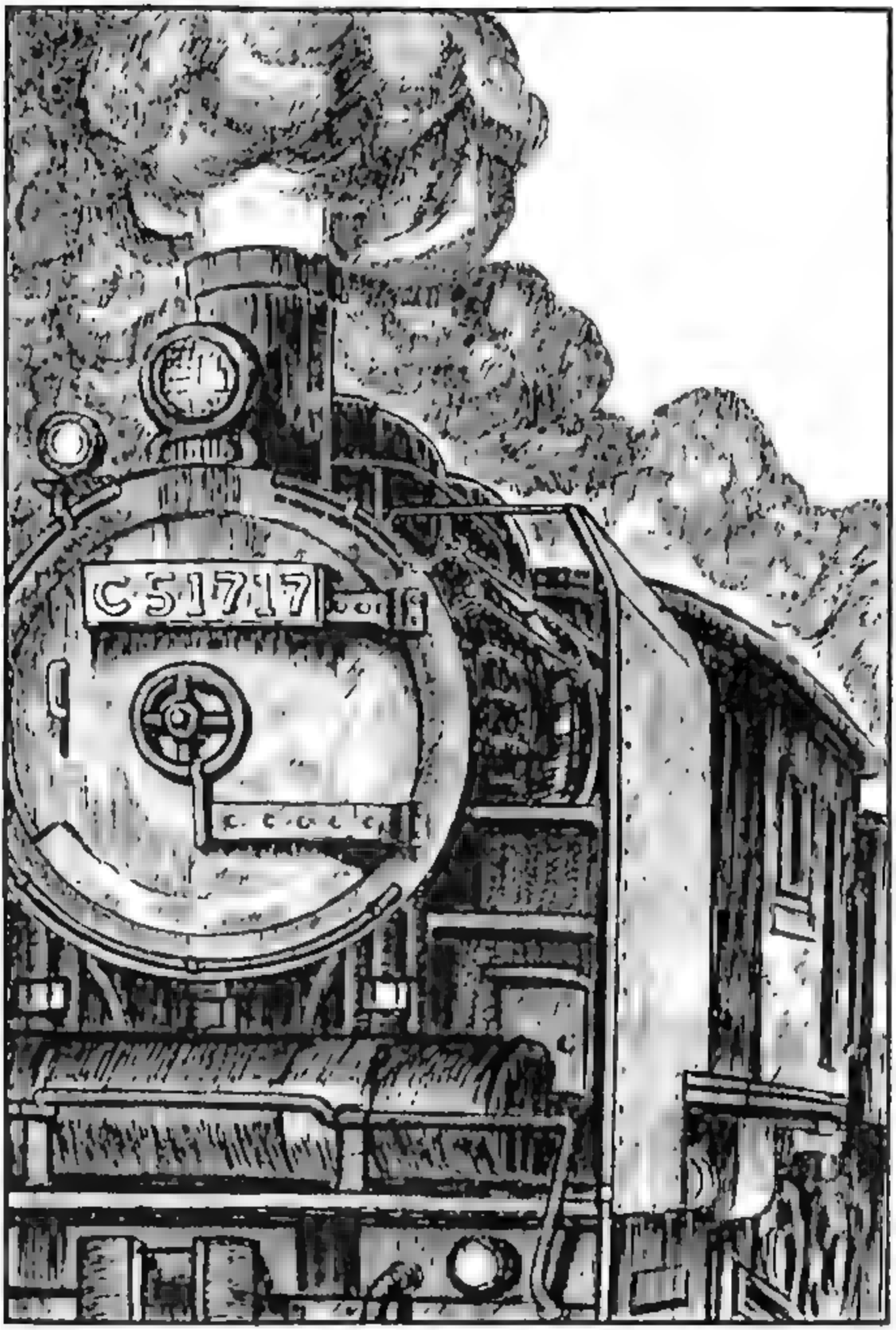
先鋒隊
村田について
三百人
おお
ーっ
本隊が
行くまで
動くんじゃ
ねえぞ
よっしゃ
あーっ
!!
奴らの
うしろへ
まわれーっ



みな殺しにしてやる
ゼェ
ゼェ
おおお

綱村……
死ぬ気だな…てめえ……
つきあうぜこの銀次さまもよお～～～っ

ガタン
ガタン
ゴゴゴ


C 51717

これも 何かの縁だ…
行くか…

万吉のためにか…
ぬかせーっ 綱村のためだ…

綱村阿修羅の巻

ガタン
ガタタッ

すっ…すげえ…
すげえ大軍ですぜ奴ら…

たっ…
ただ……
大将……
おたおた
するんじゃ
ねえ
――っ

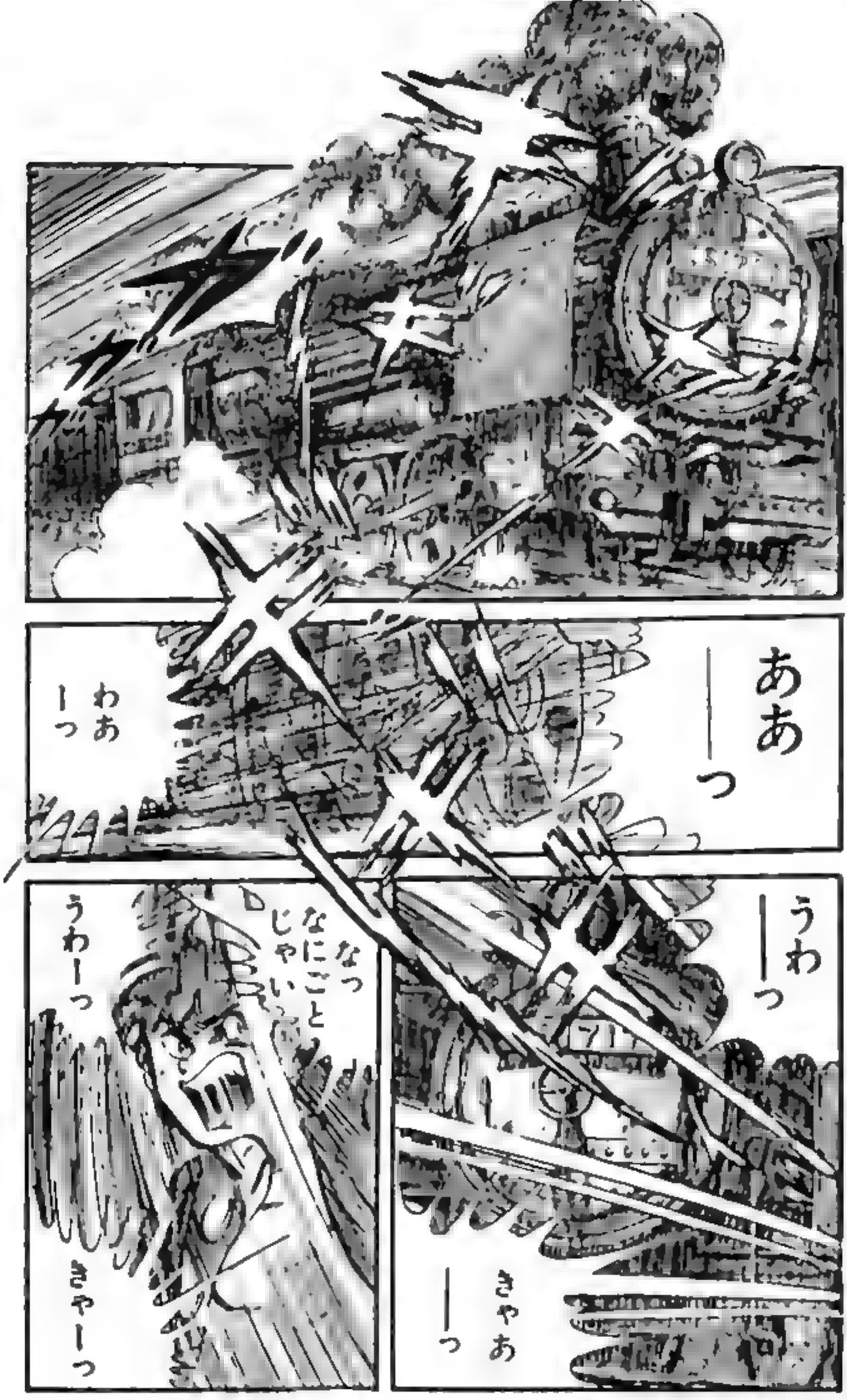
おのれが
万吉か……
でっけえの…

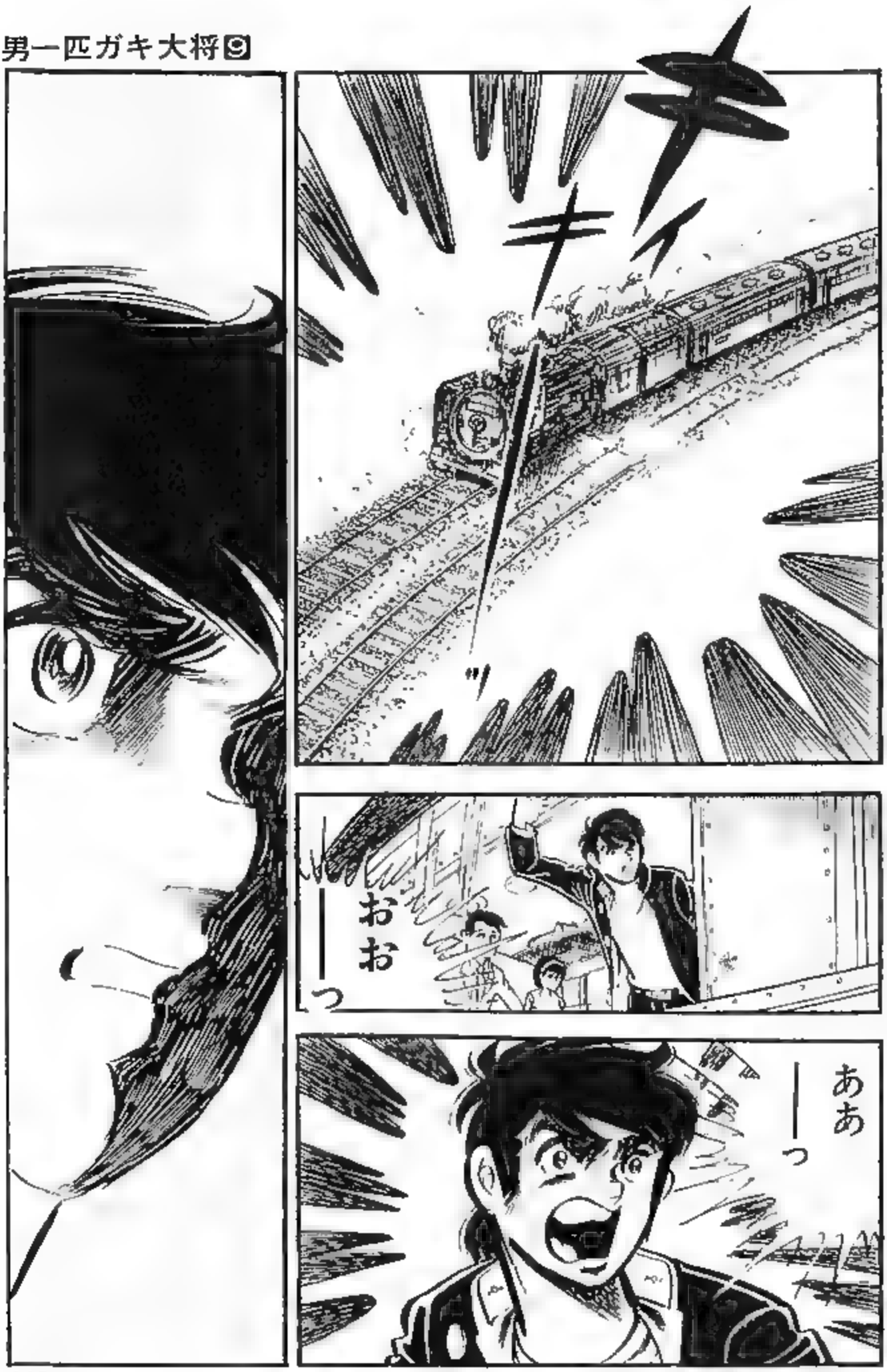
おんどれが
ねらっとるのんは
この西海
やろっ……
だれが
だろうと
かんけい
あるまい……
万吉

ちげえ
ねえ…
ふっふふ
……

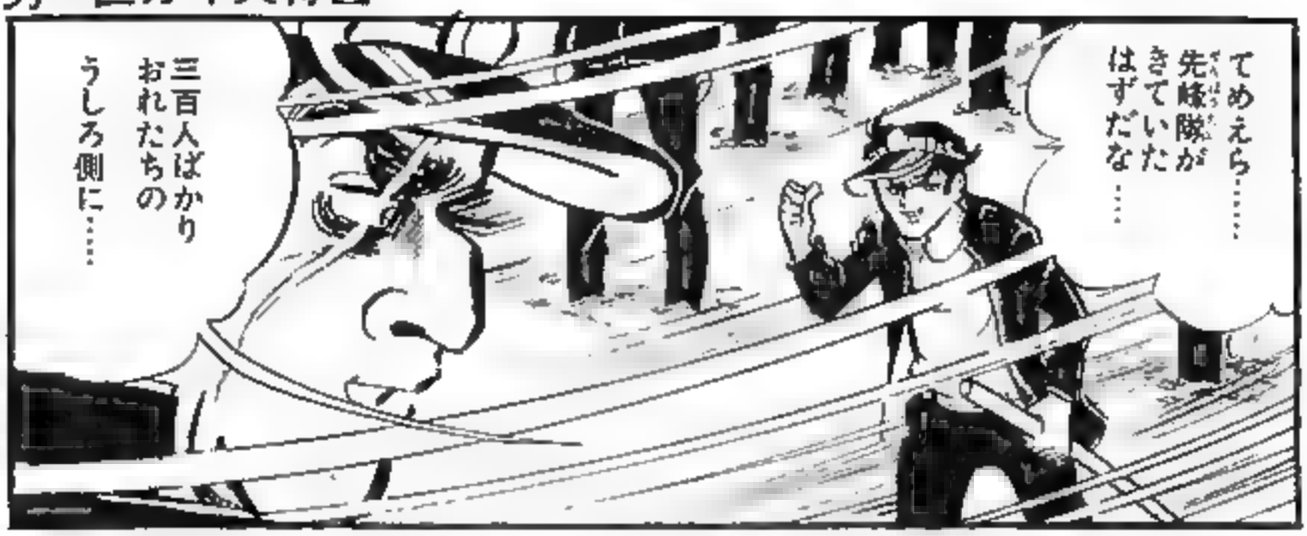
ふっふふ…
どちびが
何をぬかす…

おれにとっちゃ
だれが
だれだろう
と……
たたき
のめすのみだ
……


ああ——っ
わあーっ
うわ——っ
きゃあ——っ
なっ なにごと じゃい
うわーっ
きゃーっ


おお——っ
ああ——っ

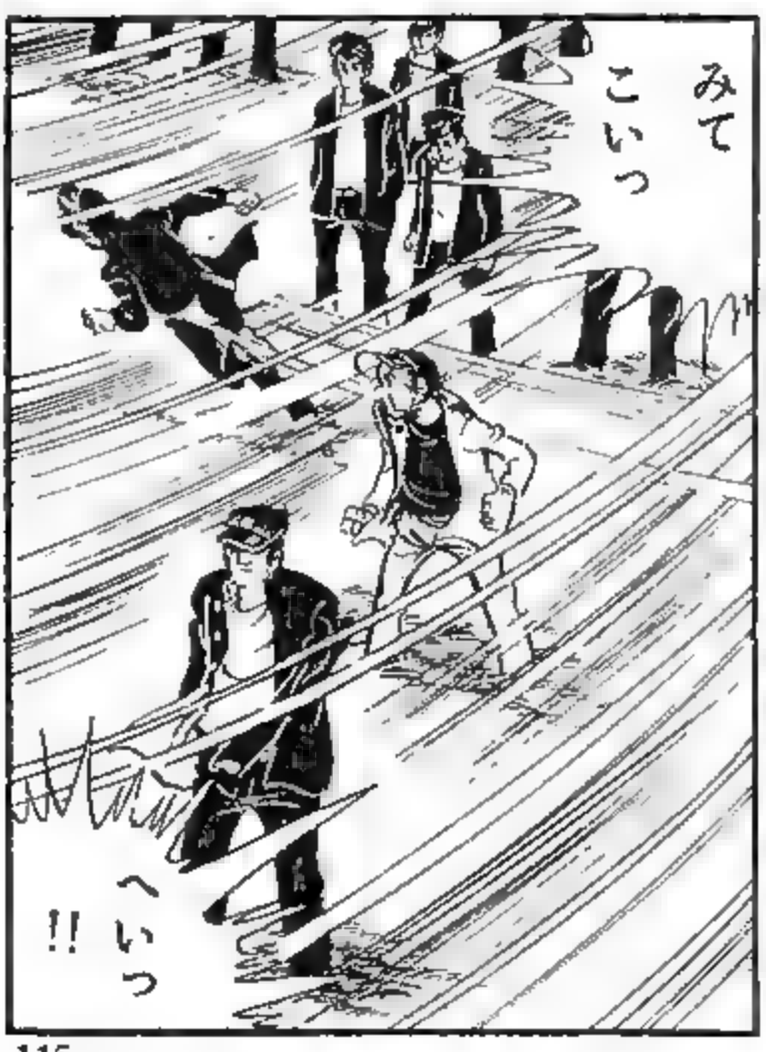
ふっふふ……
ははは……
はっは
はは……
うわあっ
ははは
——っ
うわあっ
ははーっ
そのどちびにどれほどの力があるかよおく みやがれうどの大木どもめ——っ
ふっふふ
ふ……


てめえら……
先峰隊がきていたはずだな……
三百人ばかりおれたちのうしろ側に……

ふっふふ……
ふふふ……
ふへへへへ……

どうなってるか見てみやがれっ

なにい——っ

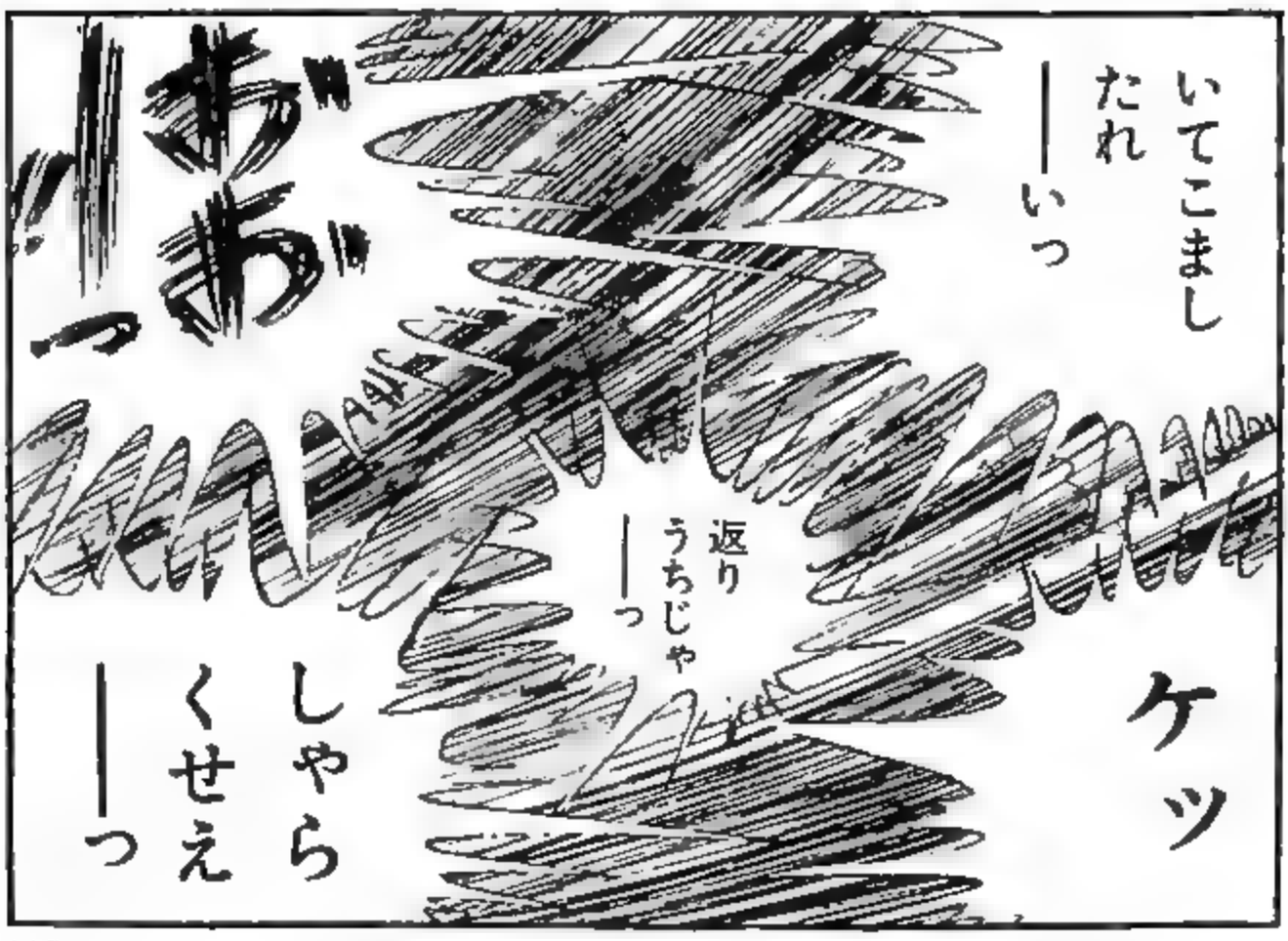

みてこいっ
へいっ!!

うわ
——っ

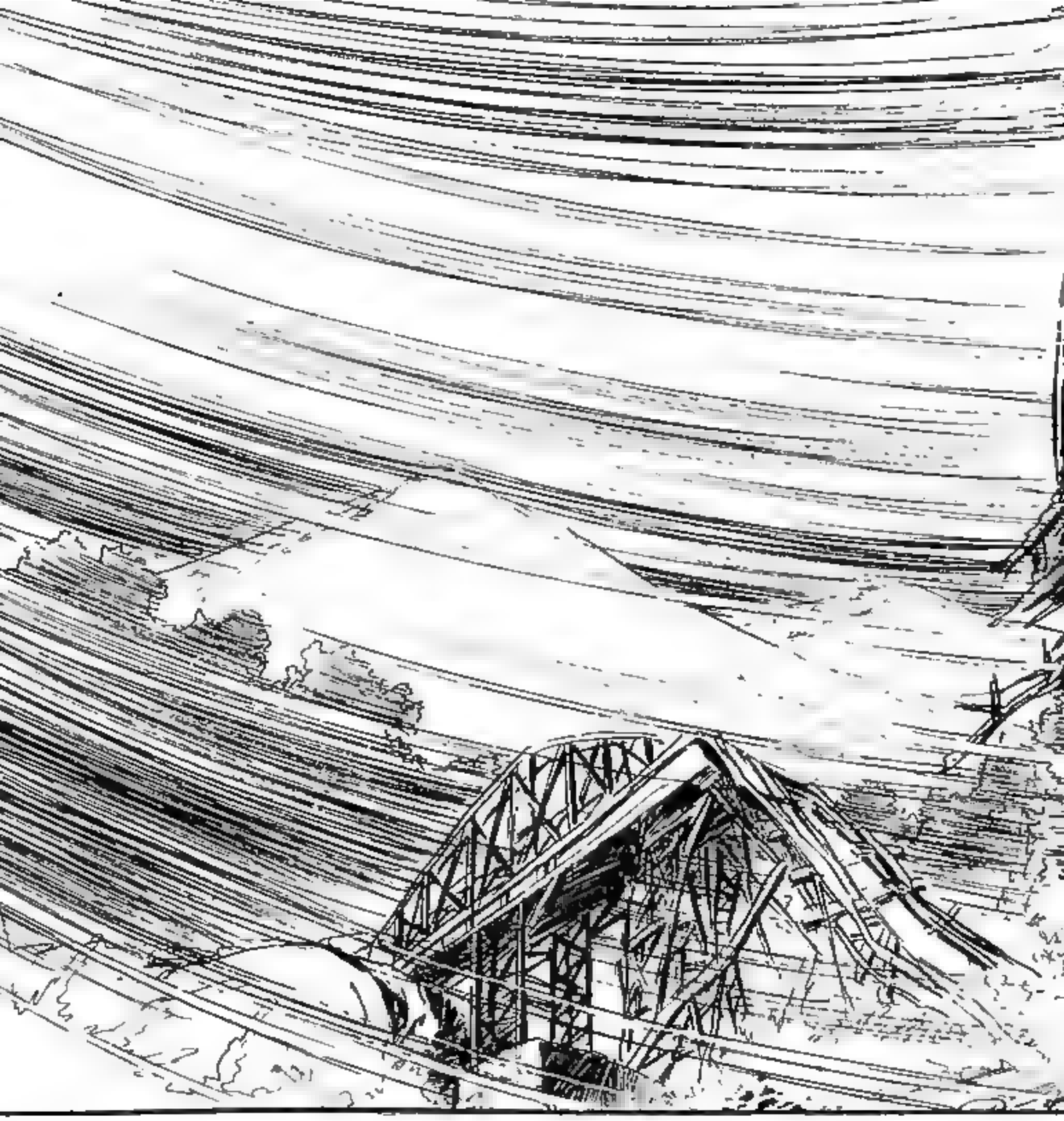
銀次兄いっ
全員
のばされて
まっせえっ
なっ
!!

うへへへ
へへ……
うっひひひ
ひひ……

死ぬぜ……
ああ……
このけんか死人がでるぜえ～～っ
ぶっ殺してやる……
おんどれら～～っみな殺しじゃい――っ


いてこましたれ――いっ
ぎゃあっ
返りうちじゃ――っ
ケッしゃらくせえ――っ

どっ……
どうしたの
……
鉄橋(てっきょう)が
くずれ
とんのや
……



でも
どうなるのかしら
この汽車
このまま　ここで
夜明かしかしら
……
あ……
ああ……
たぶんな……

ふう～～っ
あぶないところ
やった
でえ～～っ
ええ
～～っ

なにをやっちょんじゃ
すっ…すみません、みなさん……
わいら…このままここへおいてけぼりかいな…
まことにあいすみません。
すぐ西海へひきかえしますので……
あっ……あの……いまれんらくがはいりまして……
ン…
なにい——っ

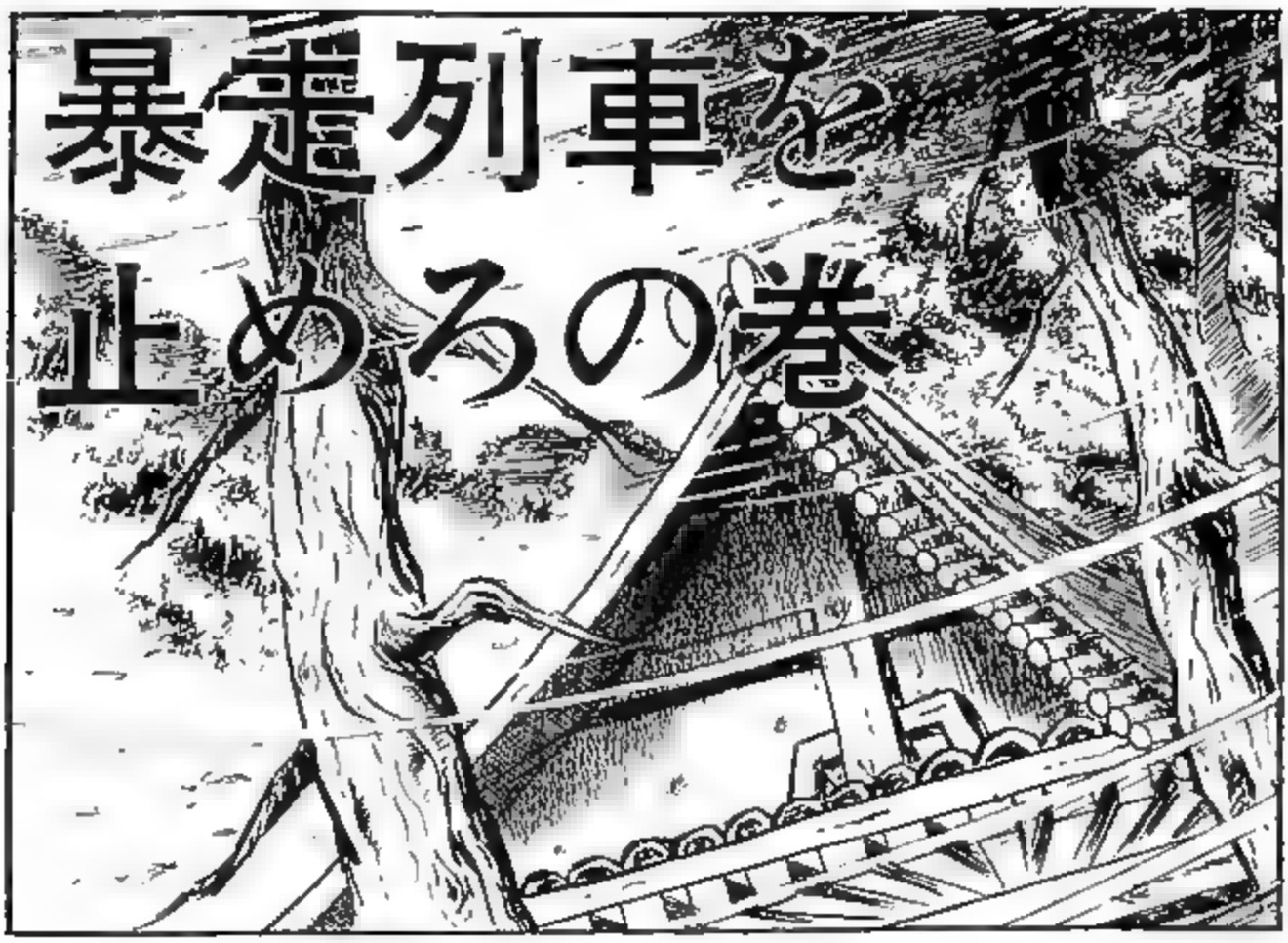
下りの列車がブレーキの故障で暴走だと……

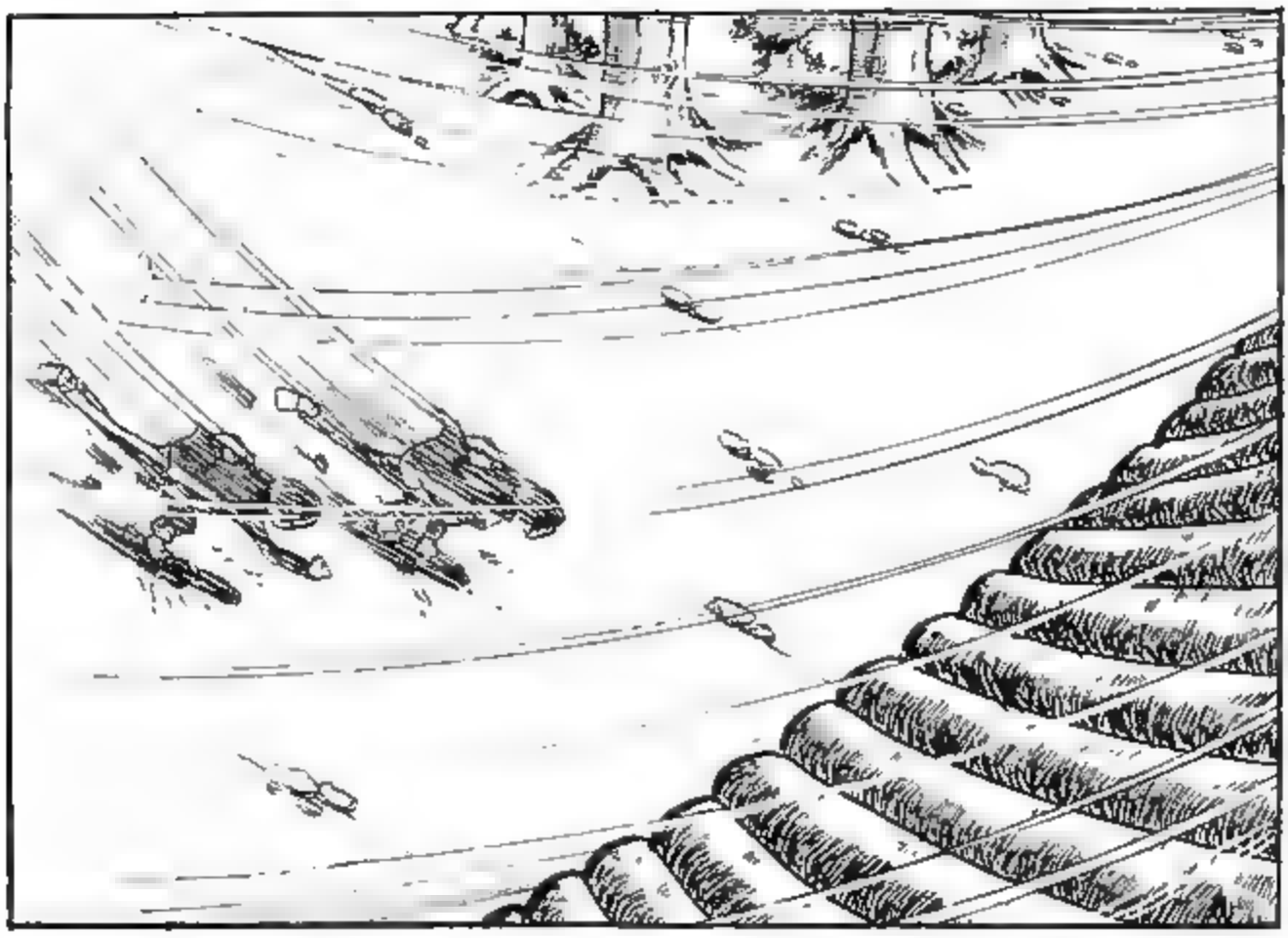
なんだってえ……
そっ それじゃ
このぶっこわれてる鉄橋につっこんでくるちゅうわけかい
どっ……どないなんね……

え
えらいことだ…

ど…
どうしたん
だ……
まて
ーっ
万吉さん
いやよ
〜〜〜っ
いや
……
へんなこと
考えちゃ
いや…
わたしの
そばから
はなれちゃ
いやよ〜〜っ

ねっ……きっと
国鉄のほうで
なんとかするわよ
……
ドヤ
なにも
乗客の
あなたが……
限界じゃ
……
まっ……
万吉さん
……
いやよ
……
これが……
わいの
限界
じゃああ
〜〜〜っ
おおおう……


暴走列車を
止めろの巻



なにいいっ
鉄橋がくずれて汽車が立ち往生…
へい…… しかも 下りの列車が暴走しているそうで……

まんきち〜〜〜っ……
ついてる男だの〜〜〜っきさま……

よお——しすぐその鉄橋に単車の一台も用意してやれ!!
へいっ!!

じつについとるわい……

げんかい
じゃあ～～っ
これが……
わいの
限界じゃあ
～～～～っ

いやよ～～～
いやよ
万吉さん
……
なぜ……
なぜ　あなたが
そんなこと
しなければ
いけないの…

あなたは
わたしの
ものよ……
わたし
だけの
ものよ――っ
!!親分

ラッ
ラッパ
——ッ!!

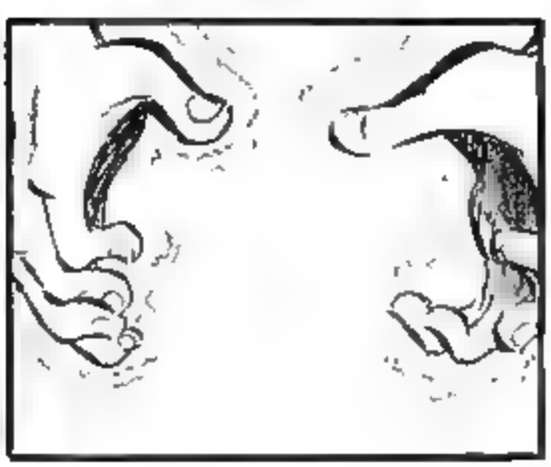
わいは
親分が
東京へ
行くのを
だまって
見ているつもり
やった……

せやけど……
親分……

この汽車にのって
そっと 東京まで
見おくるつもり
やった……

この仕事
親分以外に
できる人間は
いまへんでっ!!
そうや
オヤビン
!!

ラッパ
〜〜っ
おお…
おやぶん…



うわあ——っ
でたあ
でよったあ
——っ
きゃあ——っ!!

万吉親分の
うおおお
——が
でよった
でえ——っ

やめて——っ
万吉さん…
死んじゃうわよ
万吉さん…

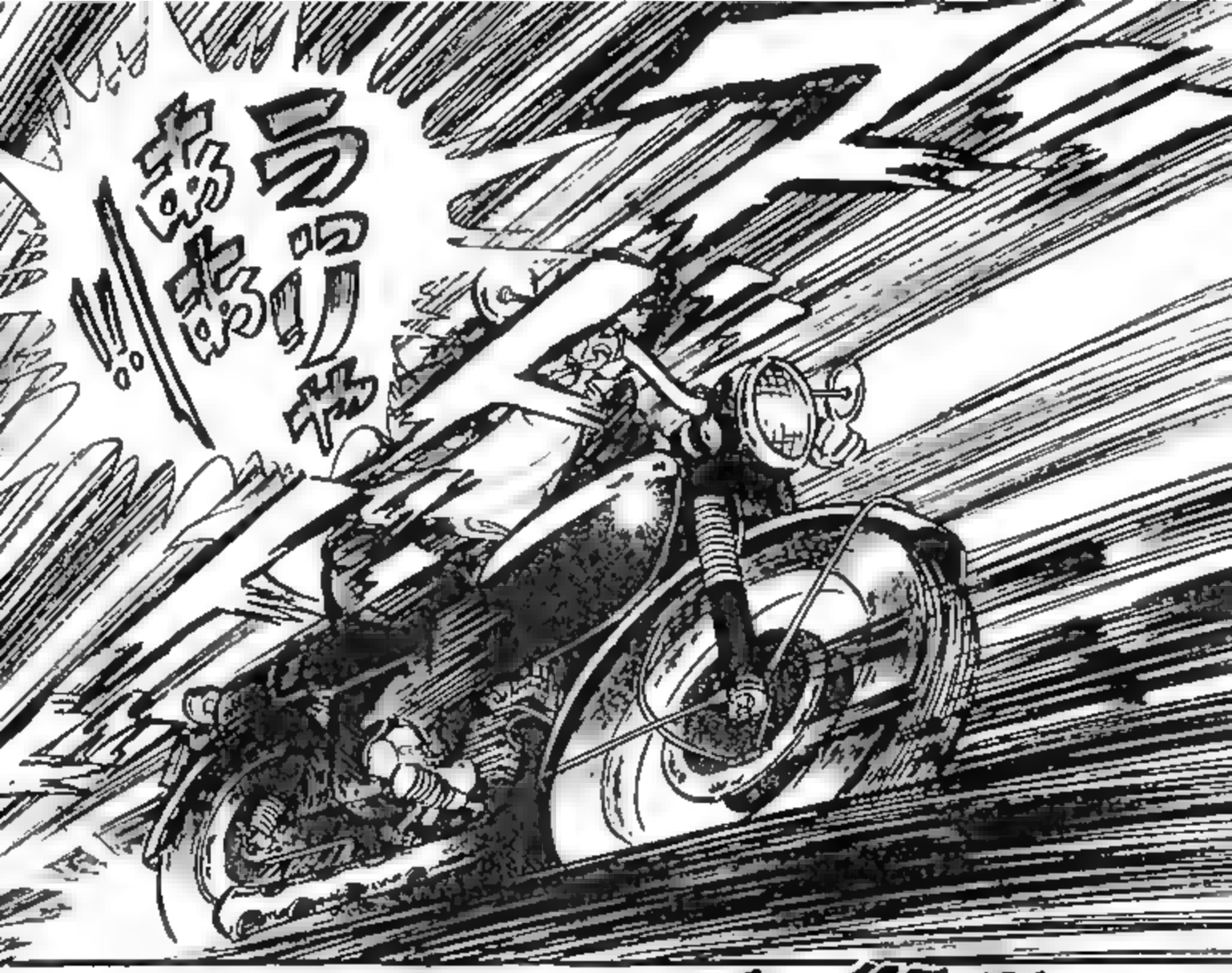
うおおお!!
野郎——っ!!
矢でも
もって
鉄砲でも
きさらせーっ

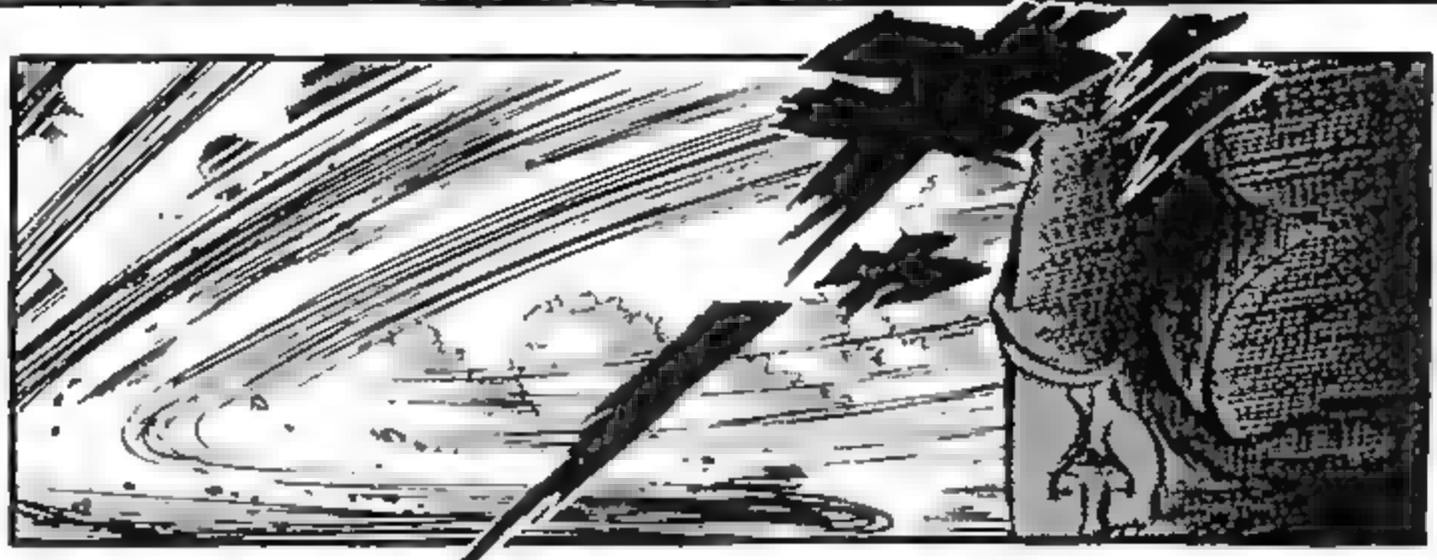
すっこん
どれえ
——いっ
!!
きゃあ
あーっ

ラッパ
——っ
やつらが
けんか
やってる
所は
どこ
じゃいっ
へいっ
大蛇ケ原
でっせ……

よおっ
しゃあ
——っ

万吉さん
時間がねえっ
これにのって
行きな!!
すまん
!!


ラッホホホ!!!



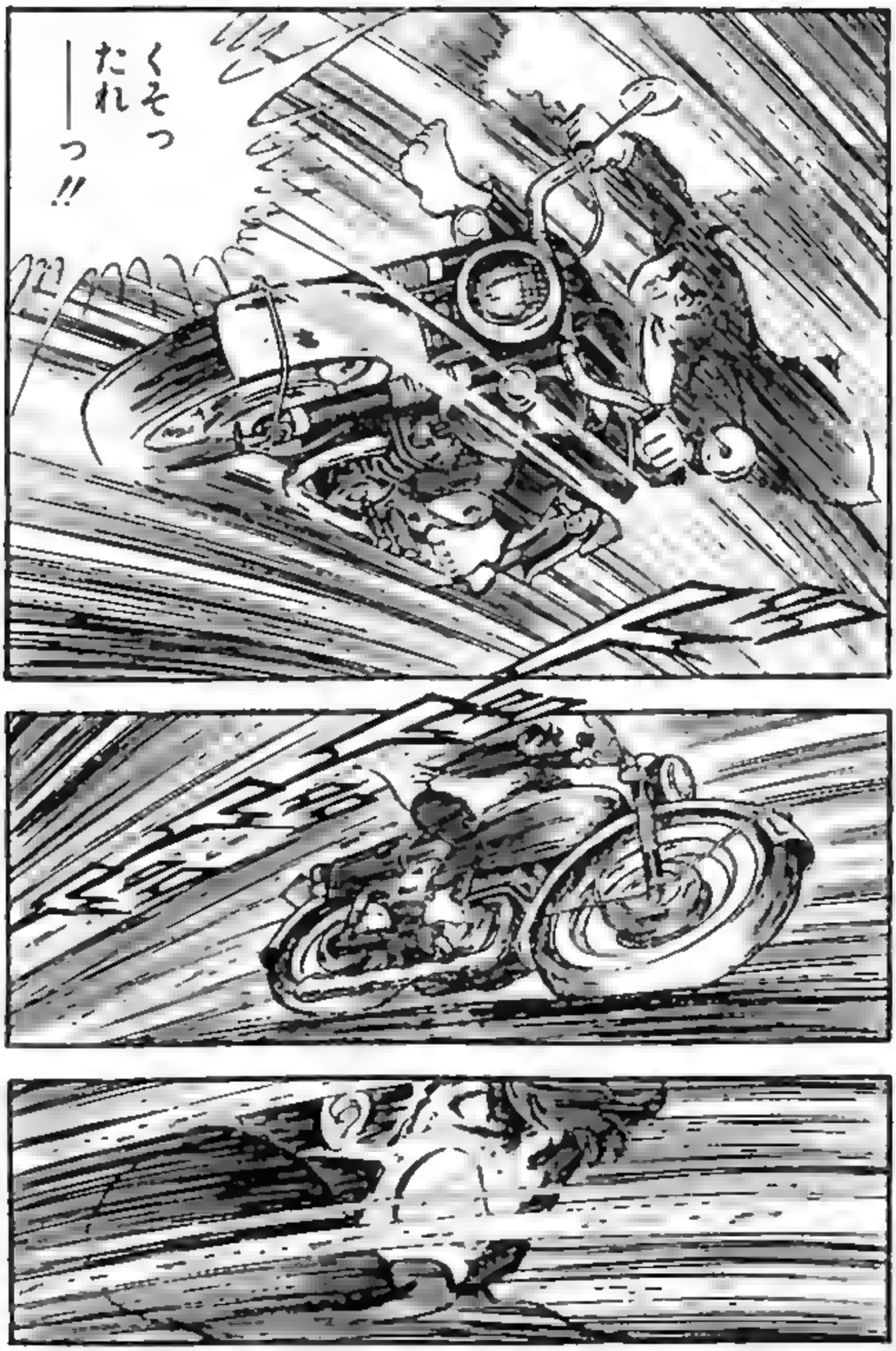
あれが万吉か……
あれが……

万吉さん……
いっちゃ いや
いっちゃ
いやよ～～～
ああ～～～
ケーッ
あほたれーっ
あれが
万吉親分の
ほんまの姿
なんじゃどーっ
よせっ
へっ……

あゆみはん……
親分
やっぱり
男の血が
強かったん
や……
せやけど……
もし このことが
すんだら……
親分……あんさんの
ところへ もどって
くるかも知れへんで……

もどって
こない……
もう……
もどって
こないわ……
一度はなれたら……
もう二度と わたしの
ところへは
きてくれないわよ
うう～～～～……

くっそ
～～～っ

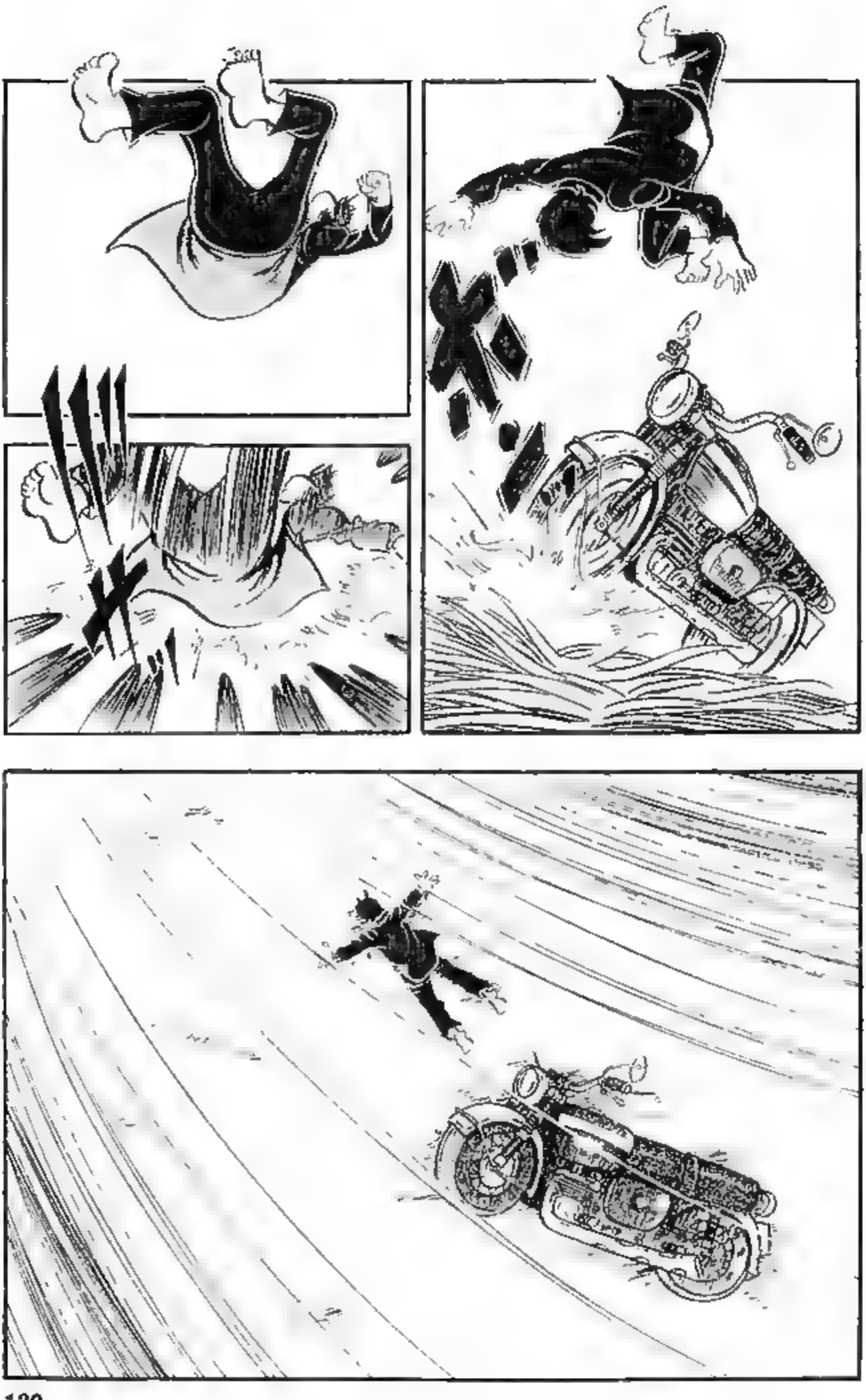

くそったれ――っ!!

やろう——っ
わあ——っ
ケーッ!!
ぐわーっ
やろう——っ!!
わーっ

おお
——っ!!

ドン!!

まて
まて
まてえい
——っ
うっ
あっ
あの声は……
まち
やがれ
——っ
そのけんか
まったあ
——っ

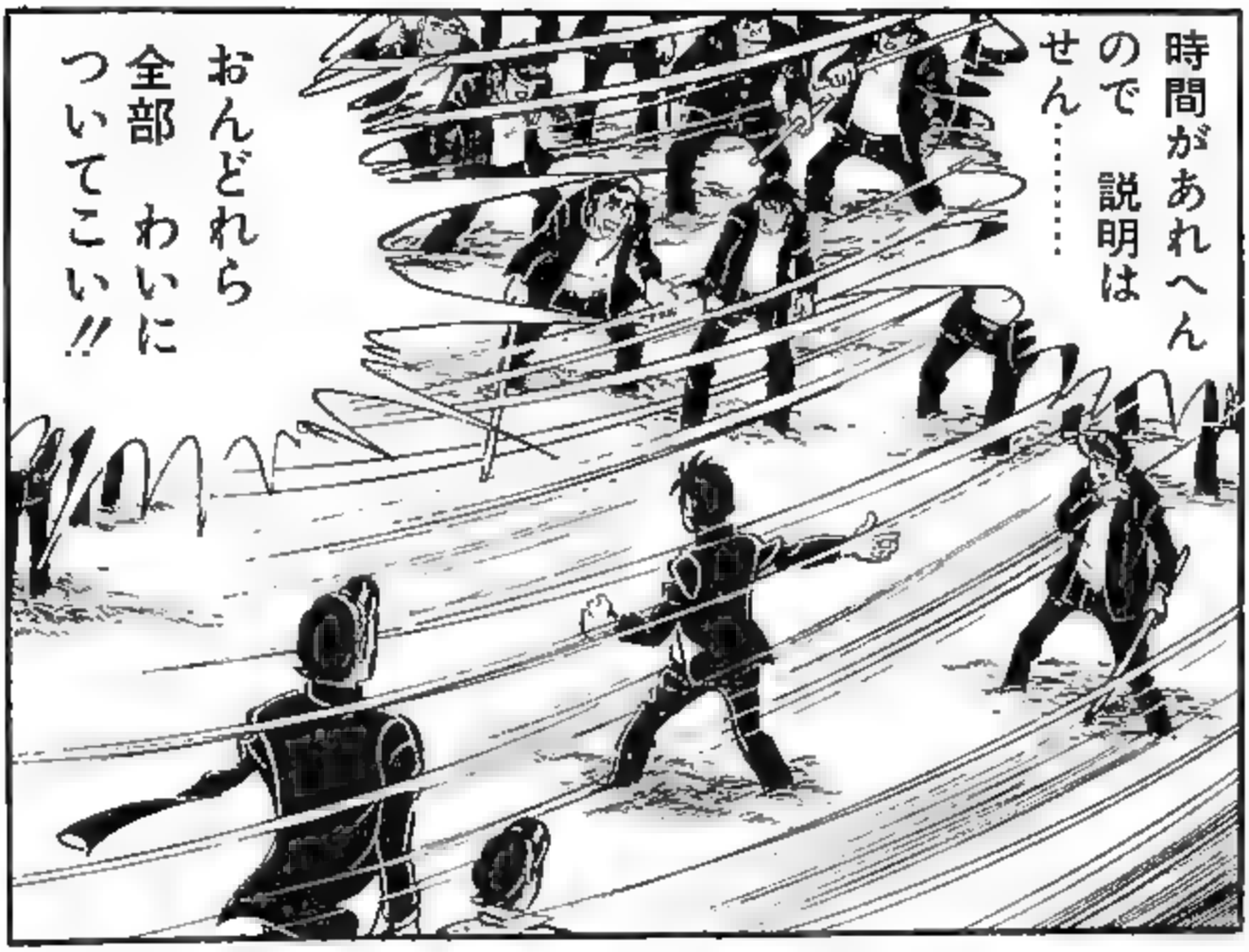


まてよ
〜〜〜〜っ

うわああ——っ
親分じゃ
万吉親分がきよったあ——っ

くそったれ——っ
親分がきたら勇気百倍じゃやろう——っ
ぶちのめしたれ——っ

まてちゅうとんじゃ——おんどれ——っ


時間があれへんので　説明はせん……
おんどれら全部　わいについてこい!!

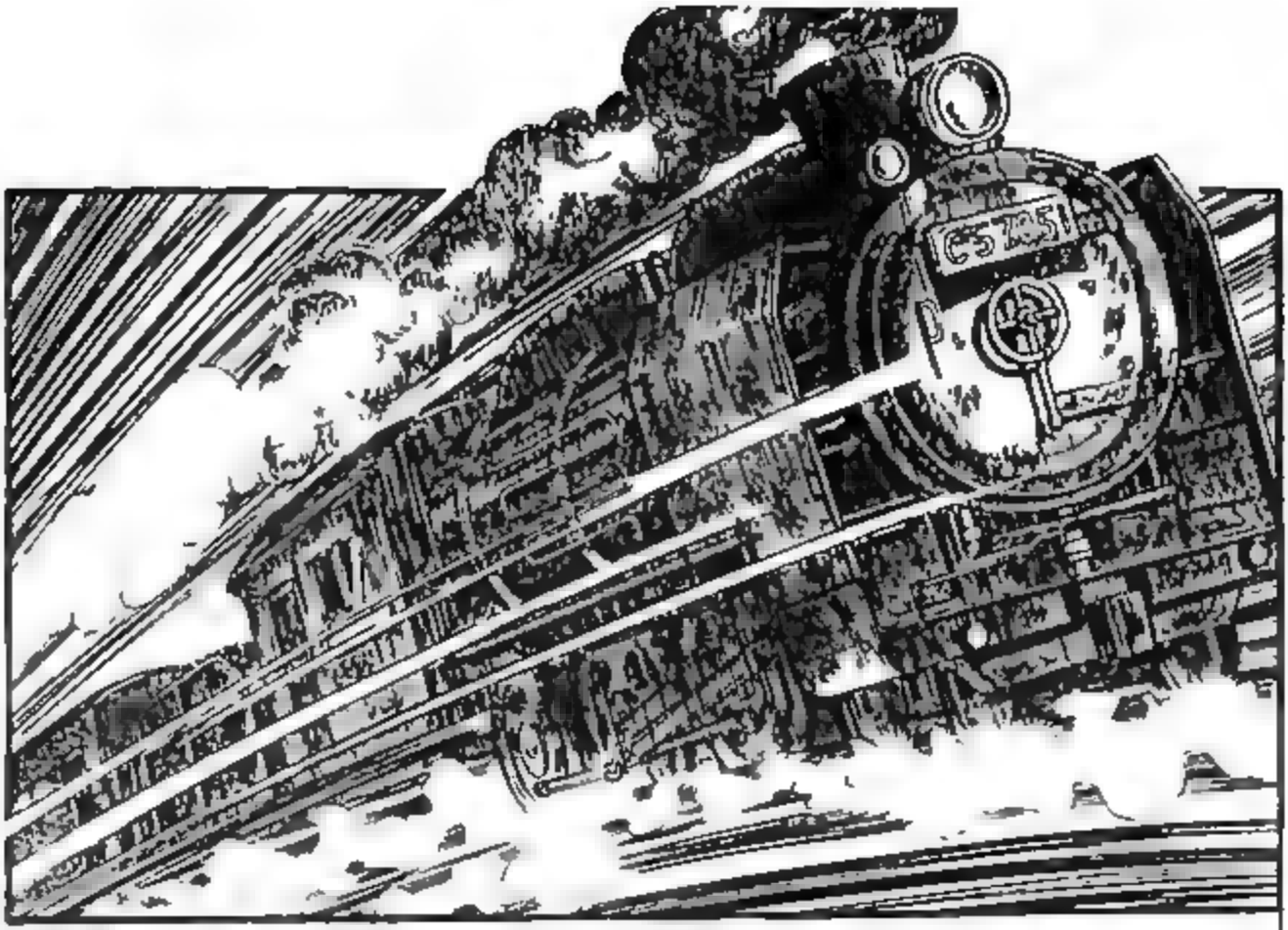
なっ……なんやて親分……
そっ……そんな……
いまはけんかやっとるまっさい中でっせ!

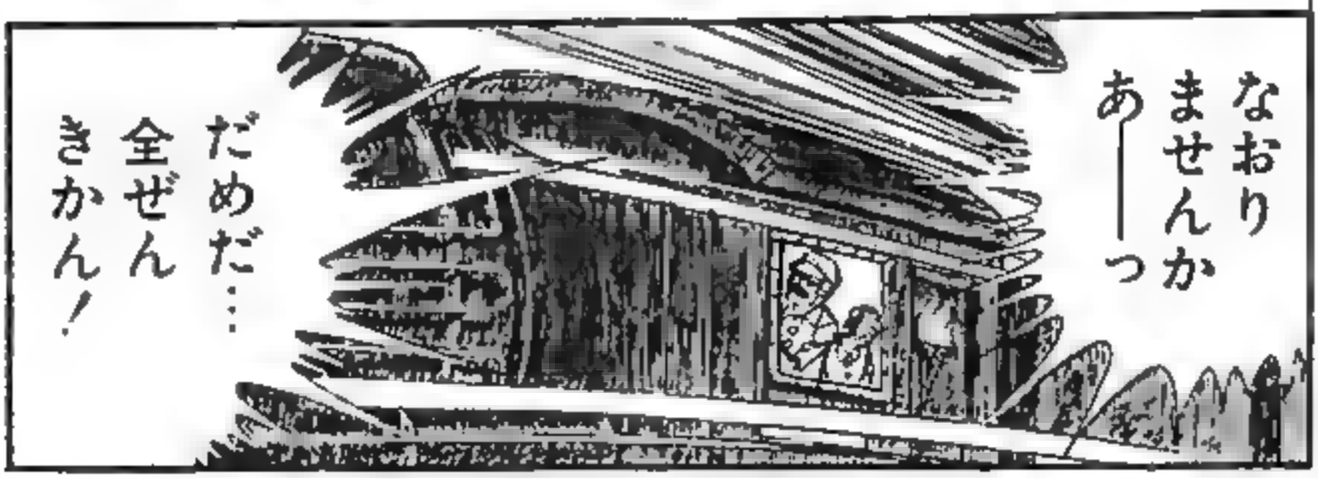
ごちゃごちゃぬかすなーっ

なんやら
知りまへんが…
どこへなりと
お供しまっせ
え〜〜〜〜っ
綱村
〜〜〜〜っ
……
ありが
とうよ……
山崎さん
とやら…
やはり…
てめえが
万吉だったか…
すまんが
ここは 一時
ひかしてもらう
しかし……
命があって
もどってきたら
思うぞんぶん
相手したる

いいだろ——っ
行けっ
まってて
やる……
やっ…!?
山崎さん
……
そんな
こんな
時に……
やかましい——っ
ザコはひっこんでろ!!
すまん……
恩にきる
……
かならず
もどって
こいよ——っ
わい　ひとりに
なっても
くる……

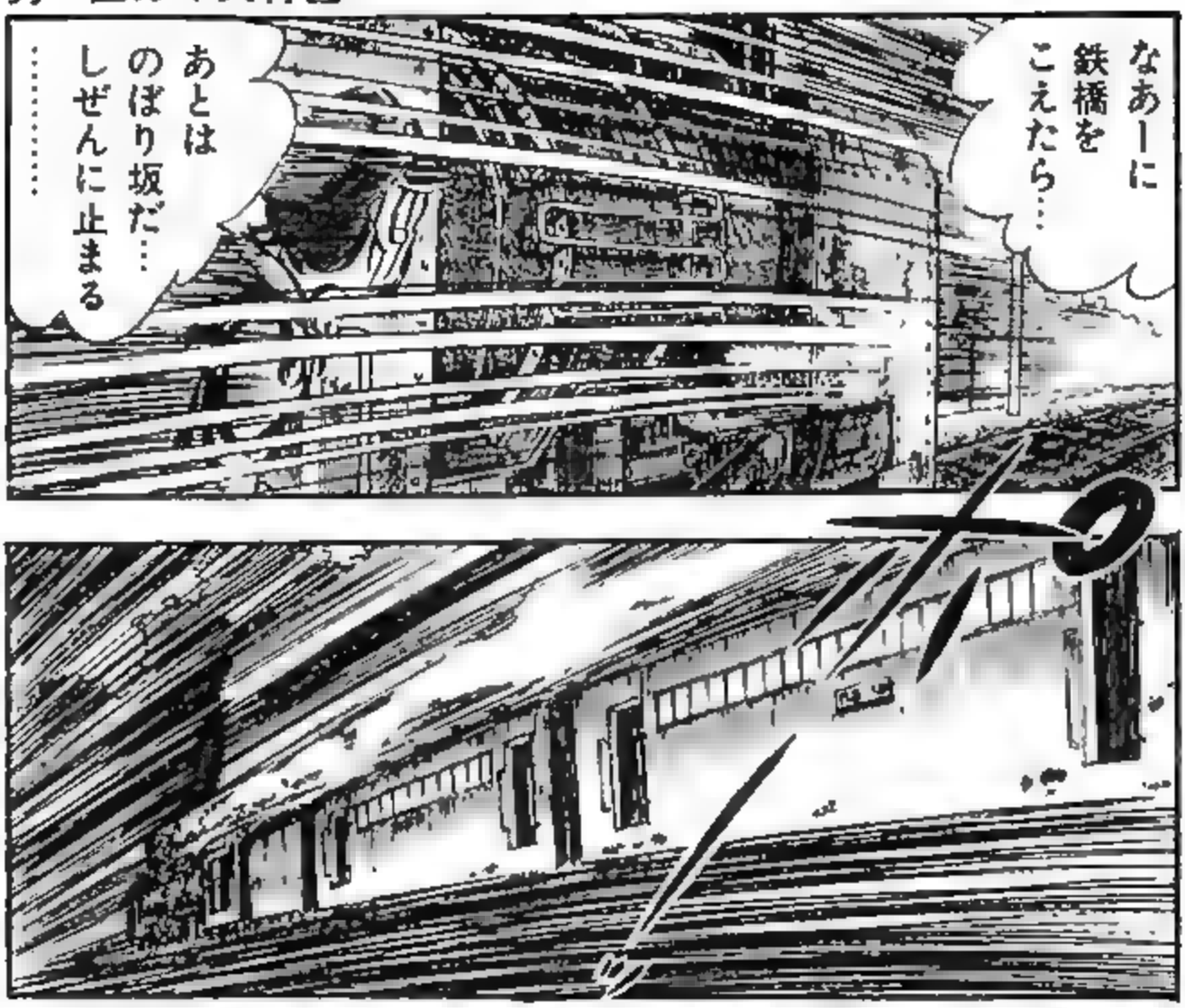
いくぜ
——っ
おお
——っ



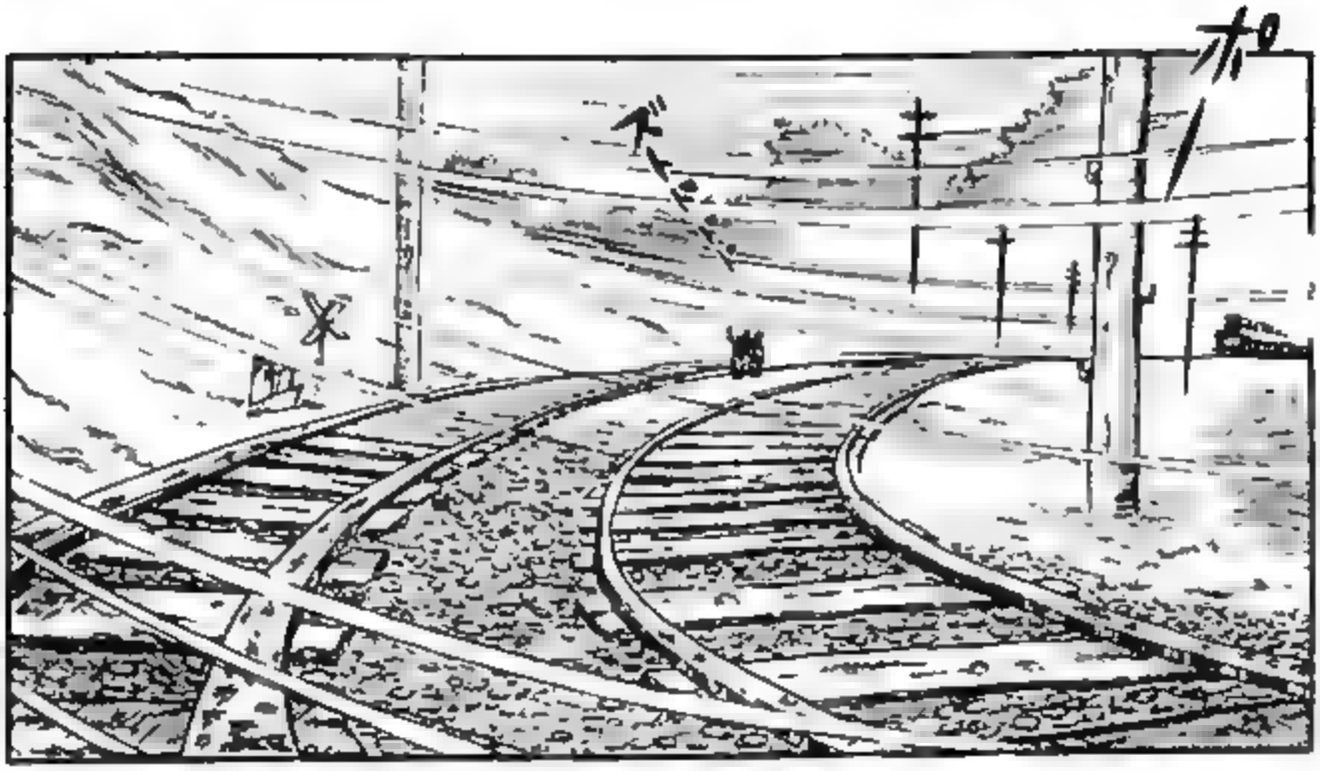

なおりませんかあ――っ
だめだ…全ぜんきかん！

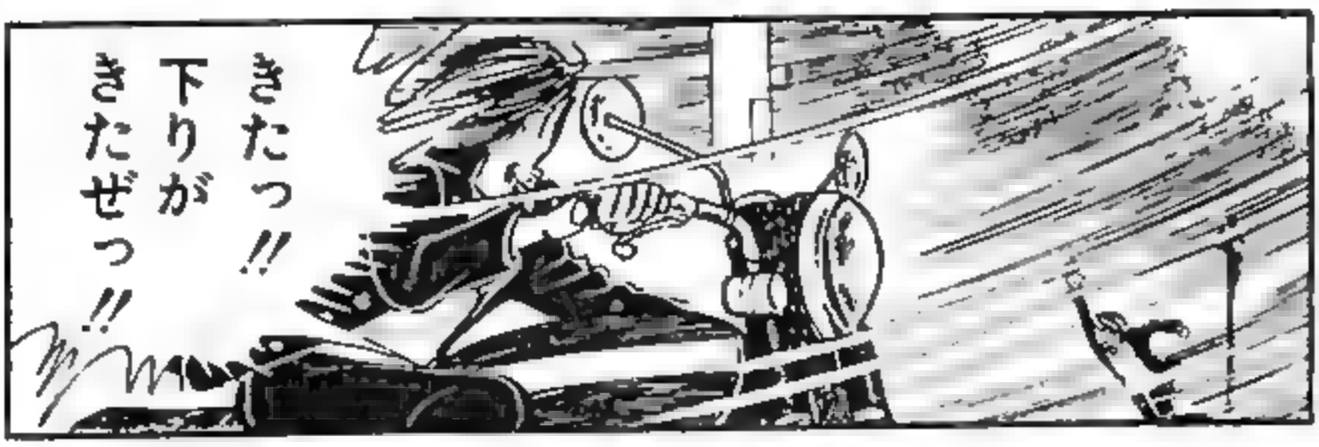
どうします乗客にしらせますかいかん！

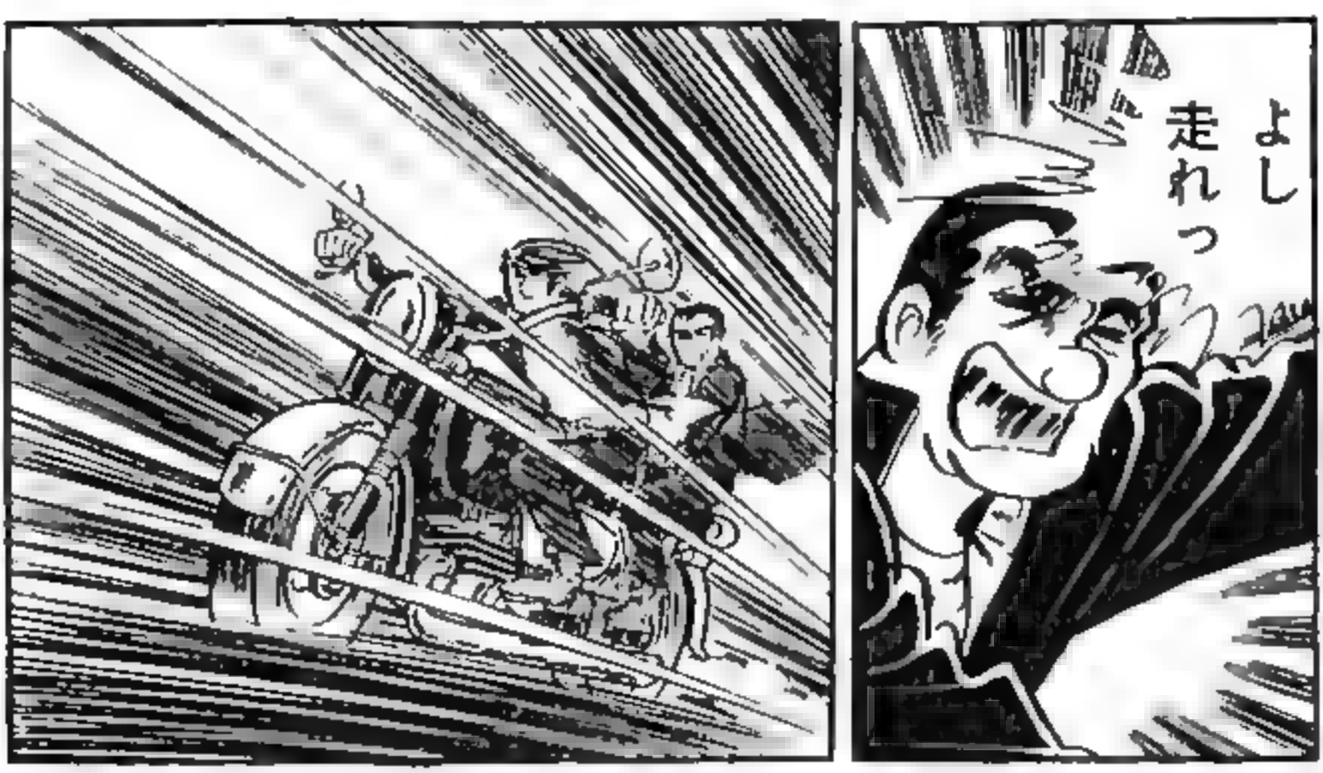
乗客がさわぎだしたら…
収拾がつかなくなる……

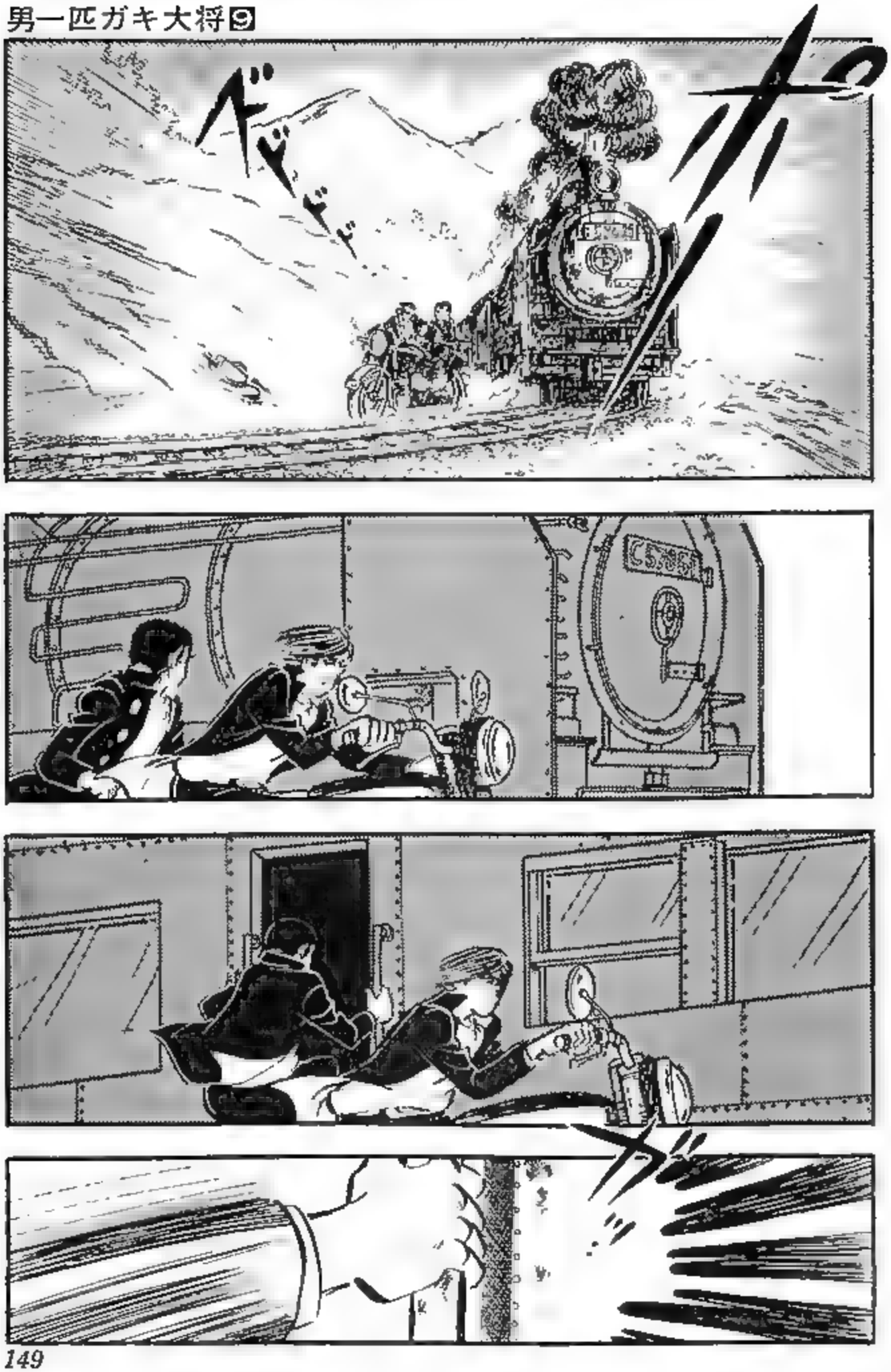

なあーに
鉄橋を
こえたら…
あとは
のぼり坂だ…
しぜんに止まる
……

いそげ
いそげ
——っ
!!
いそぐんだあ——っ

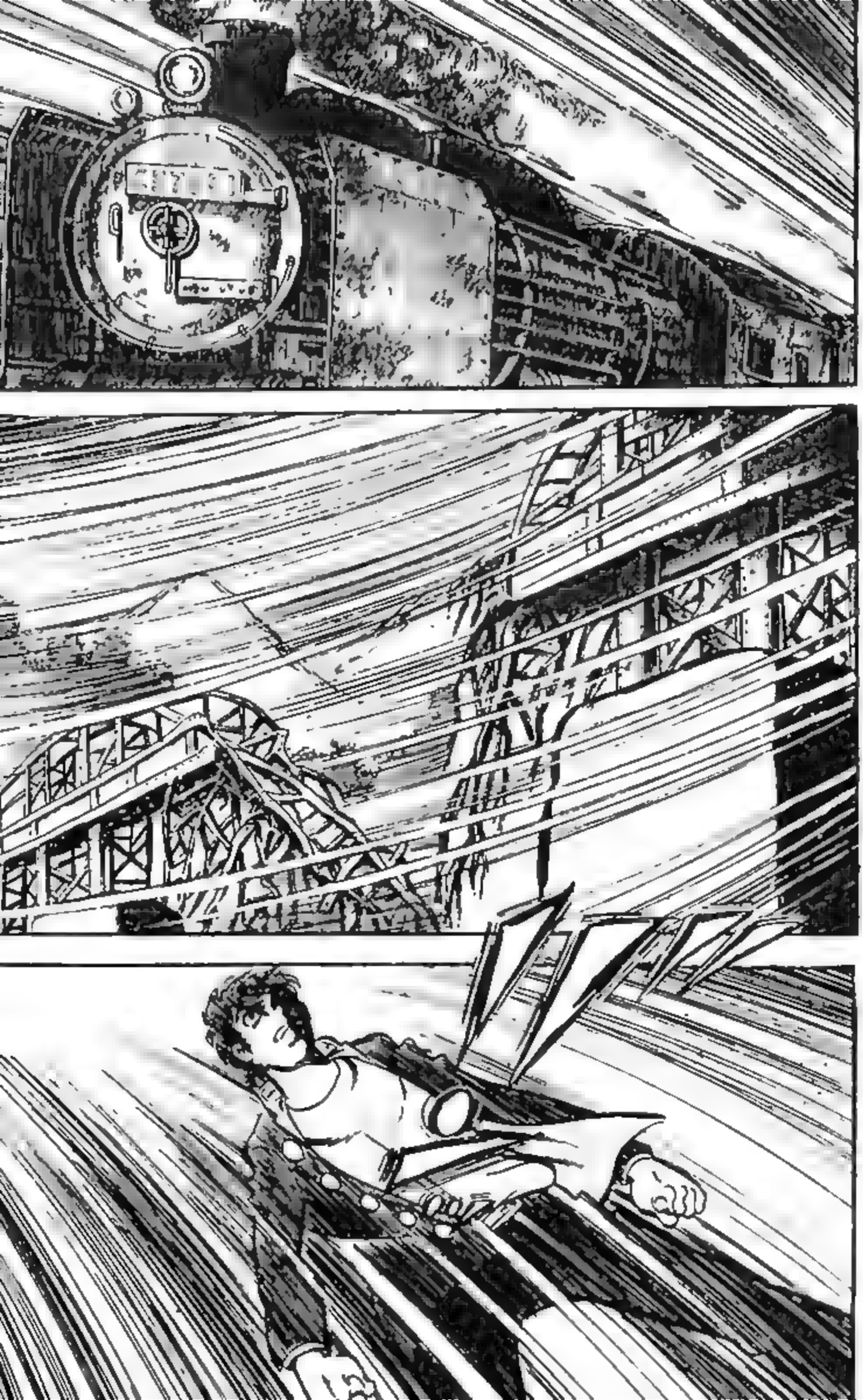

ポ
ズ
米
四


きたっ!!
下りが
きたぜっ!!


よし
走れっ


ゴゴゴ
ゴー

よっしゃあ
こっちは
ひきうけた
――っ
お前ら　早く
万吉のほうを
手助けせえ
――い
いそげ
いそげ
――っ
もたもた
さらすな
――っ
おお!!



ええかあーっ
この仕事にゃ
人間の命が
ぎょうさん
かかっとんのじゃ

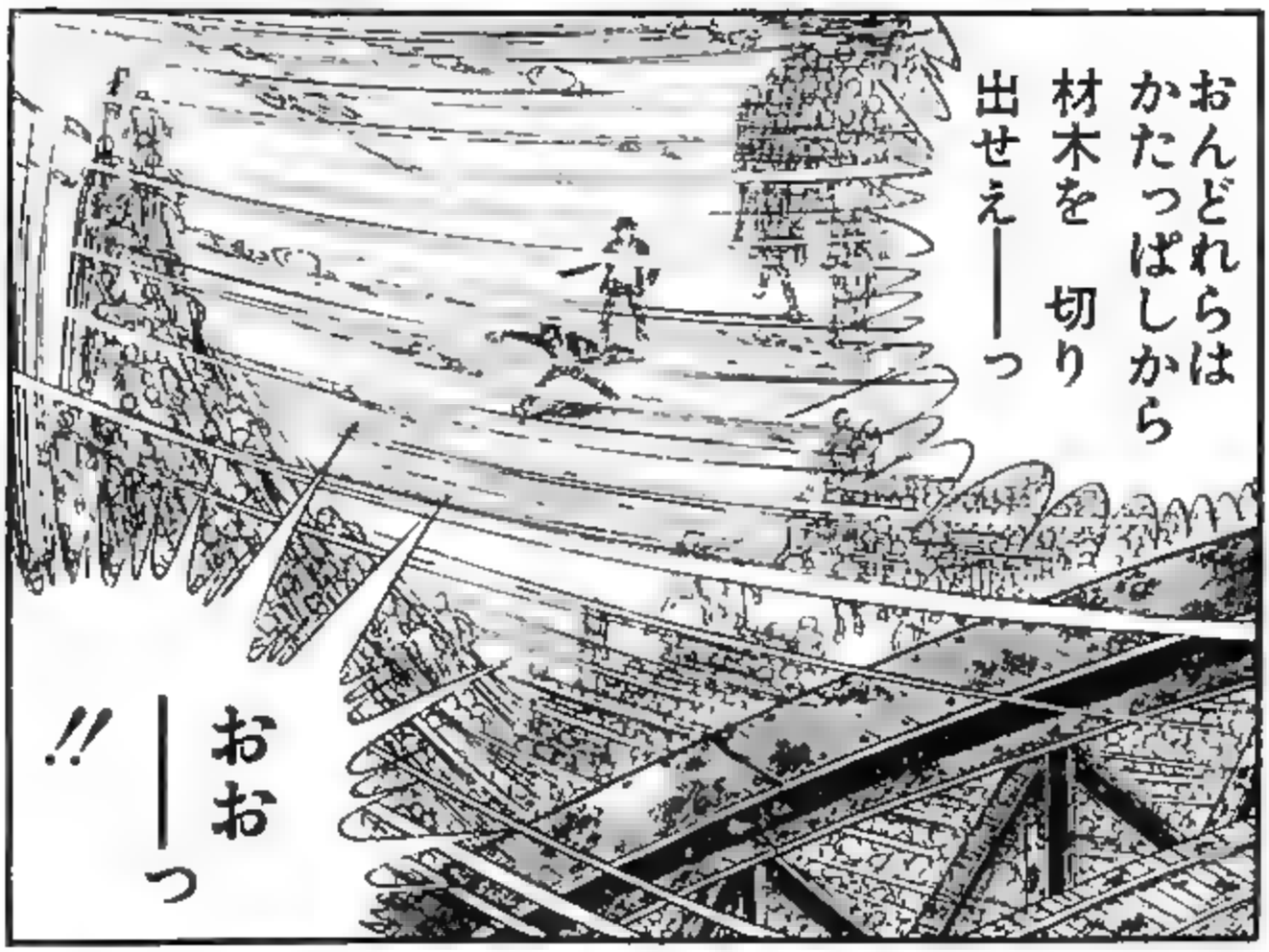
運命の二十分の巻

ぐずぐずさらしとったらいてまうで――っ

銀次〜〜〜
わいは…
男に
うまれてきて
うれしいぜえ
〜〜〜〜っ
おう〜〜〜っ
綱村〜〜〜っ!!

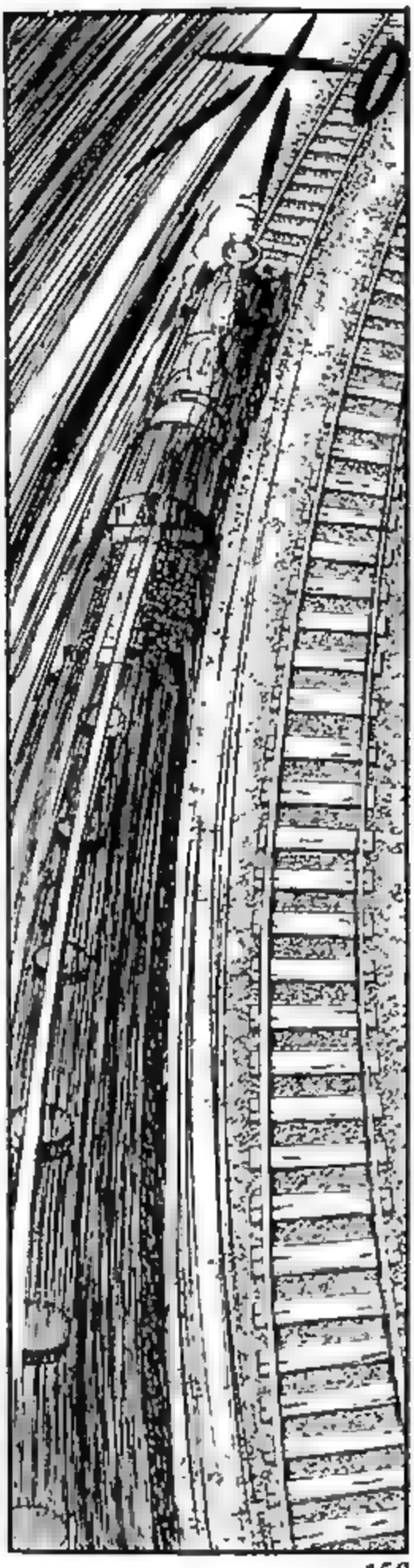
ちくしょ
〜〜〜っ
やっぱり
……
親分は
親分は
〜〜〜ああ

いくぜえ
——っ
もたもた
さらしとったら
時間が
あれへん


おんどれらは
かたっぱしから
材木を　切り
出せえ――っ
おお
――っ
!!

綱村
――っ
!!

へっ……
おんどれは
上りのほうの
線路を
ひっぱがせーっ



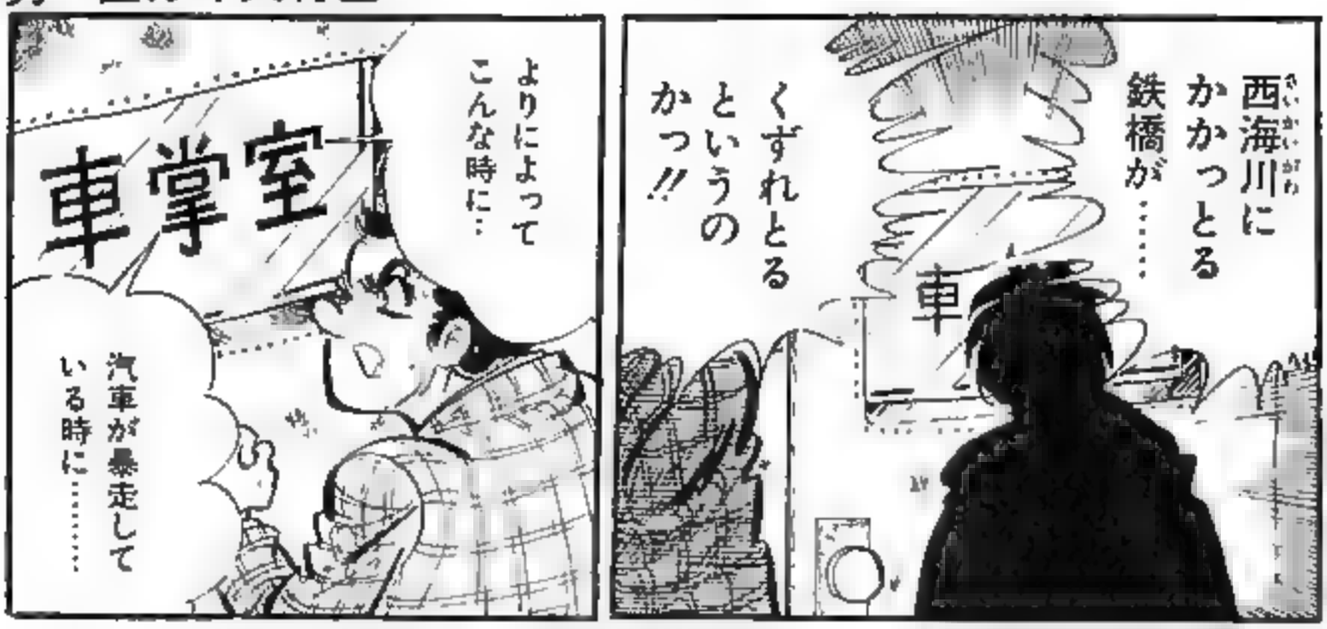
おい……
なんだか
しらねえが
……
この列車
ようすが
おかしいんじゃ
ねえか……

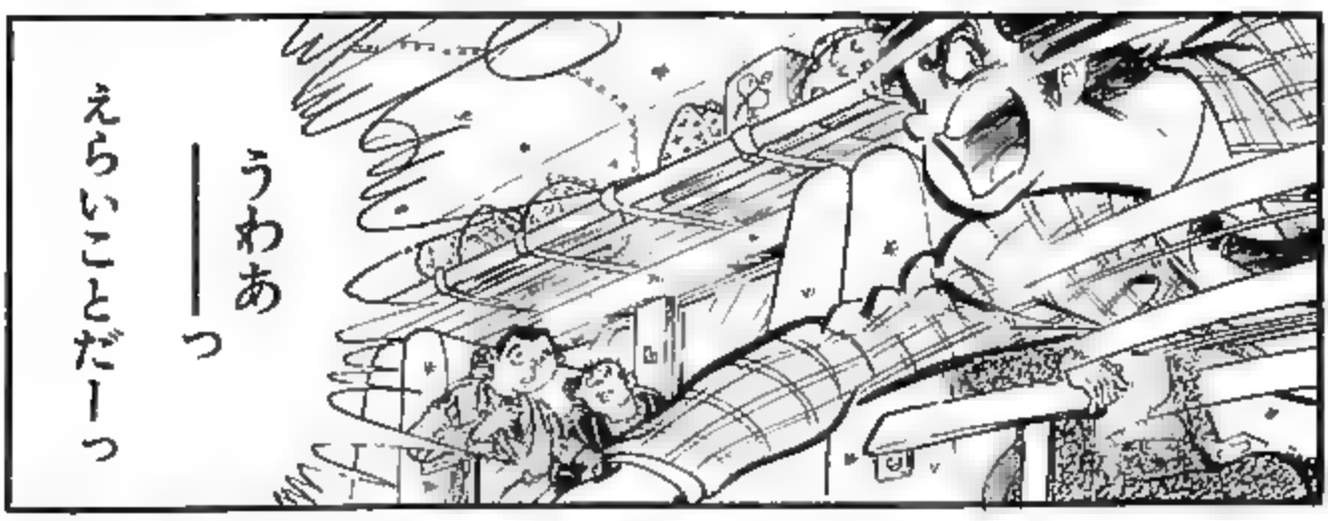
そっ…
そういえば
……
ばかに
とばすな
聞いてくるか…

なにい
——っ

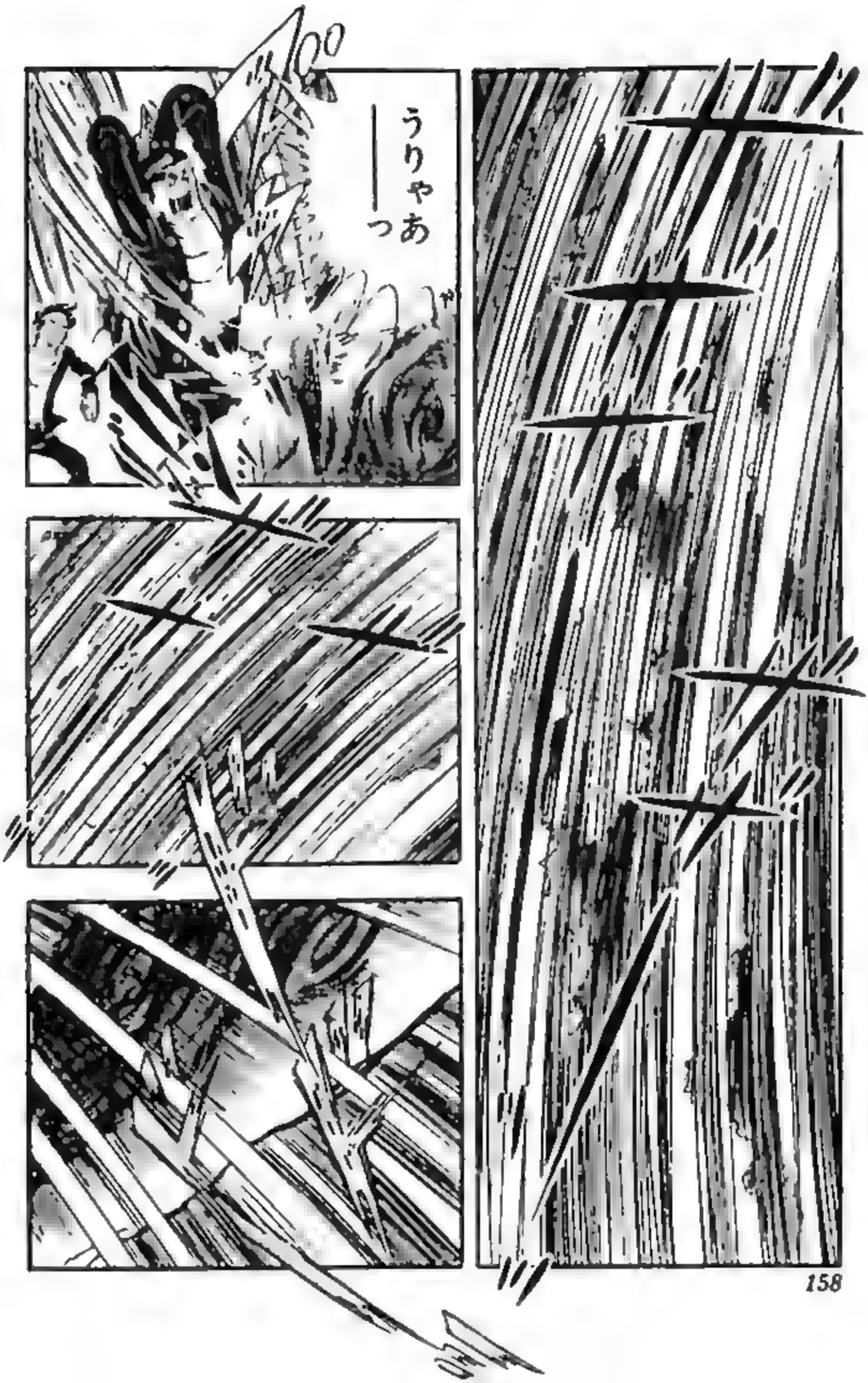
ほっ……
ほんとうか
それは……

はっ……
はい……


西海川にかかっとる鉄橋が……
車
くずれとるというのかっ!!
車掌室
よりによってこんな時に…
汽車が暴走している時に……


うわあ——っ
えらいことだーっ

なんだと——っ
ほんとかそれは…
やはり……
乗客がさわぎだしおったか……
このままでは収拾がつかなくなる……


うりゃあ
——っ

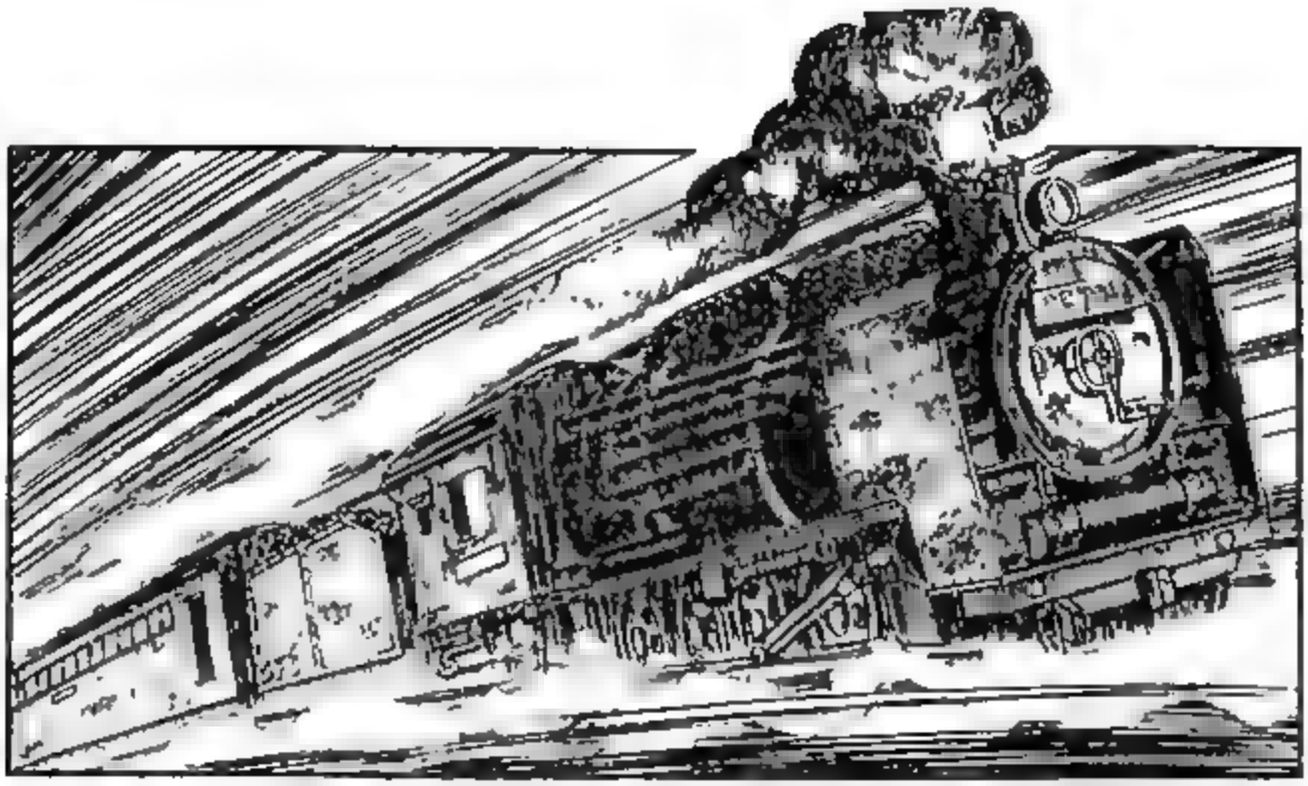
はこべ
はこべ
——っ
どんどん
はこぶん
じゃい
——っ

ええか
くずれとる
のんは…
これだけ
じゃ

ここらへん
ここに 柱を
たてて……
材木をくみあわせ
その上に
上りの はがした
線路を
ひくんじゃ……

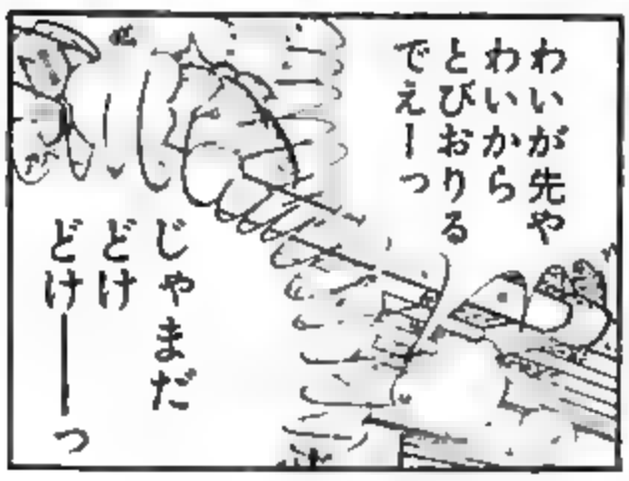
しかし親分……
どうやって
柱をたてるん
ですかい…
うちこんどる
ひまはない……
人間で
ささえるんじゃ…
わいらで
柱をささえるん
じゃい……
なにを
やってるん
じゃ
あいつら…
あんなこと
したって
むりに
きまっとるん
やんか……
あほと
ちゃうか
――っ
じゃか
ましゃいい
くそったれ
――っ
ひゃ!
うっ……
アホや
と～～～っ
……
なんや
このガキ
いきなり 大声
だしさらしよって
……

なあんか
しとんね
あほんだら
――っ
むりだと
きめつけて
なにも　やらんで
どうなるちゅうん
じゃい
おのれら
みたいに
なにもせんと
みとる
だけで……
ことが　すむと
思うとんのかい
どくされどもめえ――っ
あ……
うう……



うわあ
たいへん
じゃ……
このまま
だったら
みんな
死ぬでえ
――っ
えらい
こっちゃあ
――っ

とびおりた
ほうが
安全じゃ
……
どけ
――っ


わいが先や
わいから
とびおりる
でえーっ
じゃまだ
どけ
どけ――っ

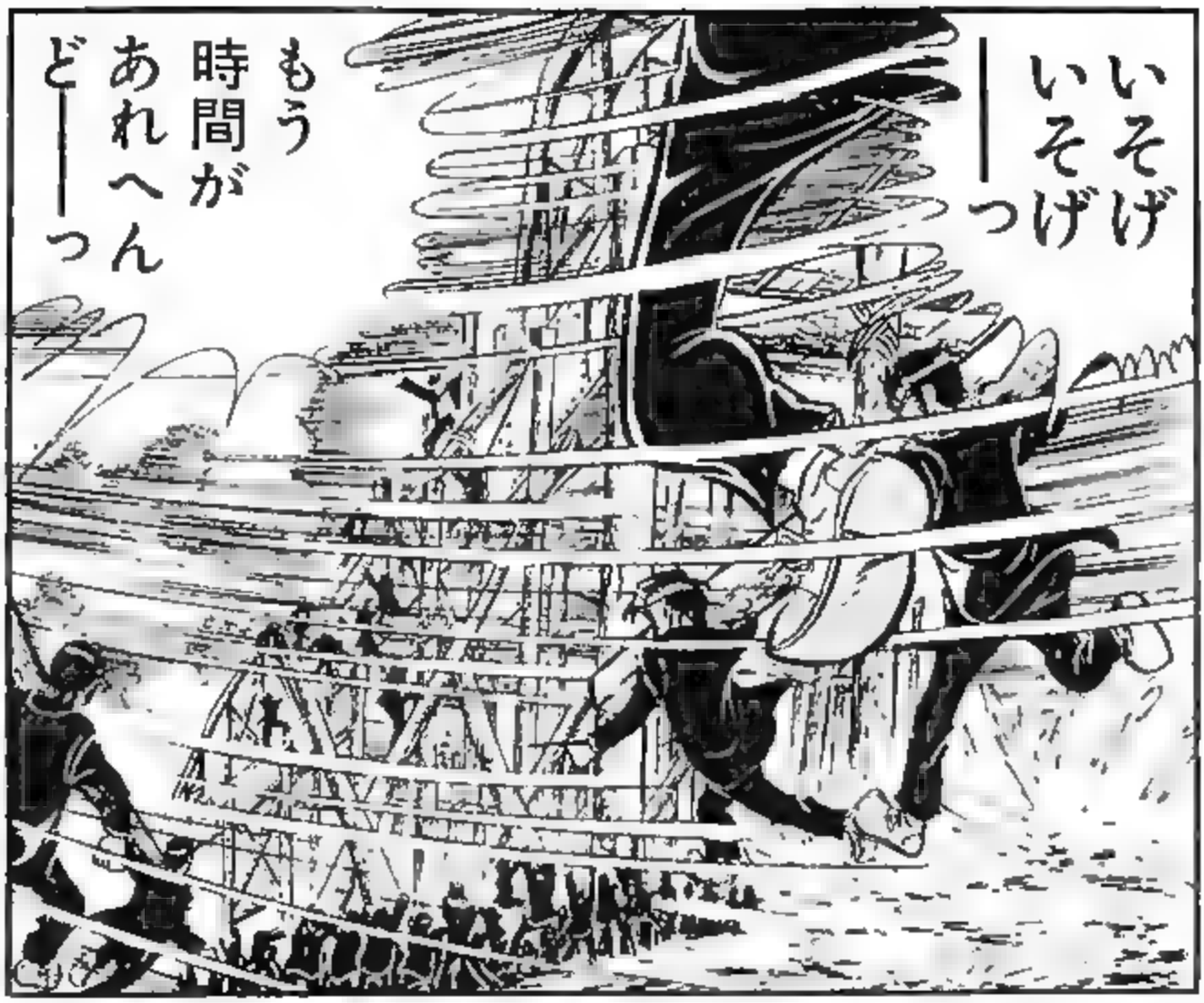
きゃ——っ
うわあーっ
うわ——っ
うわ
ムウ——っ
わっ

あわてる
なーっ
はあ
はあ……
あわわ……

いま ここで
ひとりでも
とびおりて
みい――っ
われも
われもと
みんな
とびおりだす
……

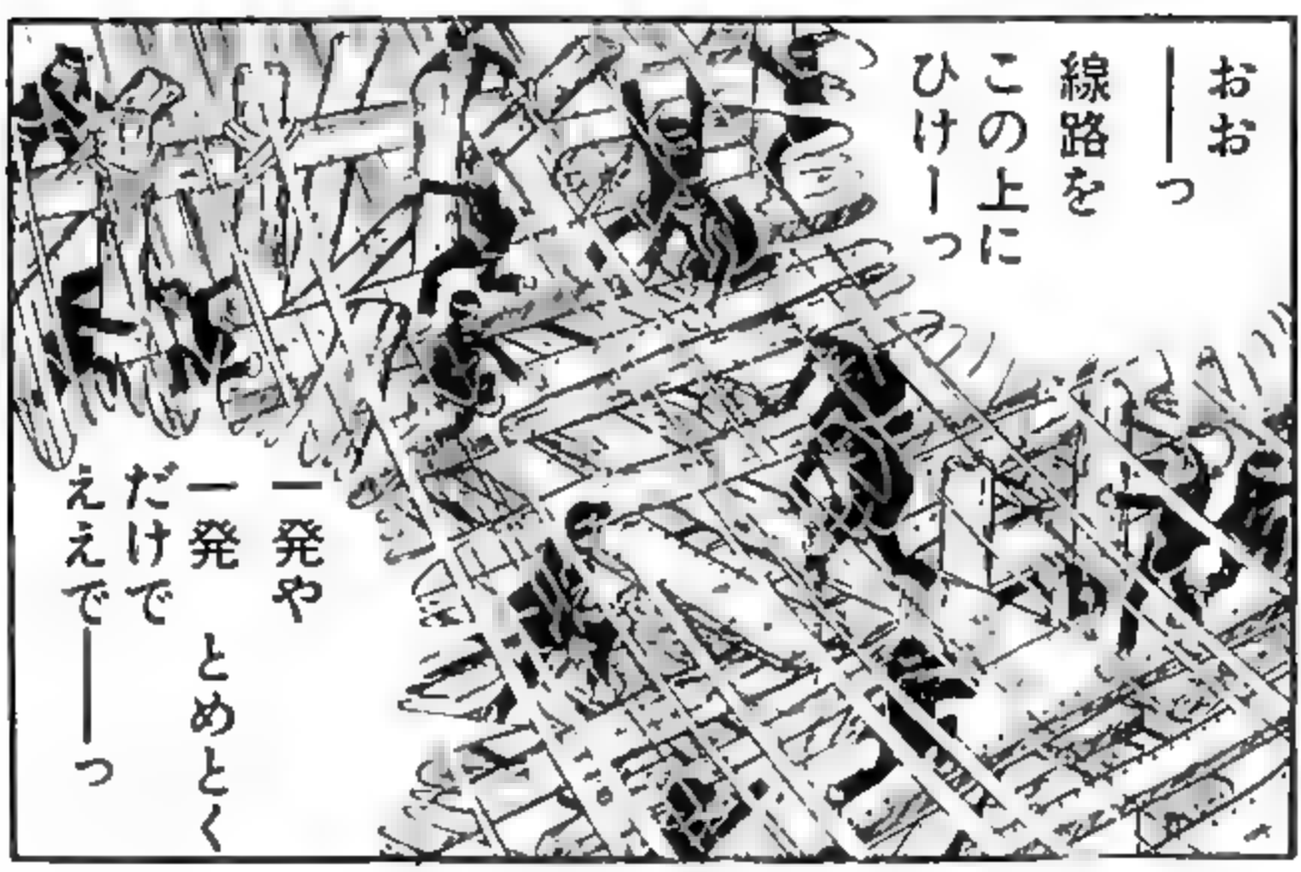
そうなってみい
かならず
死人が
でるぞっ!!
なっ
……

なあんか
しとんね
アホンダラ
……
このまま
ボケッと
してれば
死んでまう
わいっ!!
おちつけ
え——い
!!
わあ
——っ
いま…
戸川万吉(とがわまんきち)と
いう男が
鉄橋を
しゅうぜん
しとる……
その男を信じて
おとなしく
のっとれいっ…
……
……


いそげ
いそげ
――っ
もう
時間が
あれへん
ど――っ

その柱は
こっちじゃ
――っ
もたもた
さらす
な――っ

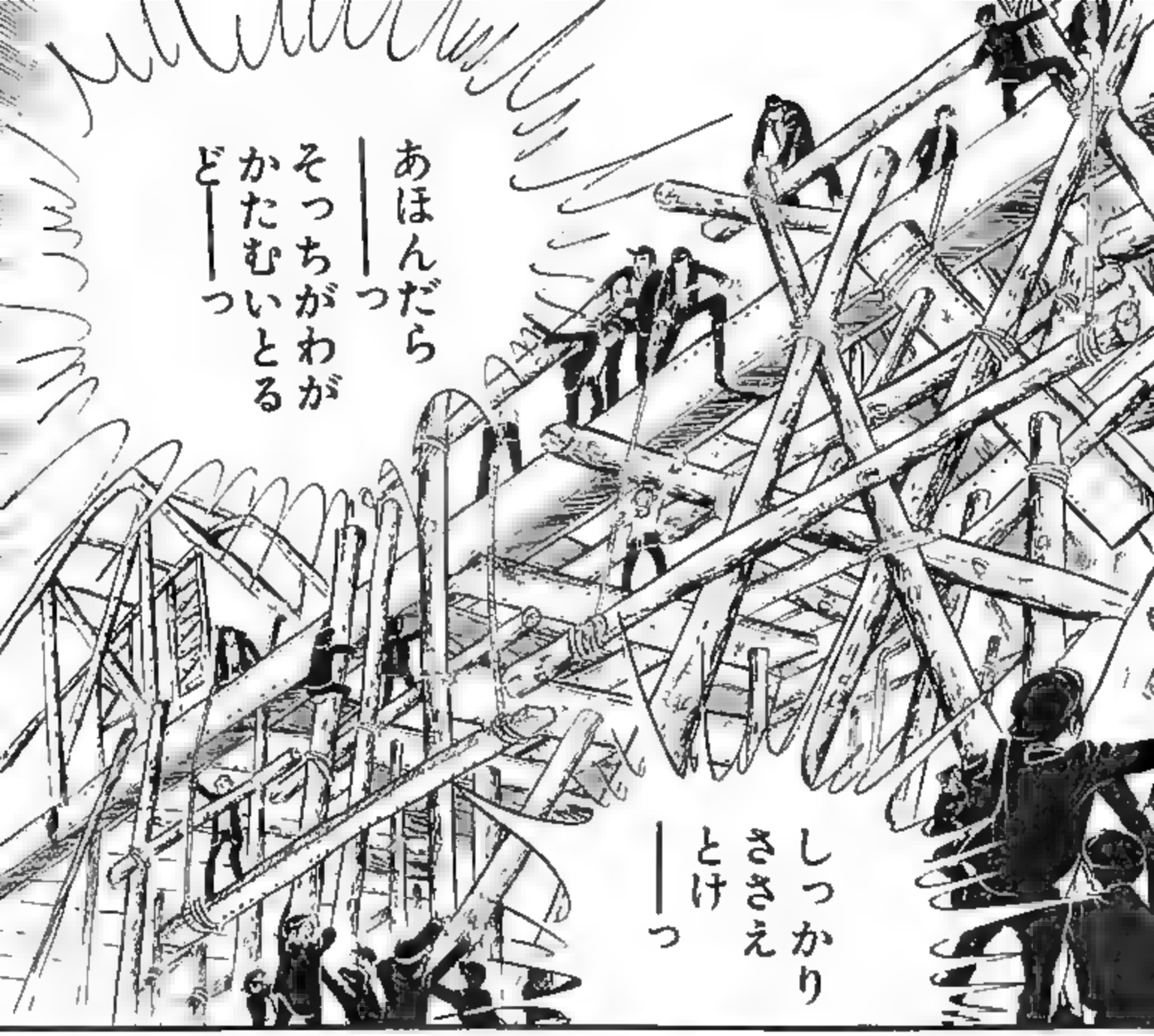
おんどれら
その柱は
死んでも
はなすな
――っ
おお
――っ

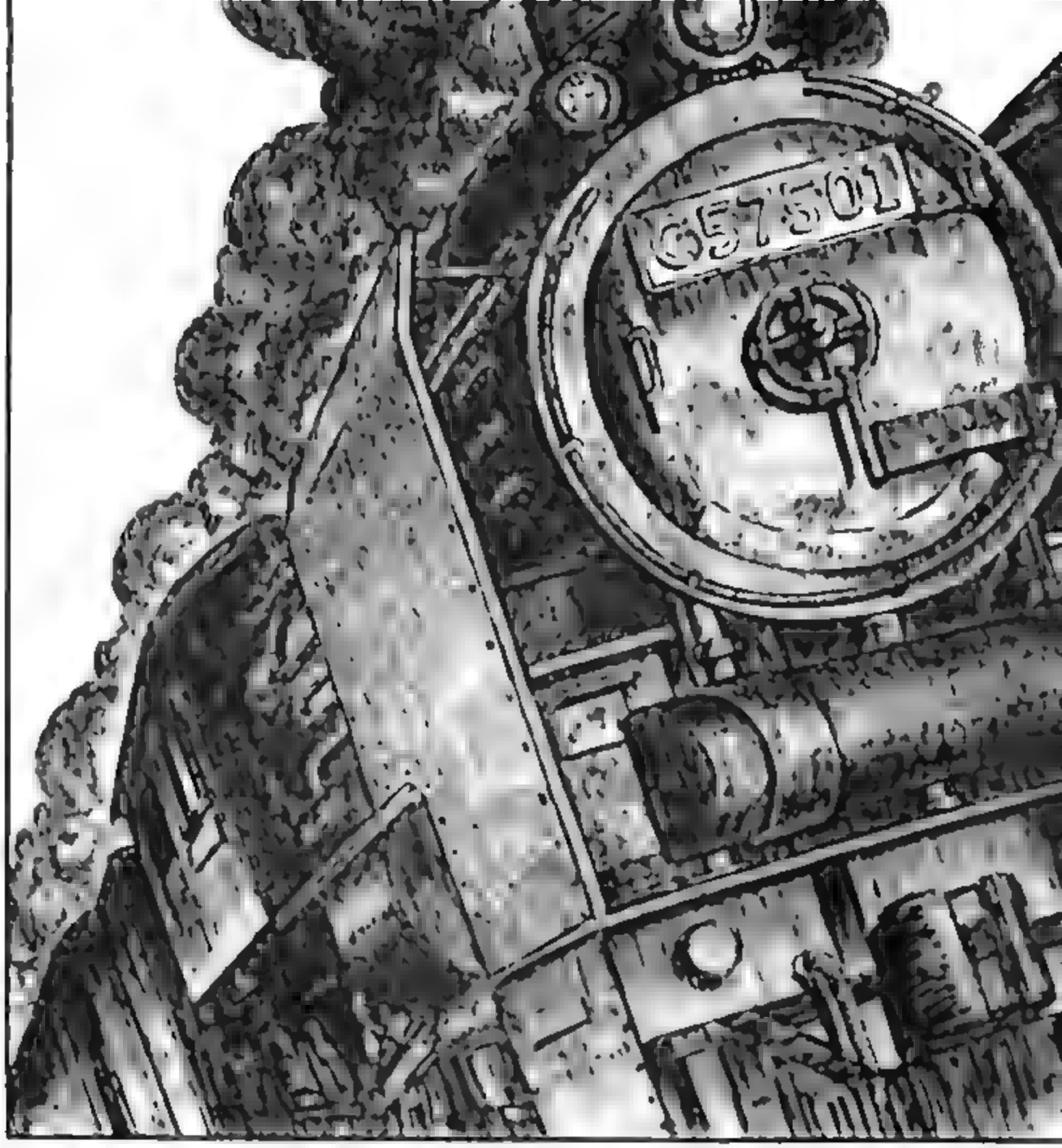

おお
――っ
線路を
この上に
ひけーっ
一発や
一発　とめとく
だけで
ええで――っ

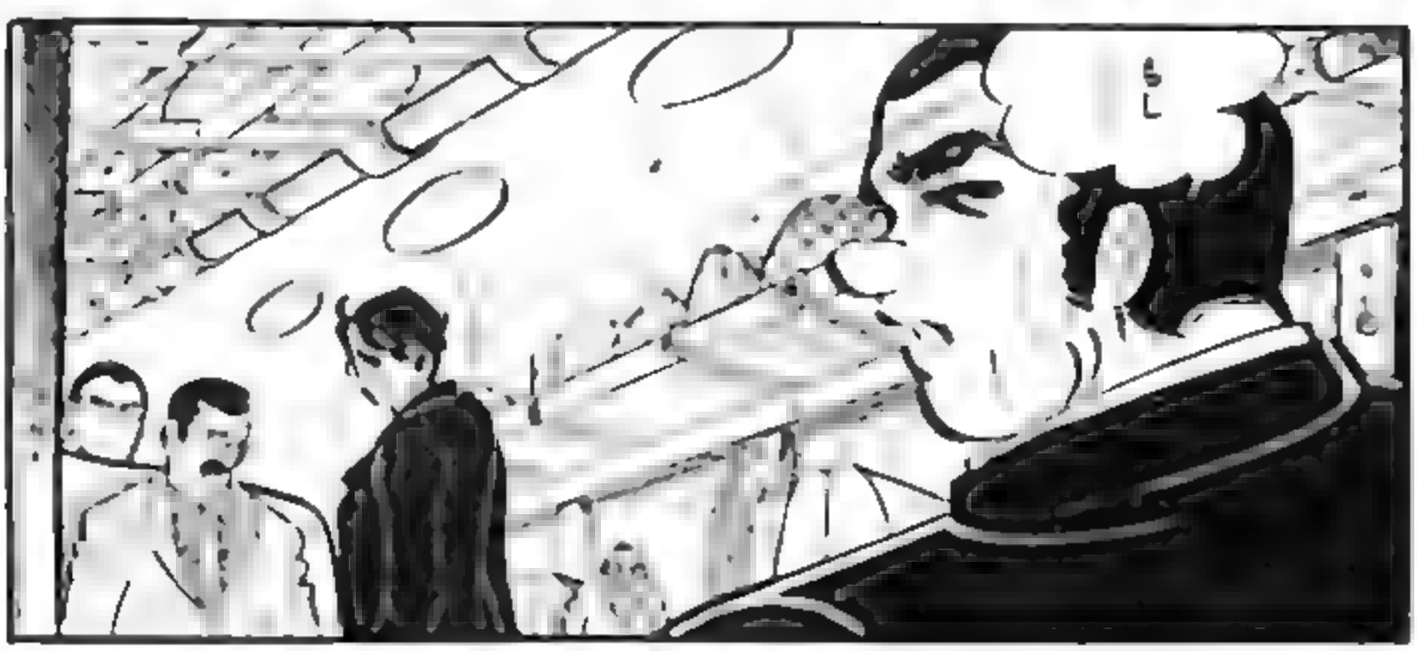
そっちゃあ
――っ
そこいらへんにも
柱を 一本
つぎたせ――っ

死んでも
はなす
かあーっ

おお
――っ
くっそ
――っ

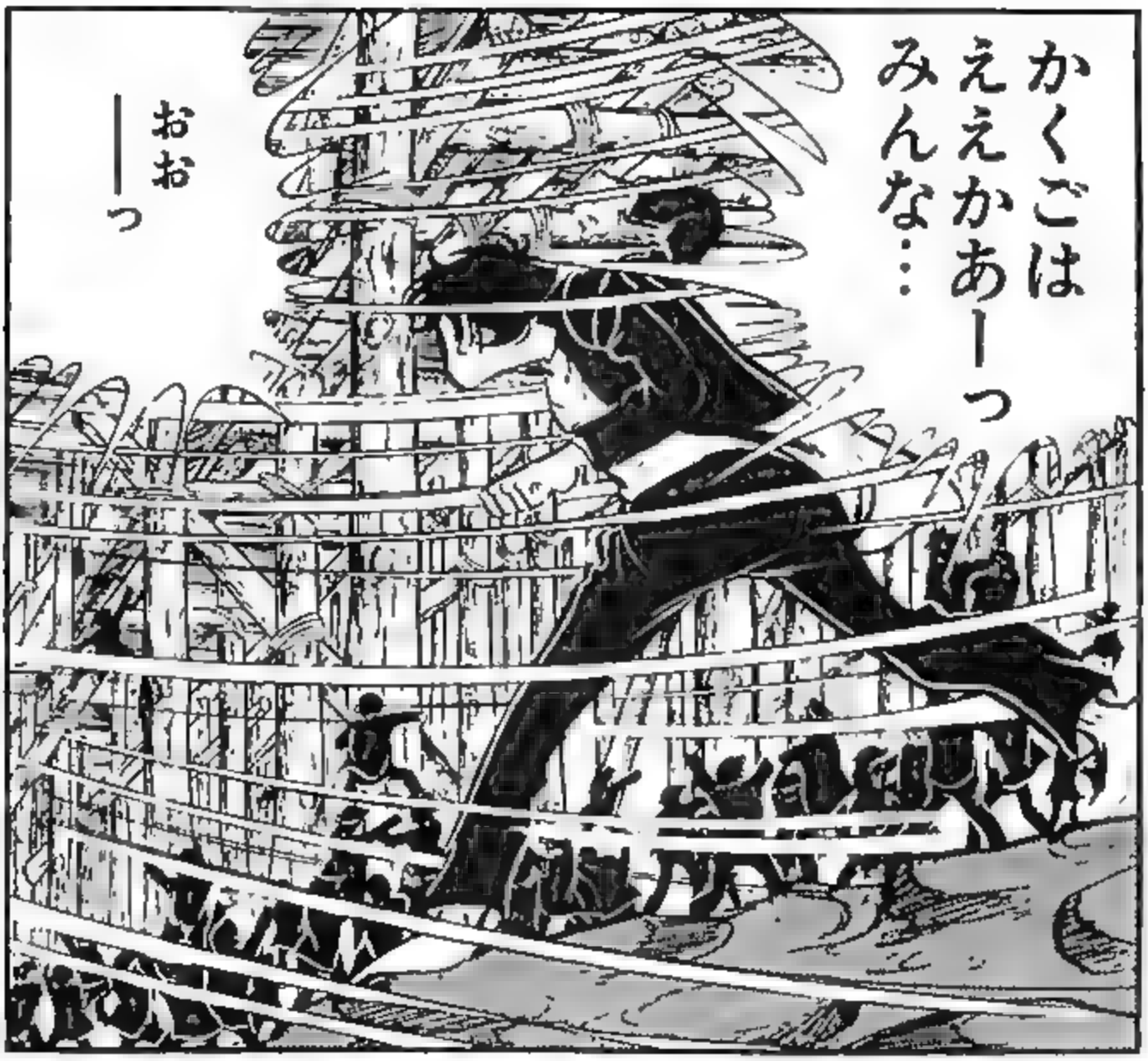

あほんだら
―っ
そっちがわが
かたむいとる
ど―っ
しっかり
ささえ
とけ
―っ





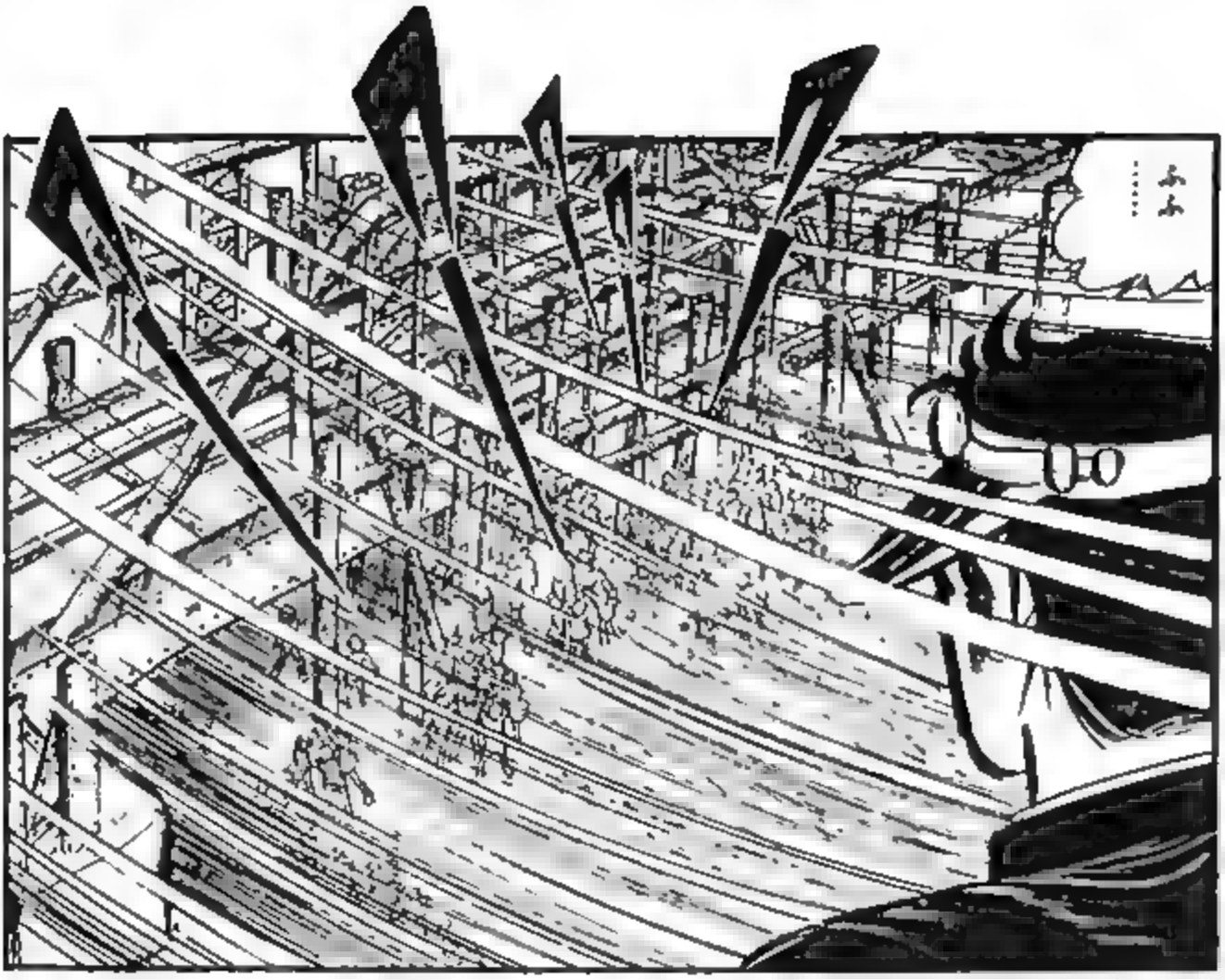
わいの
いうことを
聞かんで……
とびおりる
やつが
おったら・
このわしが・
なぐり
殺すっ!!
親分…
むりだ
……
柱を ささえ
きるのに
兵隊が たり
まへんでえーっ
くっそ
～～っ…
こう
なったら…
やれるところ
まで やるまで
じゃ!

きたっ……
ささらしよったでえ——っ
親分……
よお——し
うおお——っ


かくごはええかあーっみんな…
おお——っ

くそったれ〜〜〜

くるならきやがれてんだあ——っ
やったんで——っ!!

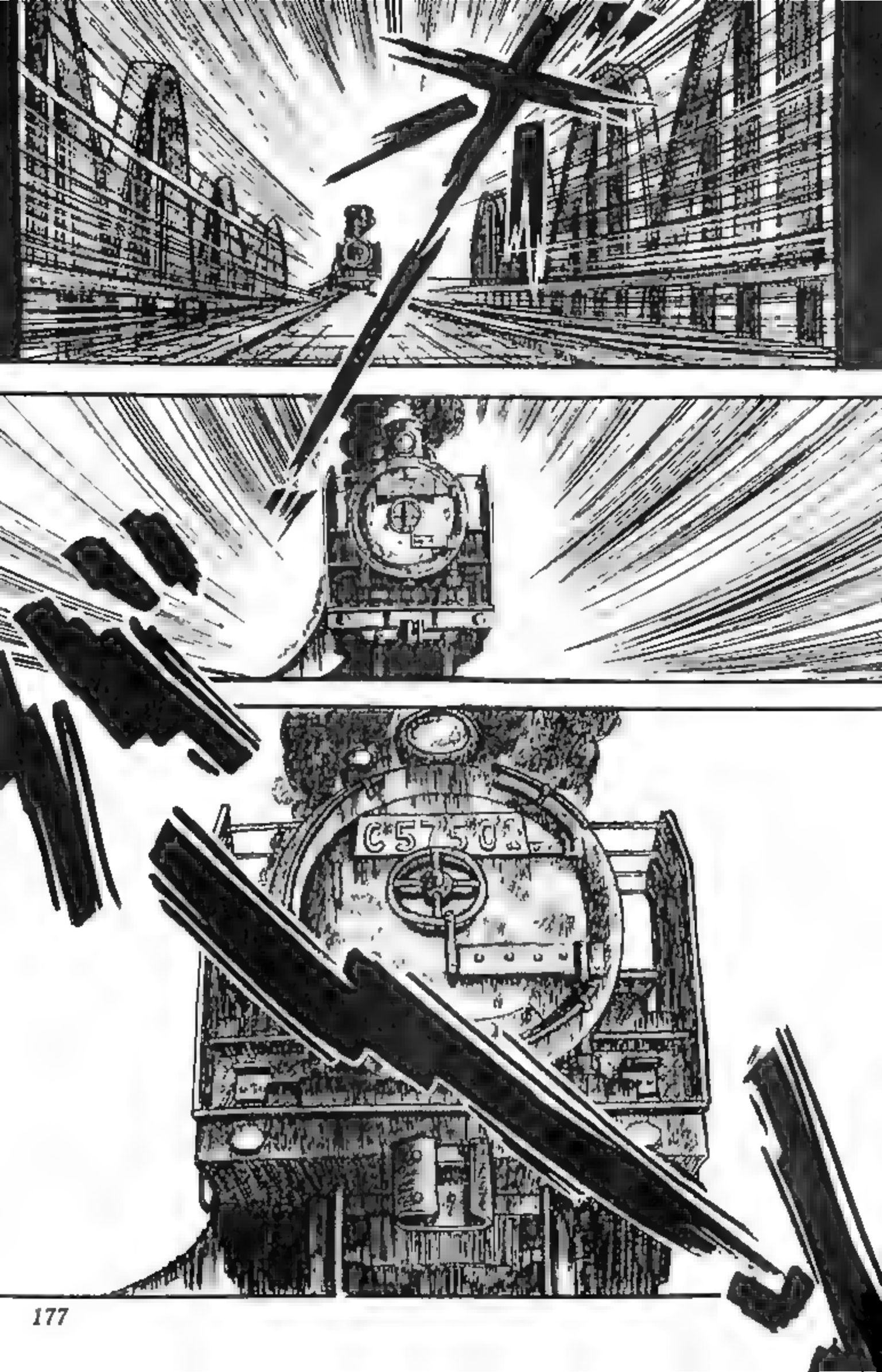

ふふ……

こういうわけかい……
万吉～～～っ……

おもしれ～～～っつぶしがいがあるぜ
西海の戸川万吉さんよ～～～っ

やろうども
いくぜーっ
おお
――っ

あわわ……
ふっふふ……
うわわ……
わわ……
西海の戸川万吉か……
うわさには聞いていたが……
そこらへんのくだらねえ政治家より…
力をもっていやがるぜ……


C5750

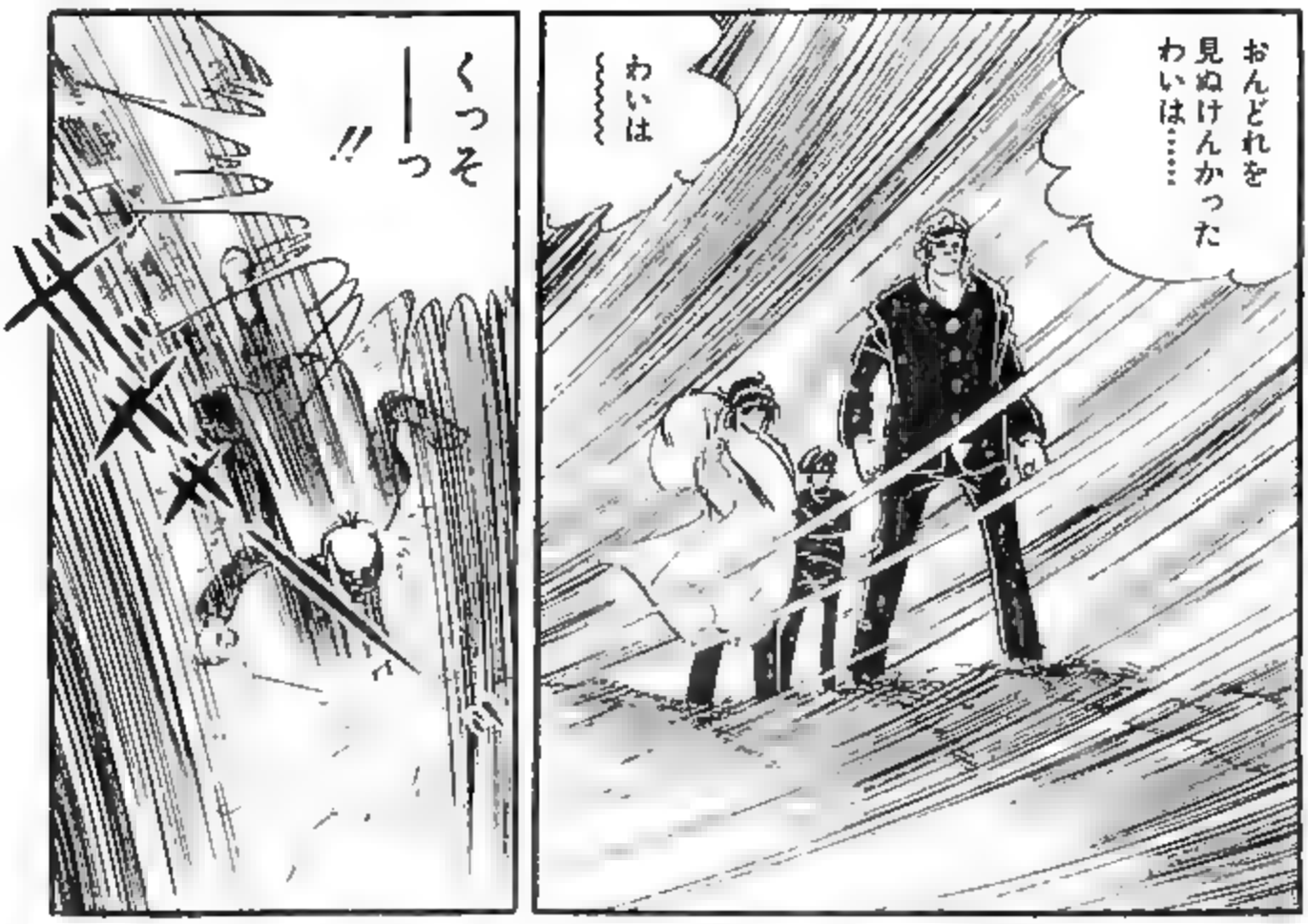
いくぜえ
——っ
恐怖の人柱の巻
おお
——っ
おんどりゃあ
——っ
この山鳥をなめくさって
——っ

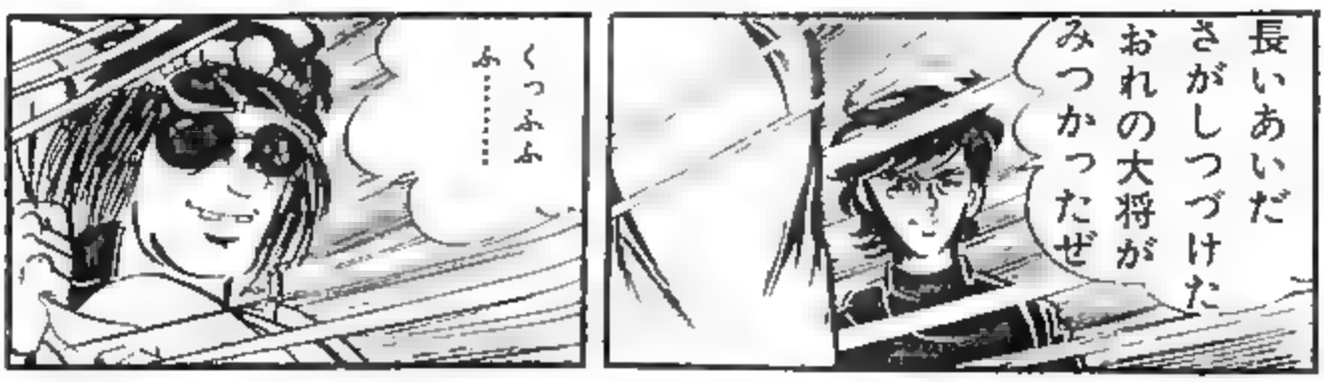
うりゃあ——っ
あっ!!あ

なんじゃおのれら——っ
じゃまさらす気ィか

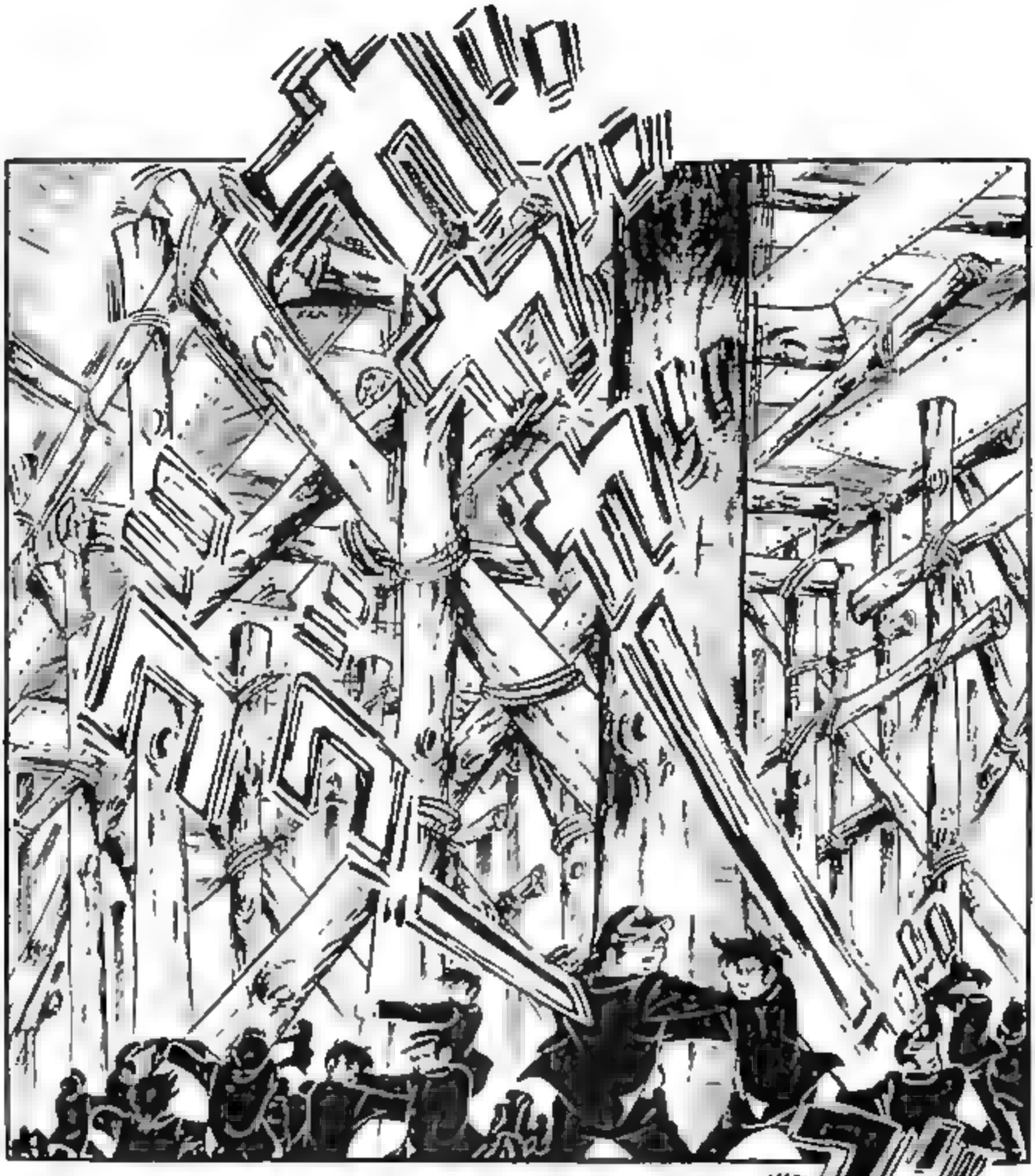
ケーッ
話はあとじゃい
そりゃあ——っ

ガ"
ガ"
ガ"
おお
――っ
す……
すまんな
山崎……
ケッ……
おのれにだけ
ええかっこ
させられるか
……
これが　すんだら
かくごしとけよ
万吉……
おう
～～～っ
万吉
～～～


おんどれを
見ぬけんかった
わいは……
わいは
〜〜〜
くっそ
——っ
!!


長いあいだ
さがしつづけた
おれの大将が
みつかったぜ
くっふふ
ふ……

死ぬなら
いっしょだあ
どちくしょう
——っ
おお
——っ
!!



きた……

きさらし
よったあ
――っ

おのれらあ
～～～っ
腹に 力を
いれろ…

そして
腹から 声を
だせえいっ
こういう声をなあ

なにを
ボケッと
さらしとんじゃ……
景気ようやったらんけっ
元気でよんでえ――っ

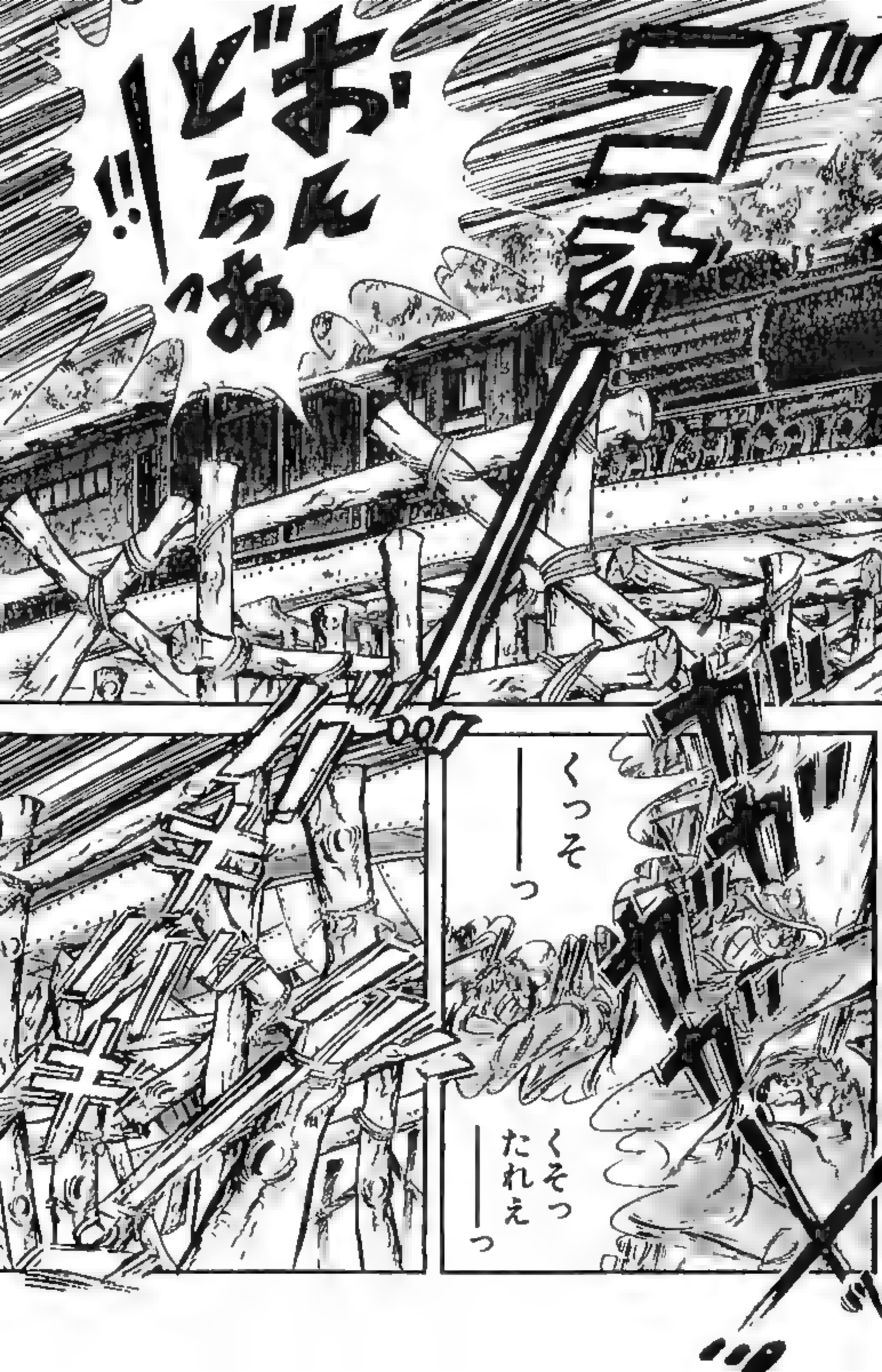
へいっ!!

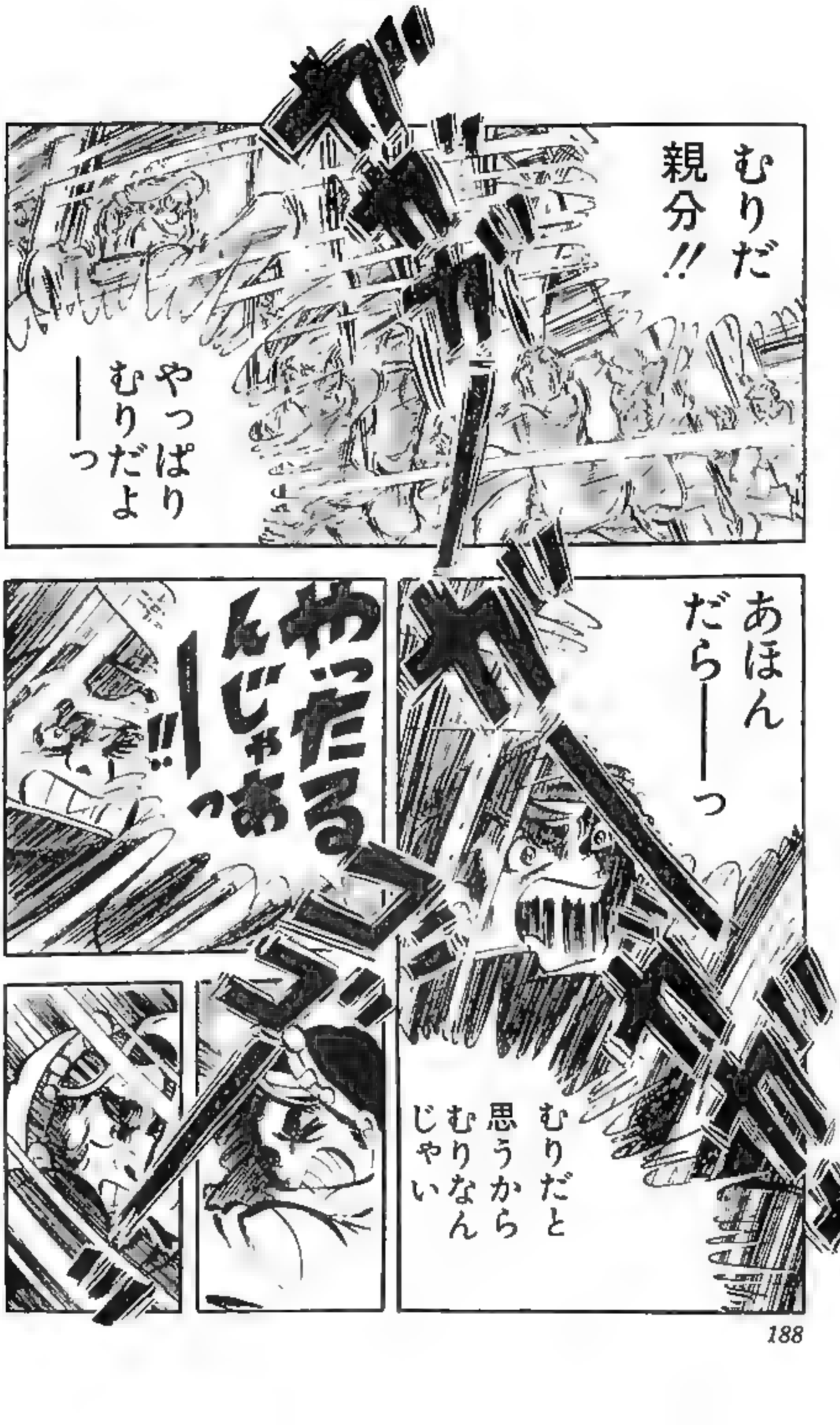
こうの世界のあるじ
こんちくしょおっ!!

ええ!!
ほんまに!!
ほんまか!?
死んだるわあー

たっ……
たのむ……
たのむぞ～～っ
万吉い～～っ
あ
あぁ
そうやあ
その調子
じゃあ――っ
汽車の一本や二本
なんやちゅうね
え――――っ!!

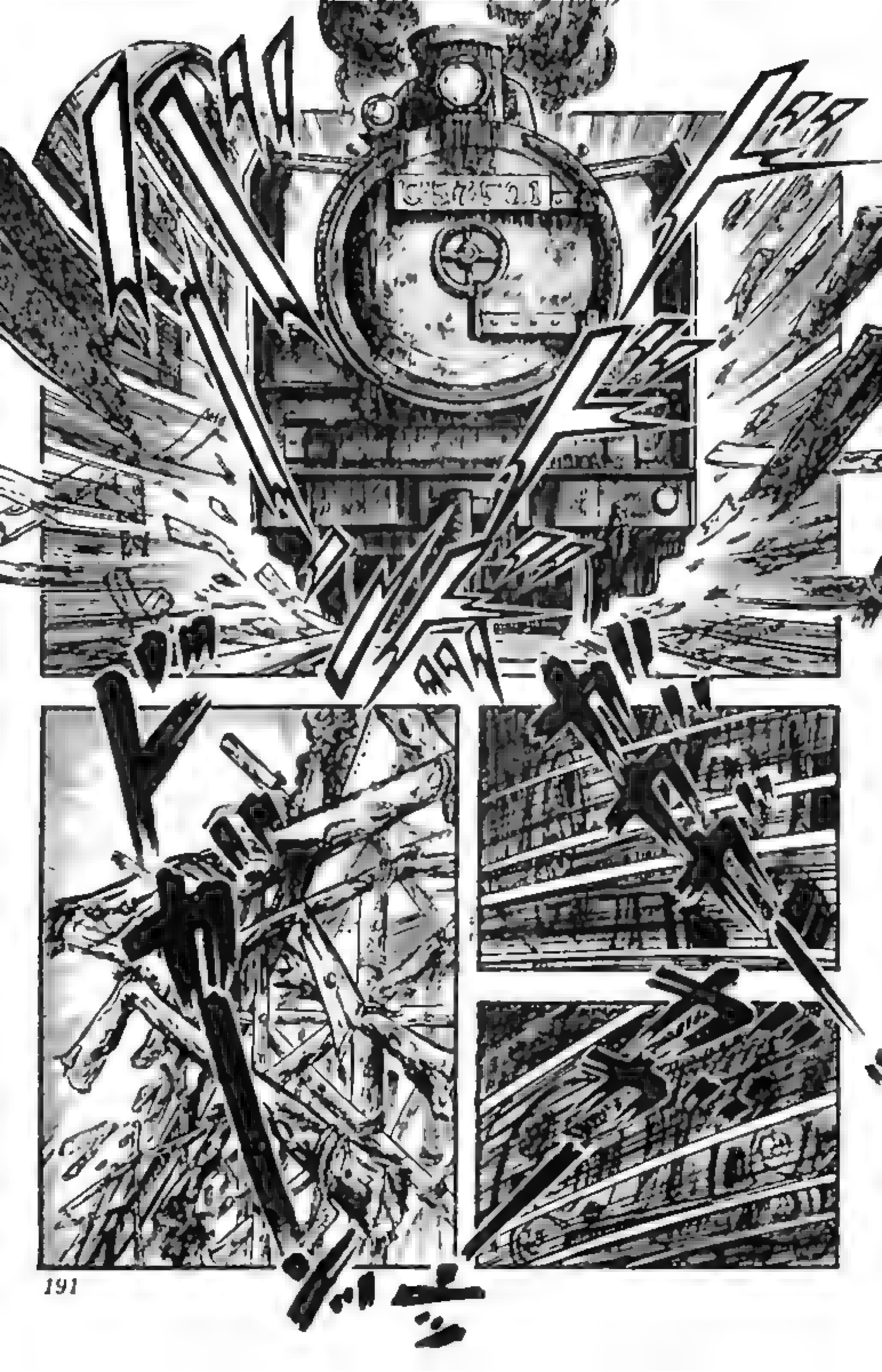
ドロロロロ
!!
たはあ!!
ドドド

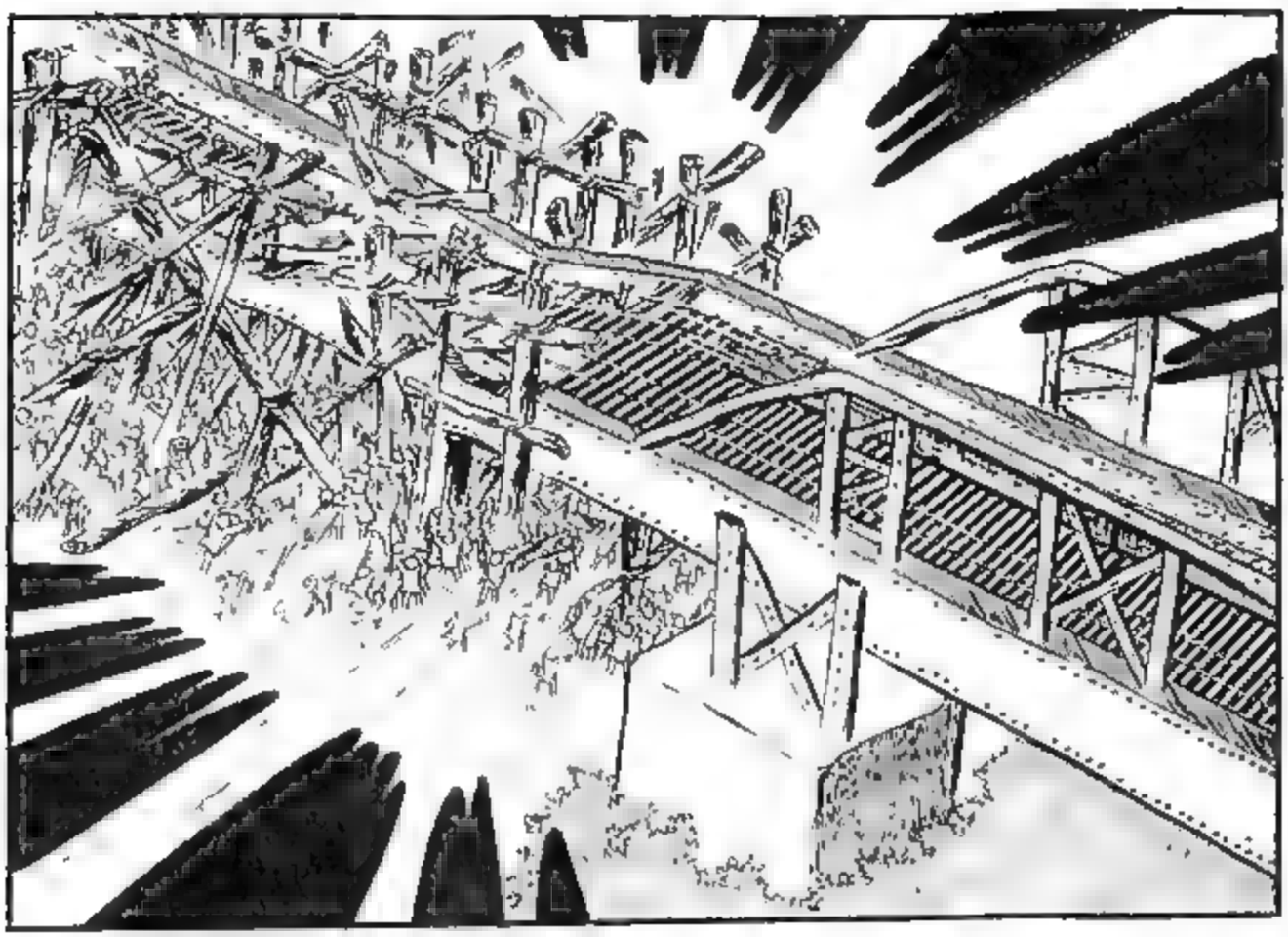

ゴォ
どぉん!!
くっそ——っ
くそったれえ——っ


むりだ
親分!!
やっぱり
むりだよ
——っ
あほん
だら——っ
むりだと
思うから
むりなん
じゃい
わったるんじゃあっ!!

きゃあ——っ
助けてくれーっ

きゃあ——っ
うわーっ
だめだあーっ
柱が折れだしよった
あかん
あかん
でえーっ
はなすな——っ
死んでも
柱を　はな
すなっ
うわ——っ
おかあちゃーん
もうちょいもうちょいじゃあ——っ
ちいっくしょおお——っ





やったあ
——っ
やった
ぞーっ

助かった…
助かった
ぞ——っ
わしら
助かったん
だあ

万吉
〜〜っ

とおった……
やった……
やったあ——っ
とおった……汽車のくそったれがあーっとおりよったでえーっ
アホンダラーっはよう逃げんかいっ
くずれよる——っ
うわ——っ
わーっ!!

親分(おやぶん)
うっ

う!!
あ!!あ!!
あ!!あ!!

うわあ
――っ
うわ
――っ
大将
――っ

親分
——っ
!!

9 暴走列車を止めろの巻（完）